

平成29年度
授業改善のための学生アンケート報告書

－ 全体集計 －

第I部

平成30年3月

拓殖大学 FD委員会

はじめに

現代社会の大学教育に対する厳しい評価に対応し、斬新で充実した教育実現への要望に応えるために、我が国の多くの大学で学生アンケートを実施し、その授業改善への活用がなされております。

本学では、他大学に先駆けて全学的な「授業改善のための学生アンケート」を実施してきました。アンケート結果にもとづく学生の意見や授業効果を分析し、これらを各種の教育改善につなげ、学生の学修意欲の向上、効果的学修の推進、国際化・情報化などに対応した教育方法の工夫・改善等に積極的に取り組んでまいりました。

また、平成19年度からは、各学部の「FD委員会」に加えて、全学的な「FD委員会」を設置し、アンケート結果に基づいた授業改善の方策を検討しております。

本報告書は、平成29年度に実施した「授業改善のための学生アンケート」について、「全体集計」（第Ⅰ部）と、「科目別集計」（第Ⅱ部）の2部構成としました。第Ⅱ部では「科目別集計（個表）」の形で授業評価に参加した全教員のデータとともに、学生の主な意見、ならびにこれに対する担当教員の所見を掲載しています。さらに、「分野別集計」を加え、学部・学科目別にきめ細かな評価分析を試みております。

本報告書を活用し、教員各位が今回のデータを過去のデータと比較検討し、他の教員や他学部の状況をも参考にしながら、今後の改善に役立てて下さるようお願いいたします。

大学・学部の教育目標の達成を目指して、学生の効果的学修のため、教育方法を工夫・改善されるようお願いいたします。

平成30年3月

拓殖大学 学長
川 名 明 夫

目次

はじめに

I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針	9
2. 実施状況	9
3. 集計結果の概要	9
4. 今後の課題	10

II 実施状況

1. 実施期間	13
2. 実施教員数	13
3. 実施科目数	14
4. アンケート回答数（延べ人数）	14
5. 学科目別実施科目数	14

III 全体集計

1. 学科目別（講義等科目）平均値・標準偏差値	16
2. 教員所属別（講義等科目）平均値・標準偏差値	
（1）専任教員所属別	17
（2）講師[非常勤]所属別	18
3. 履修登録者数別比較表	19
4. 設問項目ごとの集計結果（年度比較）	
（1）学科目別平均値	
①商学部専門科目	20
②政経学部専門科目	21
③外国語学部専門科目	22
④工学部専門科目（講義等科目、実験・実習科目別）	23
⑤国際学部専門科目	25
⑥教養教育科目	26
⑦外国語科目	27
⑧スポーツ・トレーニング科目	28
⑨教職・社教・日語科目	29
⑩ゼミ・外書講読科目	30
⑪全体（講義等科目）	31
（2）学生所属別平均値・標準偏差（講義等科目）	
①学年別	32
②学科別	33

(3) 満足度平均値	
①学科目別	35
②所属別	36
③身分別	37
④年齢別	38
5. 学科目別 回答の分析	39
6. 学部設問項目 平均値・標準偏差	43
IV コース・分野・学科別集計	
1. 商学部専門科目 (コース別)	45
2. 政経学部専門科目 (分野別)	46
3. 外国語学部専門科目 (学科別)	47
4. 工学部専門科目	
(1) 実験・実習科目 (学科別)	48
(2) 学科・学科目別 (講義等科目)	49
5. 国際学部科目	
(1) 英語群	50
(2) 地域言語群	51
(3) 基礎科目群	52
(4) 専門共通科目	53
(5) 専門コース科目	54
6. 教養教育等科目	
(1) 講義等科目 (群別)	55
(2) 外国語科目 (1 2 カ国語)	56
(3) スポーツ・トレーニング科目	57
(4) 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目	58
V 評価及び課題	
1. 商学部	60
2. 政経学部	66
3. 外国語学部	73
4. 工学部	80
5. 国際学部	88
6. 教養教育	95
7. 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目	113
参考資料	
アンケート様式	121

I 学生アンケートの実施について

1. 経緯と実施方針

拓殖大学における教育内容と方法の改善を目的とした組織的な取り組みは、1992年(平成4年)の拓殖大学自己点検評価委員会の設置から始まり、各学部到自己点検評価委員会を設置、PDCAを実施するなかで教育改革に取り組んできました。具体的には、1994年(平成6年)から始まった「学生による授業評価(現・授業改善のための学生アンケート)」の実施、全学的なFDワークショップの開催、教育・研究等業績報告書の作成、新任教員研修会の開催、教員相互の授業参観の実施などです。このうち「授業改善のための学生アンケート」は、これら一連の教育改革の柱となるものであり、次のような特色を持っています。

- (1) 大学(5学部)全体の取り組みとして実施していること。
- (2) 全教員が参加していること[平成29年度は講師(非常勤)を含め100.0%の実施率]。
- (3) 授業科目ごとの集計表には、統計処理したデータだけでなく学生からの要望・担当教員の所見及び改善に向けた取り組み方針を記載し、改善に向けて取り組んでいること。
- (4) 結果を公開し全教員が参照できるようにしていること。

なお、平成29年度の「授業改善のための学生アンケート」は、隔年実施に基づき後期に実施した。

2. 実施状況

平成29年度「授業改善のための学生アンケート」は、専任教員では対象となる教員242名全員が実施し、講師(非常勤)についても対象者366名全員が実施した。全体の実施率は、100.0%である。

実施科目数は専任教員で470科目(前年度492科目)、講師(非常勤)で537科目(前年度661科目)、合計1,007科目(前年度1,153科目)と前年度と比べ146科目減少し、学生からの述べ回答数も35,376人と、前年度を1,728人下回った。

3. 集計結果の概要

全教員の「満足度」の平均は3.99で、昨年度と比べ0.07ポイント上がったが、これは前・後期の実施時期が影響している。ちなみに、同じく後期に実施した平成27年度と比較すると、3.99でまったく同一の数値となっている。

満足度の数値は、学部別、学問分野別では大きく異なっている。たとえば専任教員の学部別では、国際学部が最も高く4.07、続いて政経学部が3.99、商学部3.98、外国語学部3.92、そして工学部3.72となっている。

分野別では、ゼミ・外書講読(4.24)が最も高く、次いで教職・社教・日本語科目(4.23)、

以下外国語学部専門科目(4.21)、各学部の外国語科目(4.12)、国際学部専門科目(4.07)、政経学部専門科目(3.99)、商学部専門科目(3.98)、教養・総合教育科目(3.88)、工学部専門科目[講義科目](3.72)と続いている。

こうした評価の差は、学問分野別に加え、授業規模や授業方法の違いによっても異なっている。たとえば、講義科目の履修登録者数別比較表をみると、履修者数が100人以下では満足度4.03に対して、301人以上では3.89と、0.14ポイント後者の方が低くなっている。

学生の学年別「満足度」をみると、高学年になればなるほど高く、また教員の身分別では特別非常勤講師が最も高く、以下准教授、教授、講師(非常勤)、助教(2人)の順となっている。教員の年齢別では、最も高いのが40歳代。逆に最も低いのが60歳代で、60の大台を超えると、加齢とともに知識や経験は豊富である一方、「満足度」が低くなる傾向が毎年みられる。熟練教員には、この点も念頭において今後授業改善に取り組んでいくことが求められる。

「満足度」以外の項目については、今後の課題も含め学部別あるいは学科目別に詳細に分析されているので、本報告書「V評価と課題」をご覧ください。

4. 今後の課題

(1) 客観性が担保できる学生アンケート実施方法の継続。

平成26年度から始めた現行の学生アンケート実施方法、すなわち教員がアンケート用紙の配布と回収にかかわらない方法を引き続き継続して実施していくこと。

(2) 「授業改善のための学生アンケート」結果が低い科目への対応。

拓殖大学の教育力の底上げを図るため、「授業改善のための学生アンケート」結果が2年連続2.9以下の科目については、前年度と同様学部長と各学部FD委員長が改善方に努める。

少子高齢化と文部科学省の定員管理の厳格化により、大学を取り巻く環境が一段と厳しくなっている折、本学においても教育の質と学生満足度の向上に向けた取り組みが強く求められている。拓殖大学FD委員会においても、「授業改善のための学生アンケート」結果を踏まえ、日々の授業改善に努めるとともに、さらに学生の満足度向上に向けた取り組みを行っていくことと致します。

平成30年3月

拓殖大学FD委員会
委員長 芦田 誠

Ⅱ 実施状況

1. 実施期間

平成29年11月1日（水）～12月8日（金）

予備日：12月11日（月）～15日（金）

2. 実施教員数

1) 専任教員

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実 施 率（％）
商 学 部	48	48	0	100.0%
政 経 学 部	54	54	0	100.0%
外国語学部	43	43	0	100.0%
工 学 部	51	51	0	100.0%
国 際 学 部	35	35	0	100.0%
兼 担	11	11	0	100.0%
合 計	242	242	0	100.0%

（注）専任教員：教授、准教授、助教、特別非常勤講師

2) 講師（非常勤）

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実 施 率（％）
商 学 部	110	110	0	100.0%
政 経 学 部	113	113	0	100.0%
外国語学部	38	38	0	100.0%
工 学 部	49	49	0	100.0%
国 際 学 部	48	48	0	100.0%
兼 担	8	8	0	100.0%
合 計	366	366	0	100.0%

（注）講師（非常勤）：客員教授を含む

3) 全体

所 属	実施対象教員数	実 施 者 数	未 実 施 者 数	実 施 率（％）
専 任 教 員	242	242	0	100.0%
講 師（非常勤）	366	366	0	100.0%
合 計	608	608	0	100.0%

3. 実施科目数

所 属	専任教員	非常勤講師	合 計
商 学 部	97	169	266
政 経 学 部	117	149	266
外 国 語 学 部	81	59	140
工 学 部	93	58	151
国 際 学 部	68	91	159
兼 担	14	11	25
合 計	470	537	1,007

4. アンケート回答数（延べ人数）

回答者の所属	1 年	2 年	3 年	4 年	無回答	合 計
商 学 部	3,491	3,064	2,221	876	16	9,668
政 経 学 部	4,008	2,854	2,916	945	31	10,754
外 国 語 学 部	1,154	601	349	135	18	2,257
工 学 部	1,854	1,893	1,539	162	82	5,530
国 際 学 部	1,847	1,482	993	211	66	4,599
無 回 答	84	111	112	26	2,235	2,568
合 計	12,438	10,005	8,130	2,355	2,448	35,376

(注) 「無回答」は、「所属学科」「学年」についての未記入を示す

5. 学科目別実施科目数

所 属	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼 担	合 計
商学部 専門科目	125	4				1	130
政経学部 専門科目	5	125	1	1	2	4	138
外国語学部 専門科目	2		95				97
工学部 講義				85			85
工学部 実験実習				27			27
国際学部 専門科目	1	1	1		50	3	56
教養科目・総合教育科目	24	28	10	6	15	6	89
外国語科目	98	84	23	23	81	10	319
スポーツ・トレーニング科目	3	3		5	2		13
教職・社教・日本語科目	4	13	6	4	2	1	30
ゼミ・外書講読	4	8	4		4		20
キャリア科目							0
合 計	266	266	140	151	156	25	1,004

(注) 教養科目・総合教育科目：国際学部基礎科目を含む

外国語科目：英語、第2外国語、選択外国語、地域言語、留学生用の日本語

Ⅲ 全体集計

1. 学科目別（講義等科目） 平均値・標準偏差

設問項目	区分	商学部 専門科目	政経学 部専門 科目	外国語 学部 専門科 目	工学部 専門科 目（講 義）	国際学 部専門 科目	教養科 目・総 合教育 科目	外国語 科目	教職・ 社教・ 日語科 目	ゼミ・ 外書講 読	キャリ ア科目	全体
		科目数： (130)	科目数： (138)	科目数： (97)	科目数： (85)	科目数： (56)	科目数： (89)	科目数： (319)	科目数： (30)	科目数： (20)	科目数： (0)	科目数： (967)
I-1	平均値	4.57	4.52	4.55	4.63	4.43	4.54	4.62	4.59	4.70		4.56
	標準偏差	0.73	0.78	0.74	0.67	0.77	0.77	0.68	0.64	0.62		0.73
I-2	平均値	3.95	3.90	3.94	3.75	3.84	3.78	4.09	4.07	3.51		3.90
	標準偏差	1.18	1.18	1.13	1.19	1.17	1.26	1.08	1.02	1.41		1.18
I-3	平均値	1.69	1.70	2.06	1.71	1.72	1.56	1.95	1.80	2.25		1.75
	標準偏差	1.08	1.06	1.11	1.00	1.13	1.05	1.08	1.06	1.17		1.08
I-5	平均値	1.55	1.51	1.59	1.60	1.65	1.47	1.60	1.67	1.97		1.56
	標準偏差	1.07	1.05	1.08	1.02	1.16	1.03	1.09	1.14	1.23		1.07
II-1	平均値	4.01	4.03	4.15	3.84	4.03	3.84	4.11	4.25	4.23		4.00
	標準偏差	1.01	0.97	0.94	1.00	1.03	1.09	0.95	0.92	0.94		1.01
II-3	平均値	4.05	4.09	4.21	3.98	4.11	3.98	4.18	4.26	4.18		4.08
	標準偏差	0.91	0.90	0.86	0.91	0.92	0.93	0.88	0.83	0.93		0.91
II-5	平均値	4.10	4.12	4.33	4.00	4.15	4.01	4.26	4.37	4.41		4.13
	標準偏差	1.04	1.01	0.91	1.05	1.02	1.09	0.95	0.90	0.85		1.02
II-6	平均値	4.07	4.06	4.21	3.93	4.09	3.95	4.15	4.27	4.26		4.06
	標準偏差	1.00	0.98	0.93	1.01	1.03	1.06	0.94	0.92	0.97		1.00
II-7	平均値	4.01	4.09	4.19	3.90	4.20	3.95	4.21	4.40	4.29		4.07
	標準偏差	1.00	0.99	0.92	0.97	0.95	1.02	0.93	0.80	0.91		0.98
II-8	平均値	3.79	3.79	4.10	3.77	3.80	3.69	4.09	4.02	4.02		3.85
	標準偏差	1.05	1.04	0.95	0.98	1.12	1.11	0.94	1.03	1.06		1.04
II-9	平均値	3.77	3.74	4.08	3.49	3.92	3.69	3.96	4.07	4.13		3.79
	標準偏差	1.02	0.97	0.92	1.03	1.03	1.07	0.98	0.91	0.91		1.02
II-10	平均値	3.77	3.79	3.99	3.48	3.99	3.73	3.81	4.17	4.20		3.78
	標準偏差	1.03	1.00	0.97	1.03	1.02	1.09	1.05	0.89	0.94		1.04
III	平均値	3.98	3.99	4.21	3.72	4.07	3.88	4.12	4.23	4.24		3.99
	標準偏差	0.98	0.95	0.94	1.00	1.00	1.05	0.97	0.89	0.91		0.99

○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.44	3.51	3.35	3.53	3.35	3.43	3.37	3.32	3.27		3.43
	標準偏差	0.76	0.74	0.73	0.77	0.72	0.78	0.75	0.62	0.74		0.75
II-4	平均値	3.26	3.27	3.16	3.27	3.22	3.26	3.20	3.18	3.12		3.24
	標準偏差	0.66	0.67	0.60	0.63	0.62	0.66	0.60	0.56	0.53		0.64

(注) I-4は、複数回答項目のため、「5. 回答の分布」を参照

2. 教員所属別（講義等科目）

（1）専任教員所属別

設問項目	区分	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼任教員	専任教員全体	講師全体	全体
		科目数： (97)	科目数： (116)	科目数： (81)	科目数： (69)	科目数： (66)	科目数： (14)	科目数： (443)	科目数： (524)	科目数： (967)
I-1	平均値	4.59	4.55	4.62	4.62	4.48	4.55	4.57	4.55	4.56
	標準偏差	0.71	0.76	0.69	0.68	0.74	0.75	0.73	0.74	0.73
I-2	平均値	4.00	4.07	3.94	3.82	3.85	3.75	3.97	3.82	3.90
	標準偏差	1.13	1.08	1.16	1.16	1.18	1.29	1.14	1.23	1.18
I-3	平均値	1.71	1.74	2.05	1.71	1.82	1.70	1.76	1.73	1.75
	標準偏差	1.09	1.09	1.15	0.99	1.16	1.15	1.09	1.06	1.08
I-5	平均値	1.55	1.53	1.61	1.60	1.74	1.61	1.58	1.53	1.56
	標準偏差	1.06	1.07	1.09	1.01	1.21	1.15	1.08	1.05	1.07
II-1	平均値	4.01	4.06	4.20	3.89	4.15	3.96	4.04	3.96	4.00
	標準偏差	1.00	0.97	0.94	0.97	0.99	1.06	0.99	1.03	1.01
II-3	平均値	4.05	4.10	4.26	4.02	4.18	3.98	4.09	4.07	4.08
	標準偏差	0.89	0.89	0.85	0.88	0.90	0.99	0.90	0.92	0.91
II-5	平均値	4.10	4.15	4.36	4.03	4.26	4.07	4.14	4.11	4.13
	標準偏差	1.02	0.99	0.91	1.03	0.97	1.12	1.01	1.04	1.02
II-6	平均値	4.06	4.09	4.26	3.97	4.24	4.00	4.09	4.02	4.06
	標準偏差	0.99	0.97	0.92	0.98	0.96	1.05	0.98	1.02	1.00
II-7	平均値	4.01	4.09	4.26	3.95	4.25	3.92	4.07	4.06	4.07
	標準偏差	0.97	0.99	0.90	0.96	0.93	1.07	0.97	0.99	0.98
II-8	平均値	3.79	3.82	4.13	3.81	3.94	3.65	3.84	3.85	3.85
	標準偏差	1.04	1.05	0.96	0.97	1.09	1.16	1.04	1.05	1.04
II-9	平均値	3.77	3.78	4.12	3.51	4.07	3.85	3.80	3.78	3.79
	標準偏差	1.00	0.98	0.93	1.01	0.96	1.04	1.00	1.04	1.02
II-10	平均値	3.78	3.83	4.07	3.49	4.07	3.93	3.81	3.74	3.78
	標準偏差	1.01	1.00	0.97	1.02	1.00	1.05	1.02	1.06	1.04
III	平均値	3.97	4.03	4.24	3.75	4.19	4.10	4.01	3.96	3.99
	標準偏差	0.97	0.95	0.96	0.97	0.95	0.98	0.97	1.02	0.99

○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.46	3.47	3.35	3.54	3.31	3.45	3.45	3.42	3.43
	標準偏差	0.74	0.75	0.75	0.77	0.71	0.78	0.75	0.76	0.75
II-4	平均値	3.24	3.26	3.17	3.27	3.21	3.18	3.24	3.24	3.24
	標準偏差	0.63	0.65	0.65	0.63	0.63	0.59	0.64	0.64	0.64

（注）専任教員：教授、准教授、助教、特別非常勤講師

I-4は、複数回答項目のため、「5. 学科目別 回答の分布」を参照

(2) 講師（非常勤）所属別

設問項目	区分	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	兼任教員	講師全体	専任教員全体	全体
		科目数: (166)	科目数: (147)	科目数: (59)	科目数: (50)	科目数: (91)	科目数: (11)	科目数: (524)	科目数: (443)	科目数: (967)
I-1	平均値	4.57	4.54	4.52	4.62	4.53	4.54	4.55	4.57	4.56
	標準偏差	0.75	0.76	0.75	0.67	0.73	0.64	0.74	0.73	0.73
I-2	平均値	3.84	3.82	3.84	3.62	3.88	4.14	3.82	3.97	3.90
	標準偏差	1.24	1.24	1.22	1.24	1.18	0.87	1.23	1.14	1.18
I-3	平均値	1.80	1.67	1.67	1.62	1.83	1.92	1.73	1.76	1.75
	標準偏差	1.09	1.03	1.00	0.97	1.10	1.26	1.06	1.09	1.08
I-5	平均値	1.57	1.49	1.44	1.49	1.57	1.89	1.53	1.58	1.56
	標準偏差	1.09	1.02	0.98	0.96	1.06	1.35	1.05	1.08	1.07
II-1	平均値	3.99	3.98	3.87	3.74	4.04	4.13	3.96	4.04	4.00
	標準偏差	1.04	1.00	1.05	1.08	1.01	0.88	1.03	0.99	1.01
II-3	平均値	4.08	4.07	4.09	3.92	4.12	4.10	4.07	4.09	4.08
	標準偏差	0.93	0.89	0.92	0.94	0.93	0.91	0.92	0.90	0.91
II-5	平均値	4.14	4.12	4.14	3.86	4.18	4.32	4.11	4.14	4.13
	標準偏差	1.03	1.02	1.02	1.16	1.01	0.88	1.04	1.01	1.02
II-6	平均値	4.04	4.03	4.01	3.86	4.08	4.09	4.02	4.09	4.06
	標準偏差	1.02	1.01	1.02	1.08	1.00	0.97	1.02	0.98	1.00
II-7	平均値	4.07	4.11	4.06	3.86	4.09	4.09	4.06	4.07	4.07
	標準偏差	1.01	0.96	0.96	1.01	1.00	0.94	0.99	0.97	0.98
II-8	平均値	3.90	3.83	3.89	3.66	3.92	3.96	3.85	3.84	3.85
	標準偏差	1.05	1.05	1.02	1.03	1.06	1.01	1.05	1.04	1.04
II-9	平均値	3.81	3.76	3.72	3.50	3.96	4.00	3.78	3.80	3.79
	標準偏差	1.04	1.00	1.10	1.09	1.00	0.96	1.04	1.00	1.02
II-10	平均値	3.76	3.76	3.63	3.48	3.90	4.02	3.74	3.81	3.78
	標準偏差	1.05	1.04	1.09	1.08	1.04	0.92	1.06	1.02	1.04
III	平均値	3.98	3.99	3.92	3.72	4.09	4.13	3.96	4.01	3.99
	標準偏差	1.02	0.98	1.05	1.07	1.00	0.93	1.02	0.97	0.99

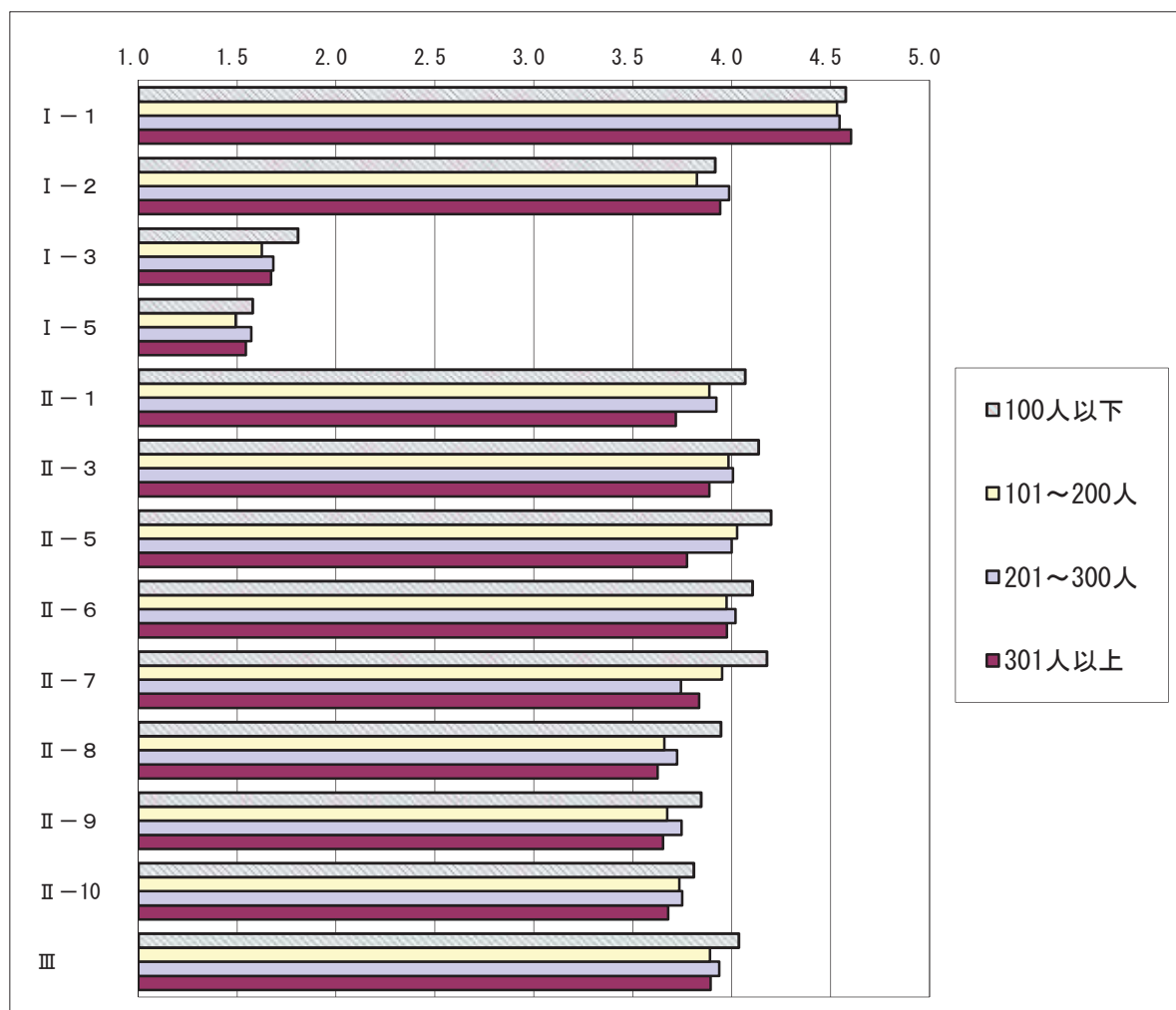
○3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.43	3.43	3.47	3.44	3.30	3.32	3.42	3.45	3.43
	標準偏差	0.78	0.73	0.76	0.78	0.77	0.65	0.76	0.75	0.75
II-4	平均値	3.29	3.22	3.27	3.20	3.17	3.24	3.24	3.24	3.24
	標準偏差	0.69	0.63	0.63	0.62	0.59	0.52	0.64	0.64	0.64

(注) 講師（非常勤）：客員教授を含む

I-4は、複数回答項目のため、「5. 学科目別 回答の分布」を参照

3. 履修登録者数別比較表（講義科目）



(注) I-4受講動機(複数回答)、II-2難易度、II-4進度(3の回答が適切)は回答の基準が異なるため、掲載していない。

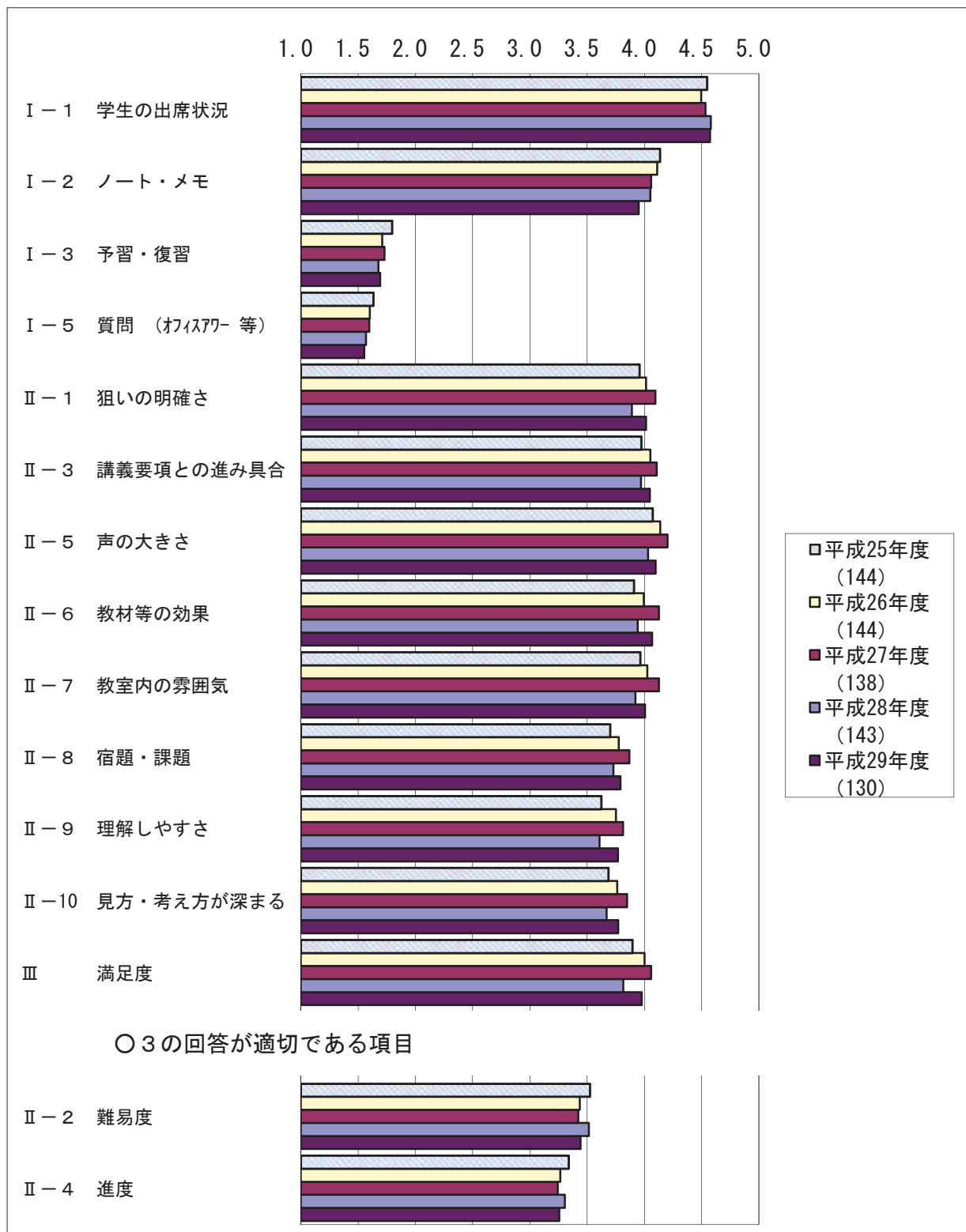
○ 平均値

区分		100人以下	101～200人	201～300人	301人以上
科目数		845	92	26	4
I-1	学生の出席状況	4.58	4.53	4.54	4.60
I-2	ノート・メモ	3.92	3.82	3.99	3.94
I-3	予習・復習	1.81	1.62	1.68	1.67
I-5	質問(オフィスアワー等)	1.58	1.49	1.57	1.54
II-1	狙いの明確さ	4.07	3.89	3.92	3.72
II-3	講義要項との進み具合	4.13	3.98	4.01	3.89
II-5	声の大きさ	4.20	4.03	4.00	3.77
II-6	教材等の効果	4.11	3.97	4.02	3.98
II-7	教室内の雰囲気	4.18	3.95	3.74	3.83
II-8	宿題・課題	3.95	3.66	3.72	3.63
II-9	理解しやすさ	3.85	3.67	3.75	3.65
II-10	見方・考え方が深まる	3.81	3.73	3.75	3.68
III	満足度	4.03	3.89	3.94	3.89

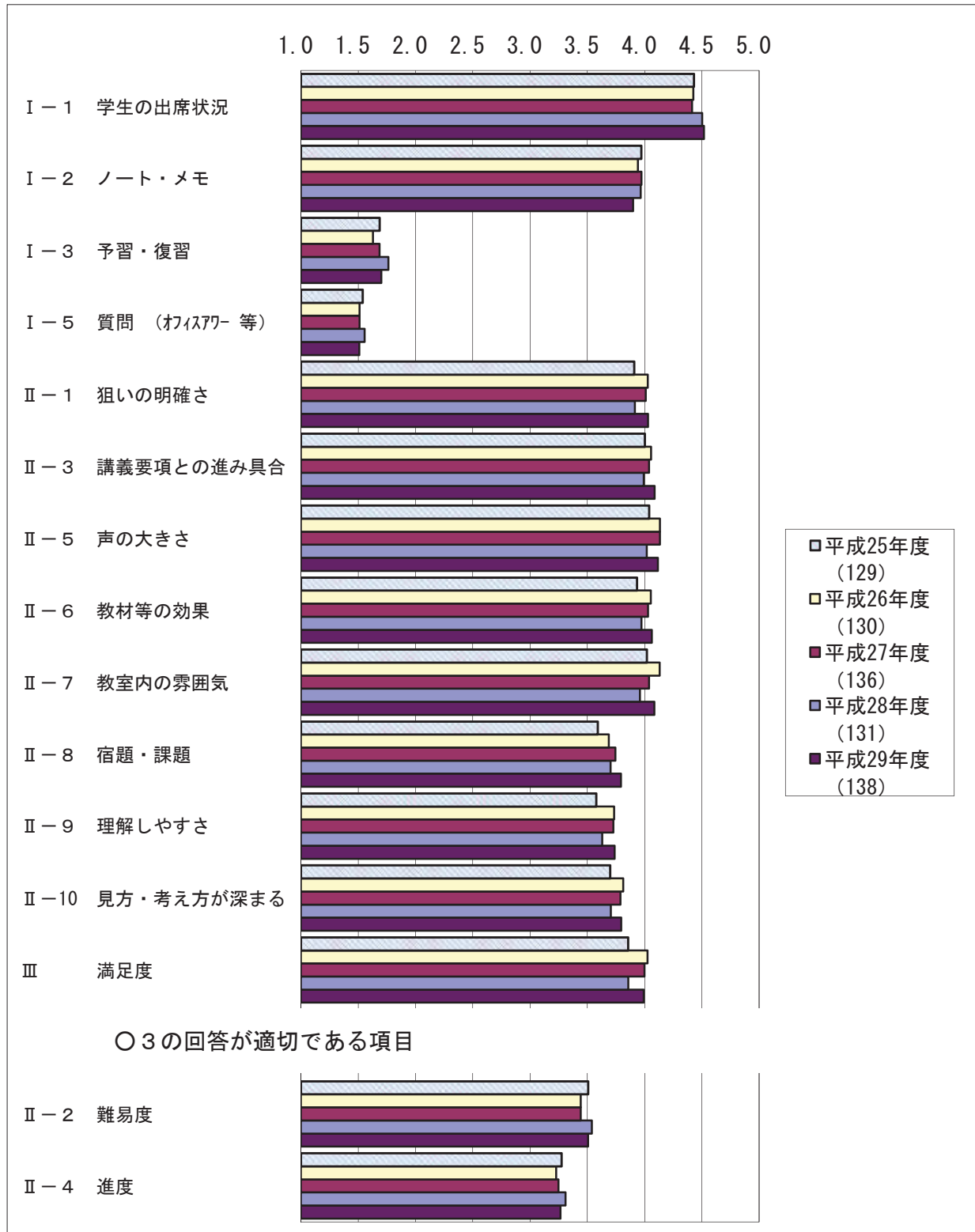
4. 設問項目ごとの集計結果（年度比較）

（1）学科目別平均値

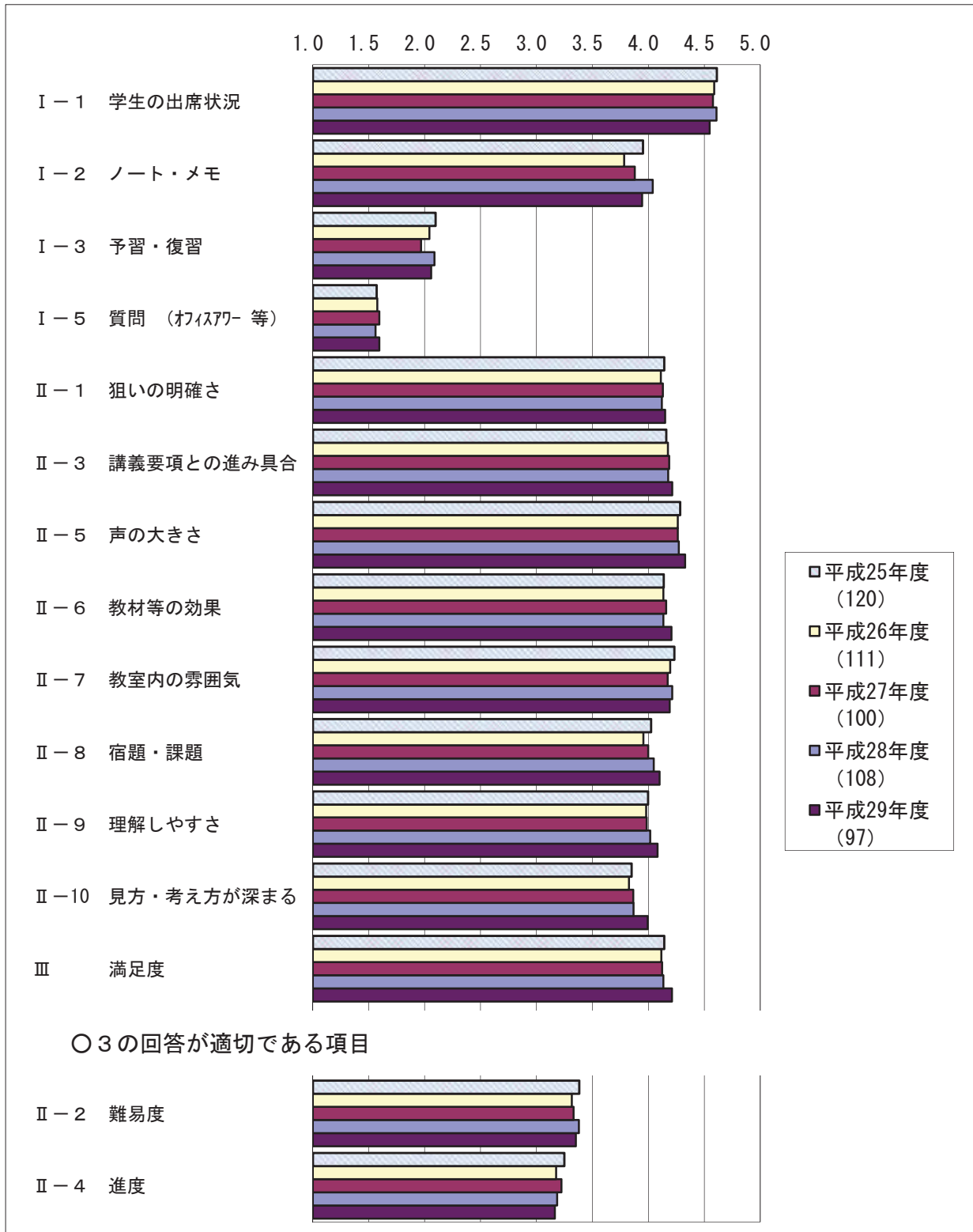
① 商学部専門科目



② 政経学部専門科目

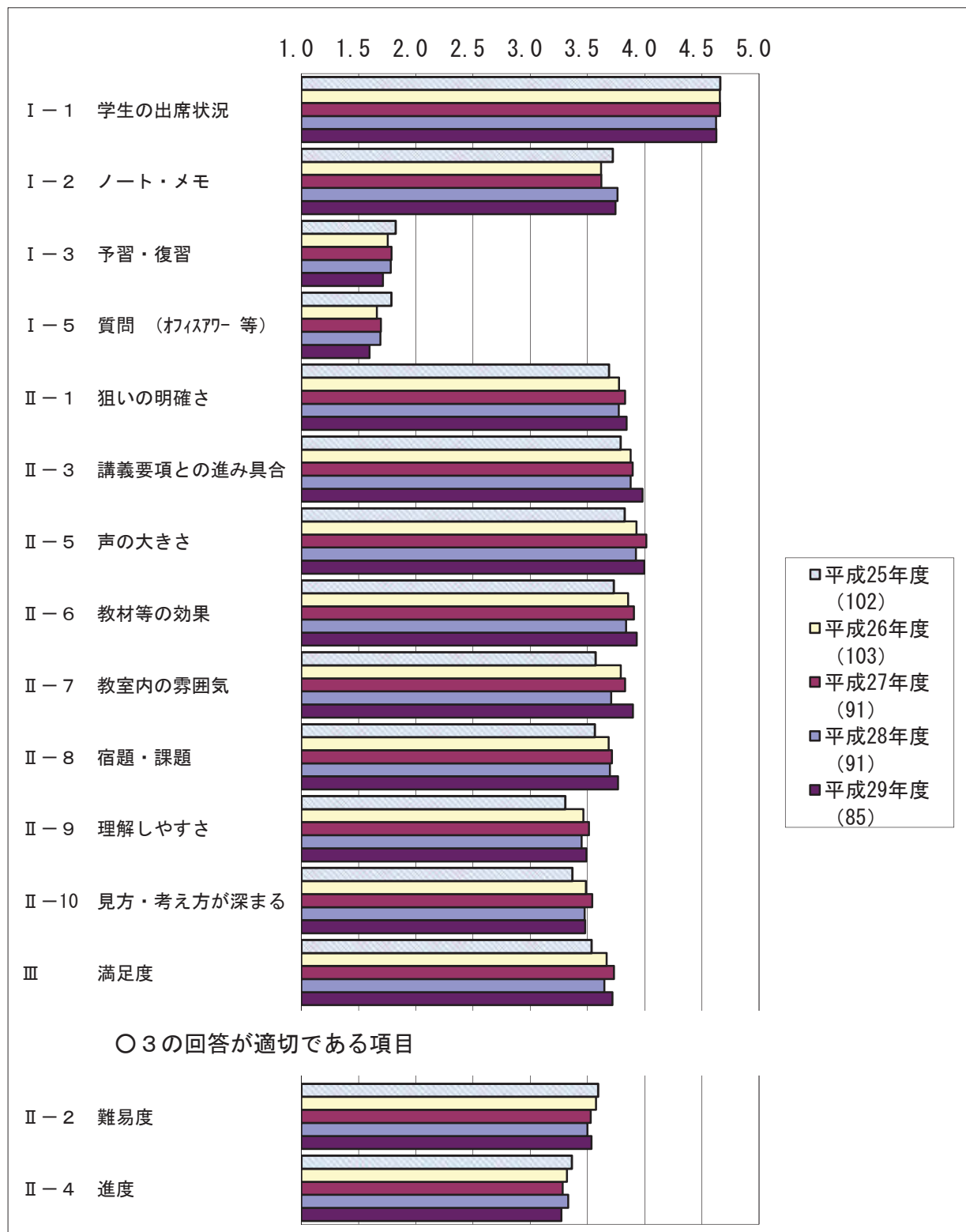


③ 外国語学部専門科目

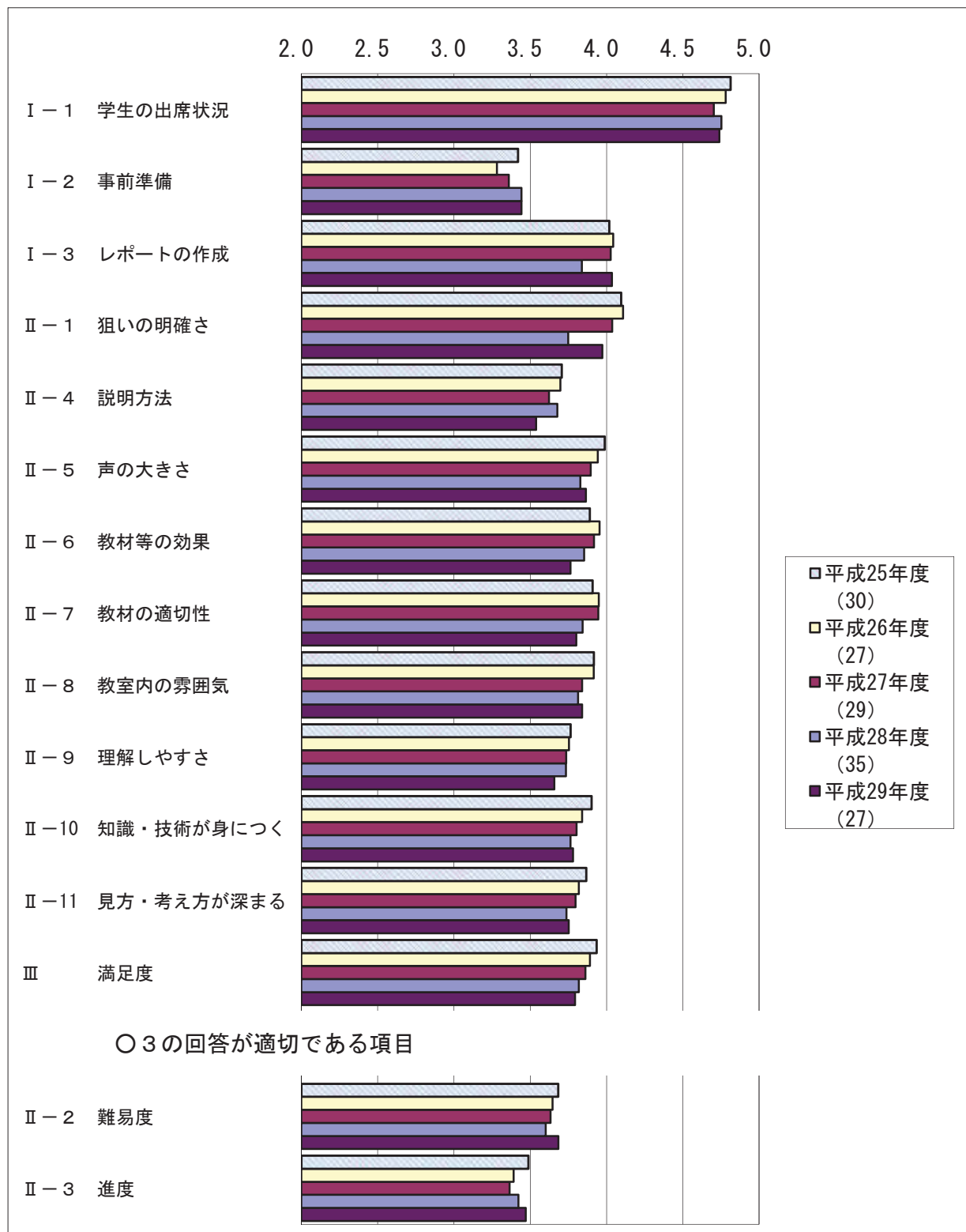


④ 工学部専門科目

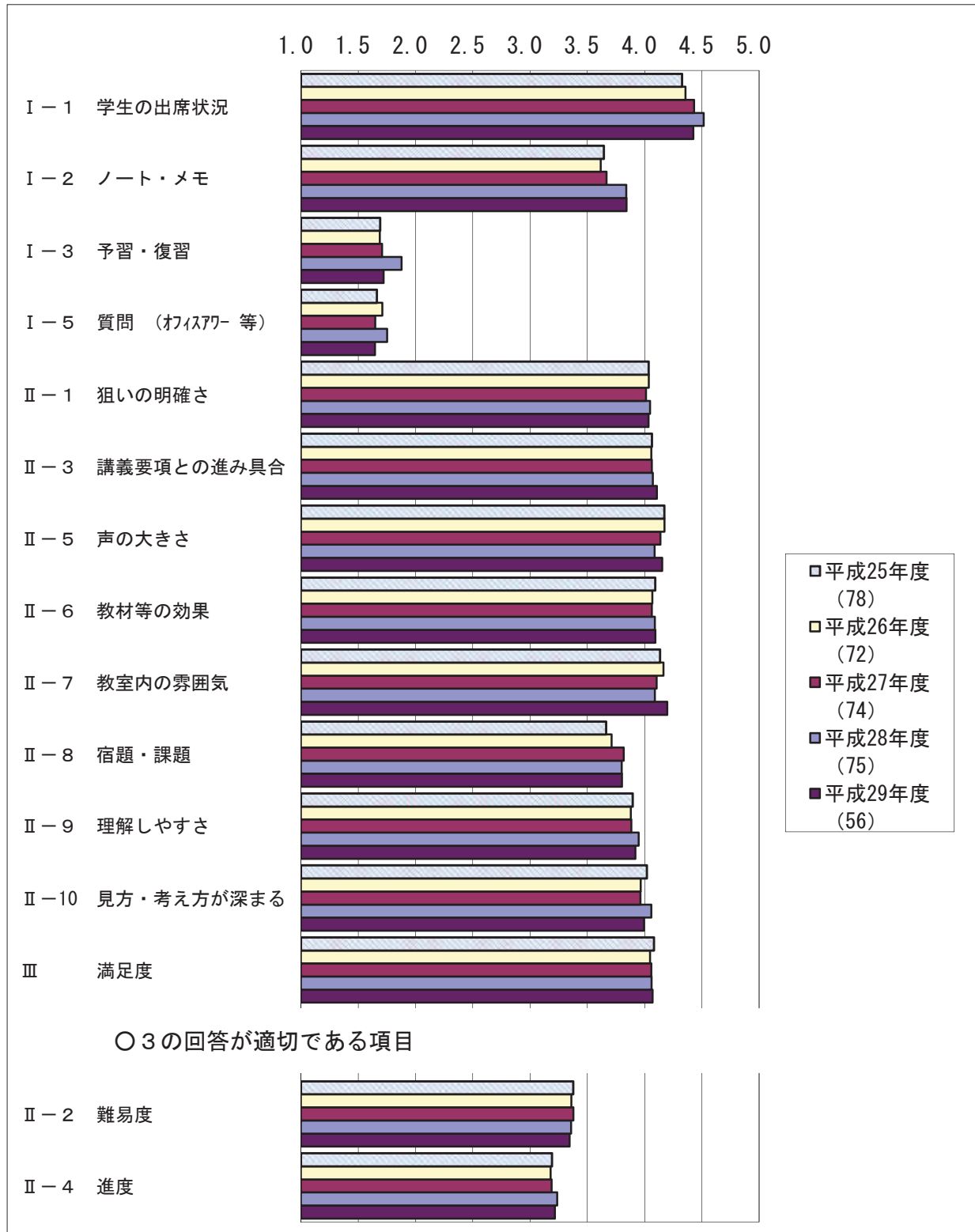
・講義等科目



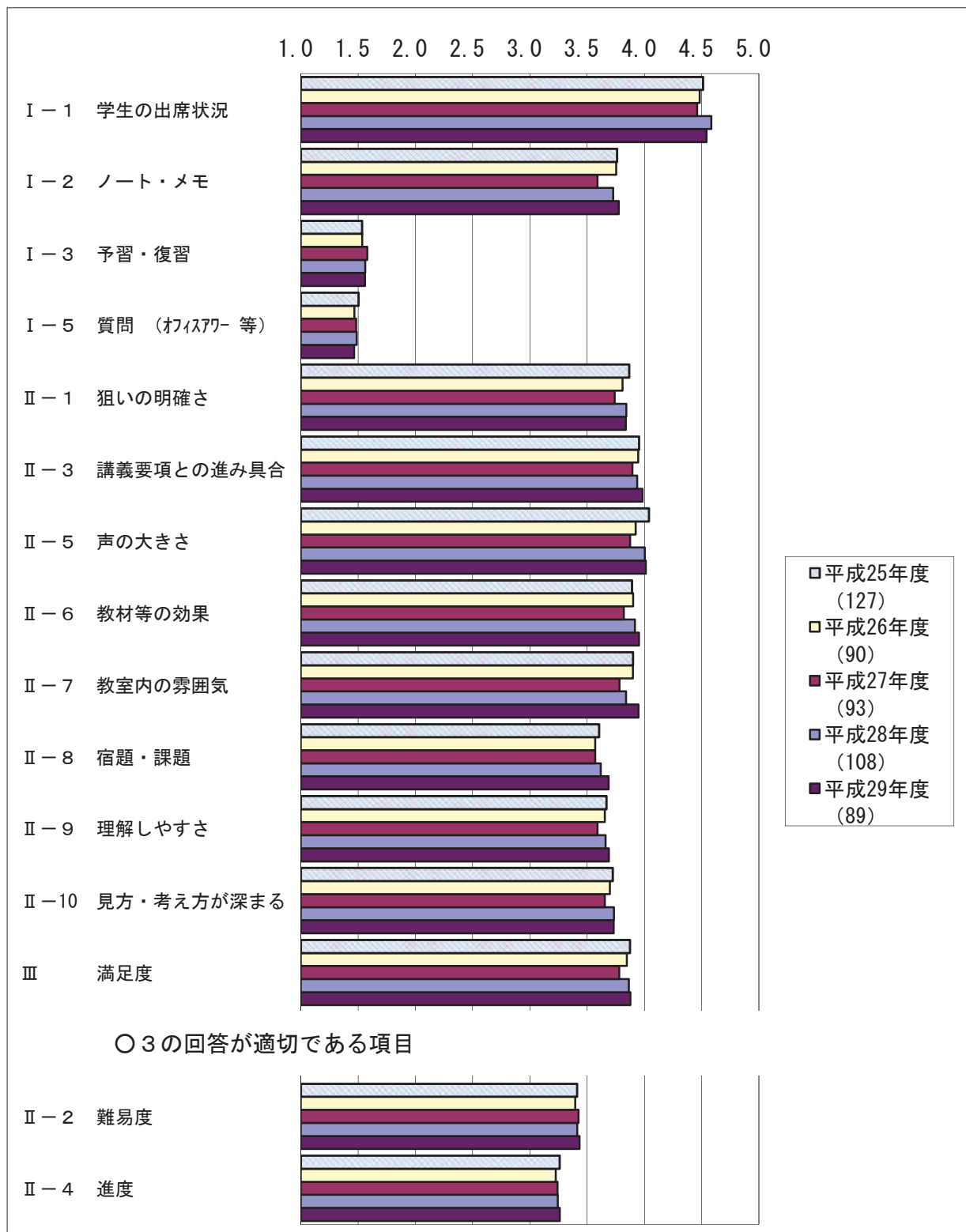
・工学部 実験・実習科目



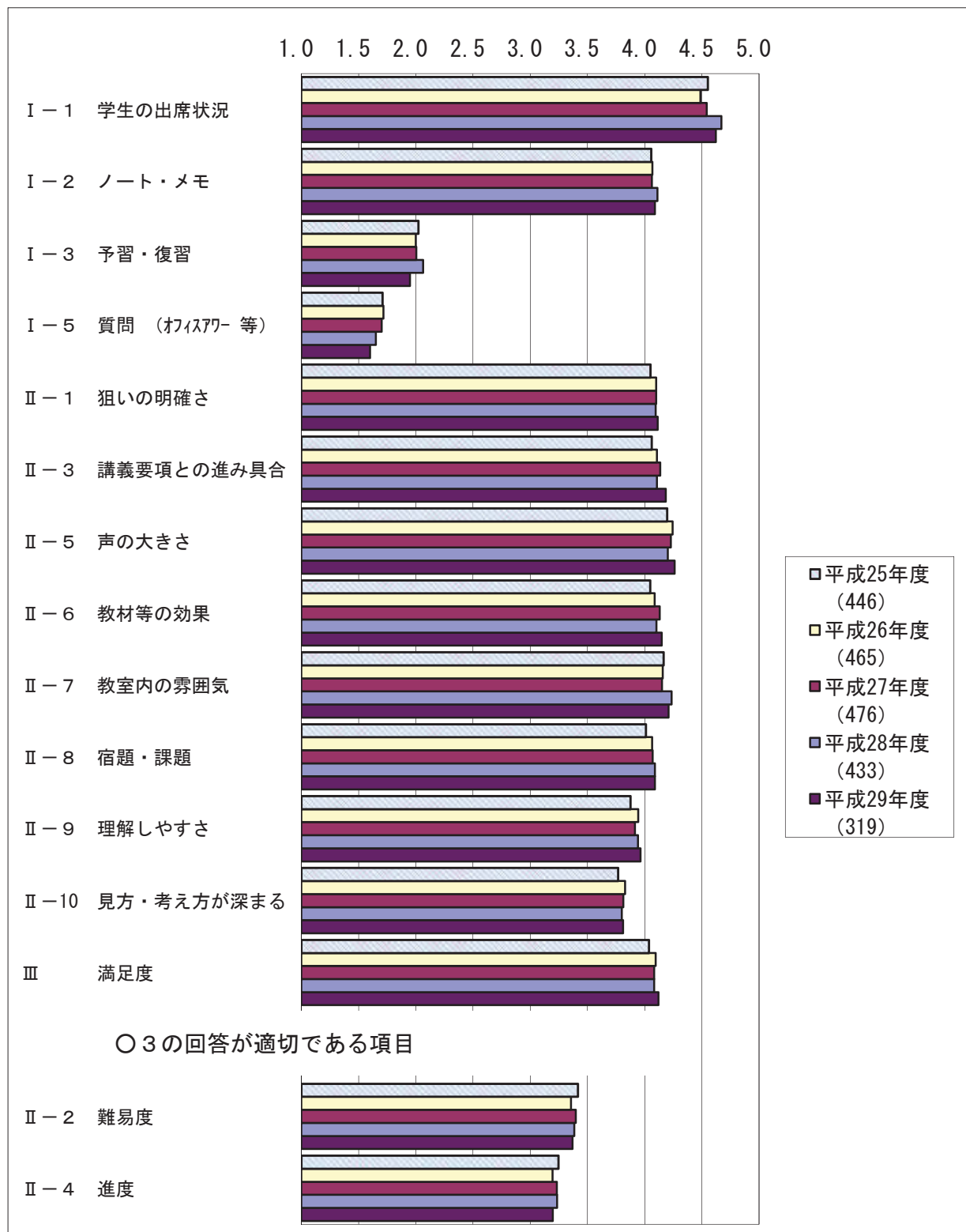
⑤ 国際学部専門科目



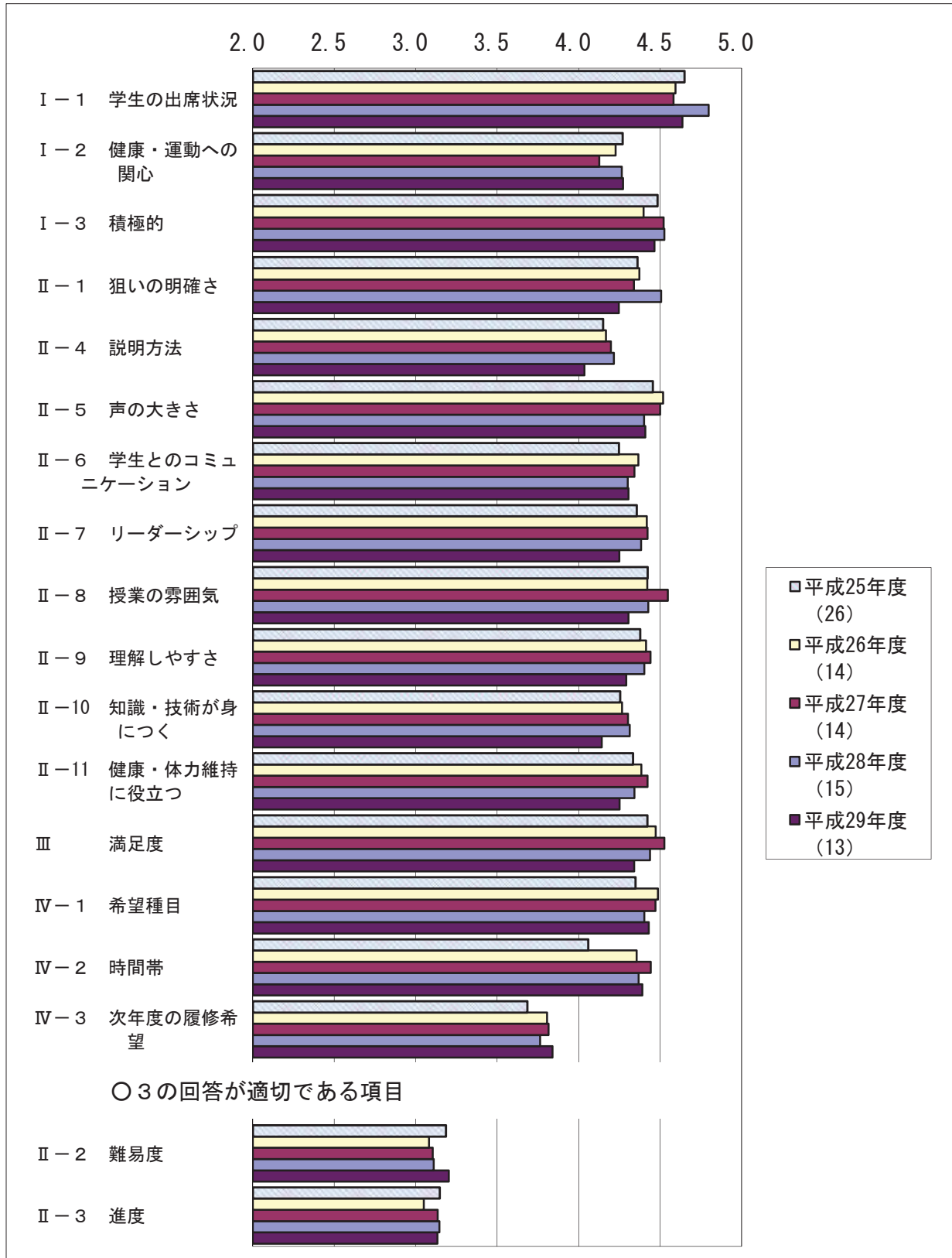
⑥ 教養教育科目



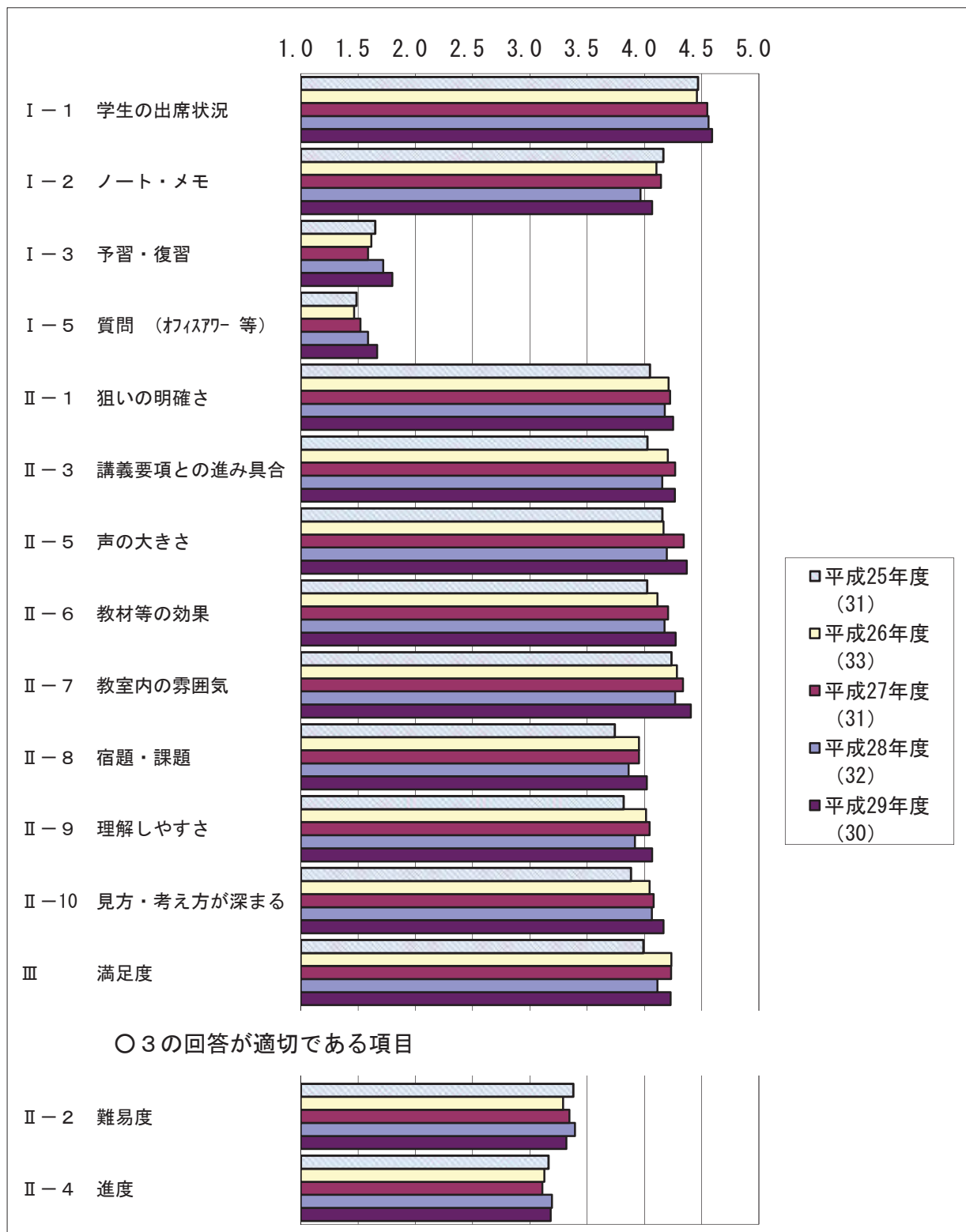
⑦ 外国語科目



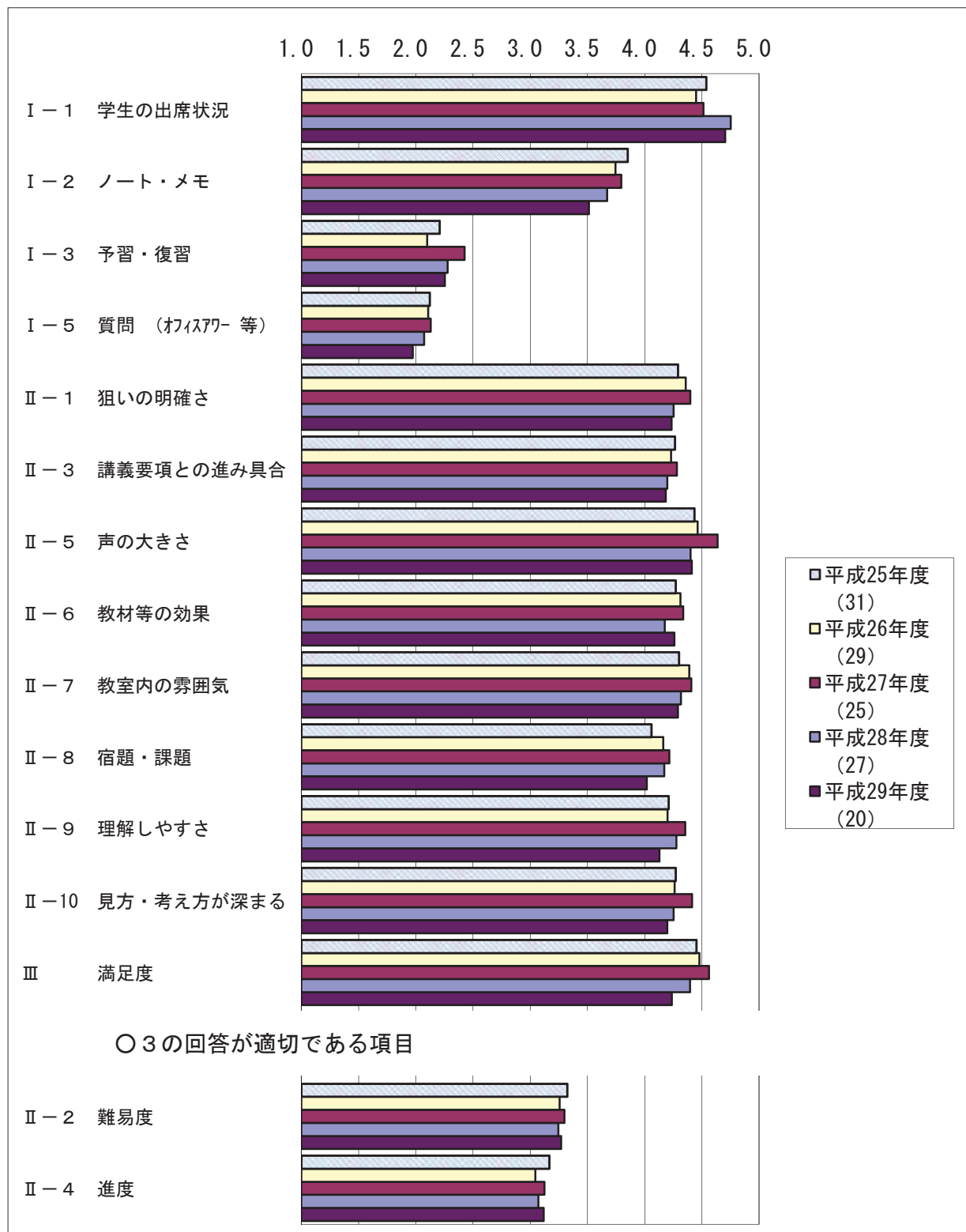
⑧ スポーツ・トレーニング科目



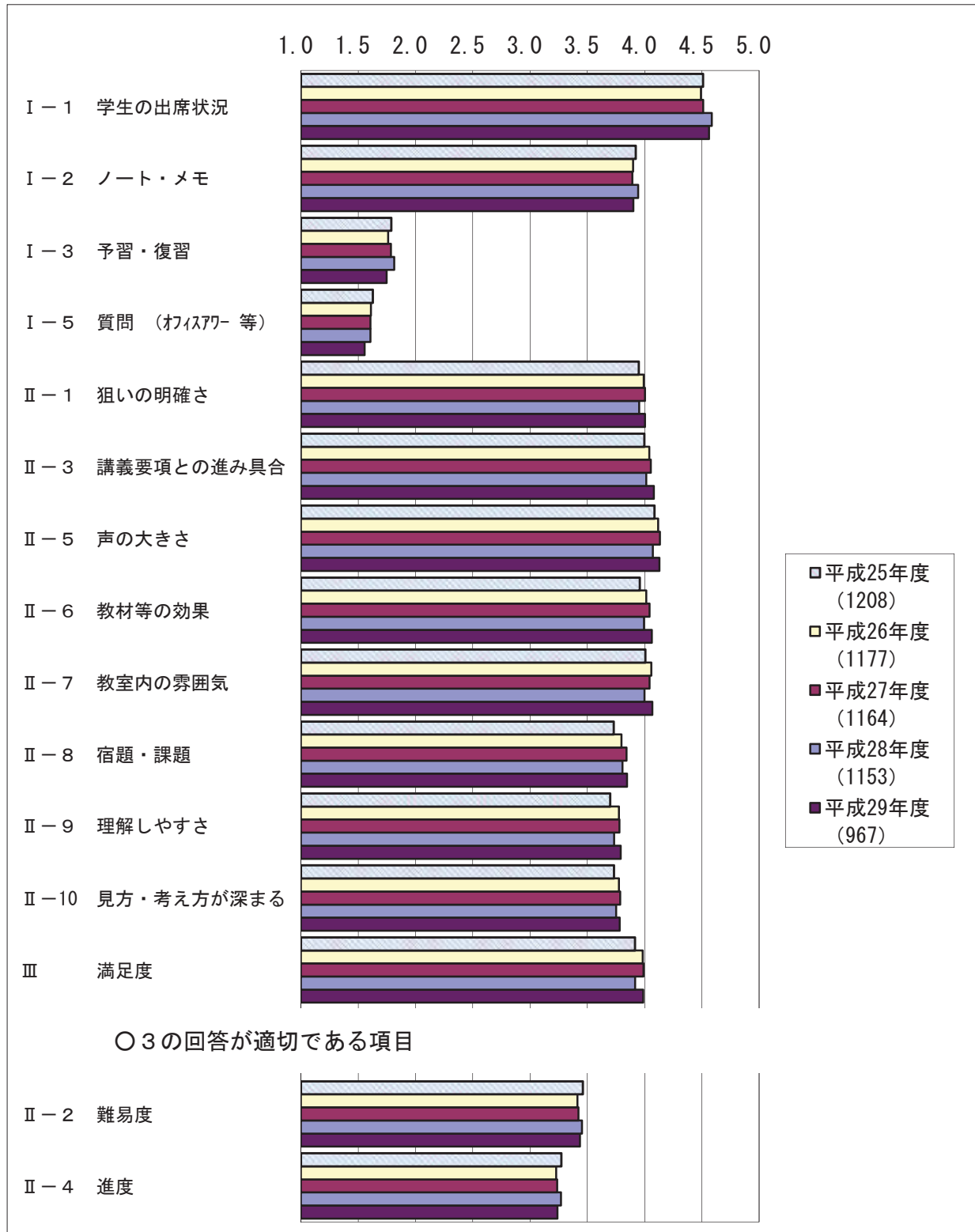
⑨ 教職・社教・日語科目



⑩ ゼミ・外書講読科目



⑪ 全体（講義等科目）



(2) 学生所属別平均値・標準偏差 (講義科目)

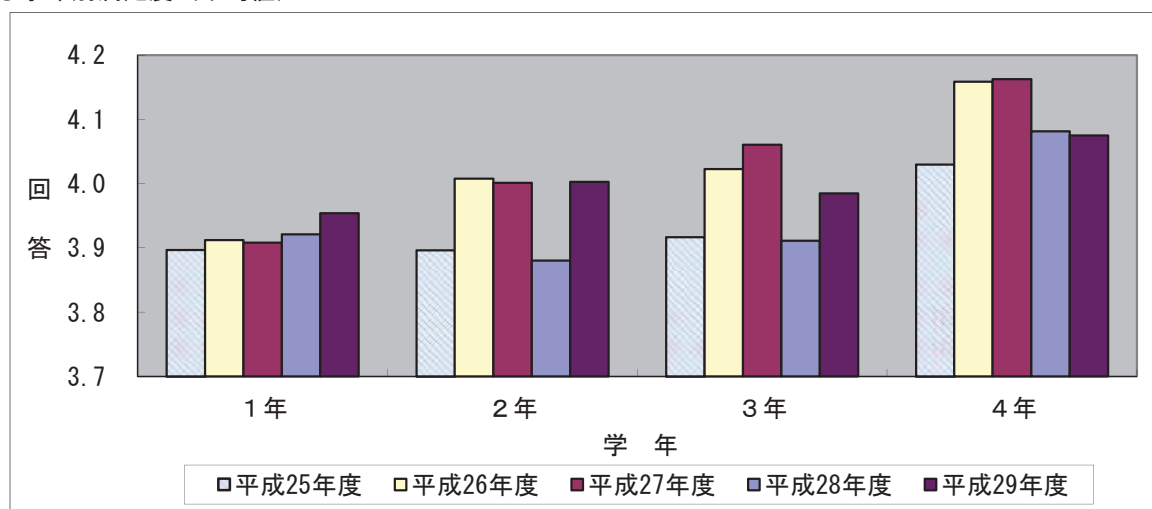
① 学年別

設問項目	区分	1年	2年	3年	4年
		回答件数:(11864)	回答件数:(9688)	回答件数:(7798)	回答件数:(2344)
I-1 学生の出席状況	平均値	4.67	4.56	4.52	4.17
	標準偏差	0.67	0.72	0.74	0.86
I-2 ノート・メモ	平均値	3.91	3.93	3.86	3.89
	標準偏差	1.22	1.16	1.17	1.12
I-3 予習・復習	平均値	1.74	1.71	1.73	1.75
	標準偏差	1.06	1.05	1.08	1.04
I-5 質問(オフィスアワー等)	平均値	1.51	1.51	1.60	1.56
	標準偏差	1.03	1.03	1.09	1.05
II-1 狙いの明確さ	平均値	3.96	4.04	4.00	4.08
	標準偏差	1.03	0.99	1.01	0.93
II-3 講義要項との進み具合	平均値	4.07	4.12	4.06	4.08
	標準偏差	0.92	0.89	0.90	0.89
II-5 声の大きさ	平均値	4.12	4.14	4.11	4.21
	標準偏差	1.03	1.02	1.02	0.97
II-6 教材等の効果	平均値	4.04	4.08	4.07	4.11
	標準偏差	1.01	0.99	0.99	0.96
II-7 教室内の雰囲気	平均値	4.07	4.08	4.05	4.08
	標準偏差	0.98	0.97	0.99	0.99
II-8 宿題・課題	平均値	3.84	3.87	3.82	3.84
	標準偏差	1.06	1.03	1.02	1.01
II-9 理解しやすさ	平均値	3.78	3.80	3.76	3.88
	標準偏差	1.04	1.01	1.00	0.94
II-10 見方・考え方が深まる	平均値	3.72	3.79	3.83	3.90
	標準偏差	1.06	1.03	1.02	0.98
III 満足度	平均値	3.95	4.00	3.98	4.07
	標準偏差	1.02	0.98	0.97	0.91

○3の回答が適切である項目

II-2 難易度	平均値	3.44	3.44	3.44	3.38
	標準偏差	0.78	0.74	0.73	0.69
II-4 進度	平均値	3.26	3.23	3.22	3.18
	標準偏差	0.66	0.62	0.63	0.60

○学年別満足度 (平均値)



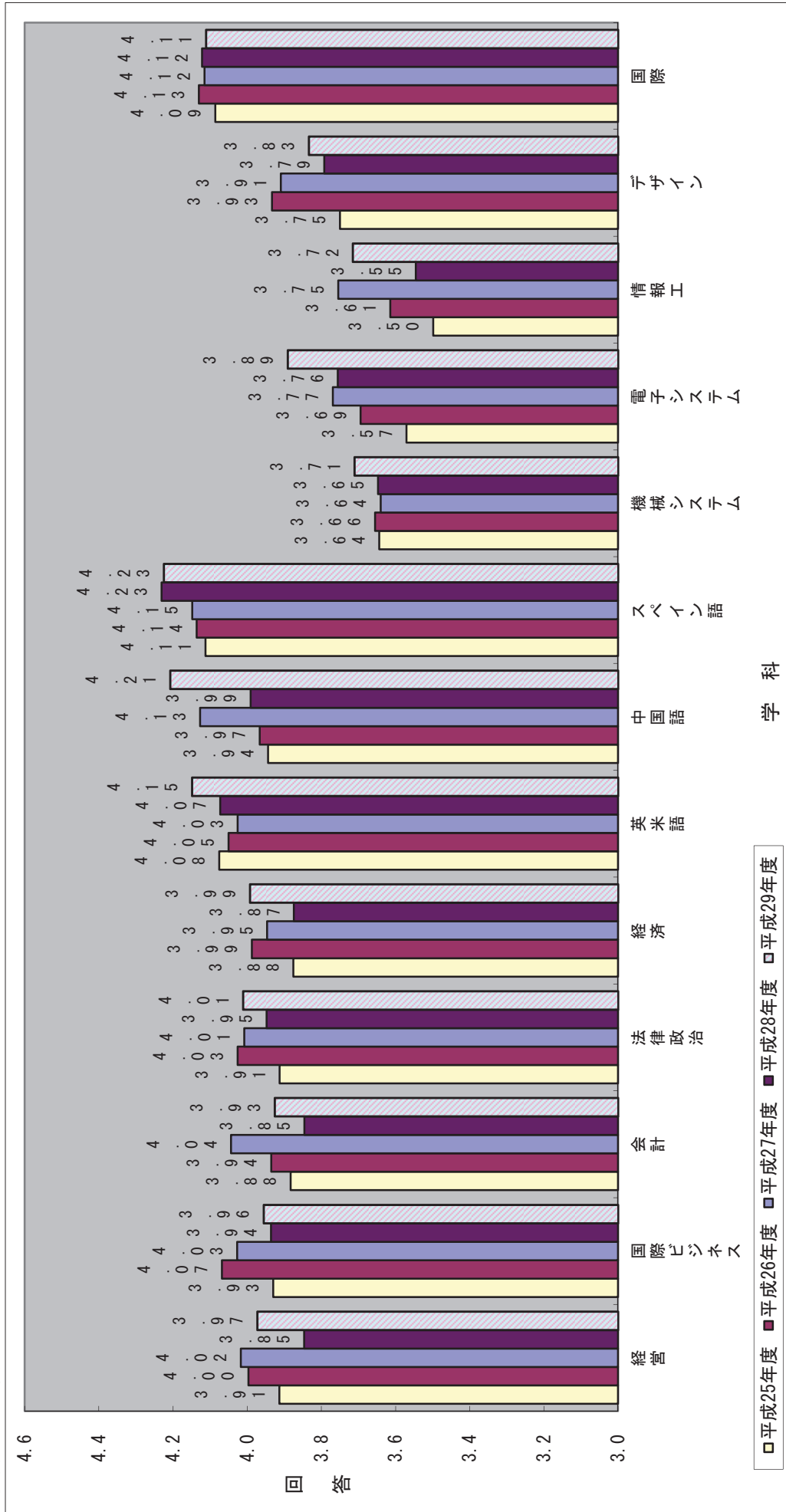
② 学科別

設問項目	区分	経営	国際ビジネス	会計	法律政治	経済	英米語	中国語	スペイン語	機械システム	電子システム	情報工	デザイン	国際
		回答件数 : (6164)	回答件数 : (2231)	回答件数 : (1273)	回答件数 : (4174)	回答件数 : (6575)	回答件数 : (1189)	回答件数 : (487)	回答件数 : (564)	回答件数 : (1200)	回答件数 : (1026)	回答件数 : (1408)	回答件数 : (742)	回答件数 : (4543)
I-1 学生の出席状況	平均値	4.58	4.54	4.66	4.57	4.53	4.62	4.51	4.59	4.68	4.65	4.59	4.53	4.51
	標準偏差	0.74	0.74	0.67	0.73	0.78	0.67	0.81	0.67	0.67	0.64	0.68	0.70	0.73
I-2 ノート・メモ	平均値	3.97	3.93	3.97	3.96	3.91	3.90	4.00	3.86	3.97	3.75	3.49	3.82	3.88
	標準偏差	1.17	1.19	1.17	1.17	1.18	1.19	1.12	1.16	1.07	1.23	1.29	1.11	1.17
I-3 予習・復習	平均値	1.69	1.75	1.67	1.64	1.76	1.82	2.11	1.87	1.66	1.72	1.51	1.81	1.81
	標準偏差	1.09	1.08	1.03	0.98	1.09	1.05	1.23	1.04	0.95	1.04	0.87	1.09	1.10
I-5 質問(オフィス等)	平均値	1.53	1.60	1.43	1.39	1.57	1.38	1.73	1.70	1.56	1.67	1.41	1.55	1.61
	標準偏差	1.06	1.09	0.95	0.91	1.10	0.89	1.26	1.11	0.97	1.09	0.86	1.01	1.12
II-1 狙いの明確さ	平均値	3.99	3.97	3.98	4.02	4.03	4.11	4.17	4.12	3.80	3.97	3.82	3.84	4.07
	標準偏差	1.03	1.03	1.01	0.98	1.00	0.95	0.99	1.00	1.02	0.99	0.99	0.99	1.01
II-3 講義要項との進み具合	平均値	4.04	4.03	4.05	4.11	4.10	4.20	4.31	4.24	3.90	4.09	3.96	3.99	4.15
	標準偏差	0.91	0.92	0.89	0.88	0.90	0.84	0.88	0.86	0.92	0.92	0.86	0.87	0.92
II-5 声の大きさ	平均値	4.09	4.08	4.15	4.17	4.13	4.26	4.28	4.31	3.97	4.13	3.98	3.98	4.21
	標準偏差	1.05	1.04	1.01	0.99	1.01	1.00	0.98	0.91	1.07	1.03	1.01	1.06	0.99
II-6 教材等の効果	平均値	4.04	4.07	4.05	4.07	4.07	4.20	4.20	4.23	3.86	4.05	3.91	3.98	4.14
	標準偏差	1.02	0.98	0.99	0.98	0.99	0.94	0.99	0.95	1.04	0.97	0.99	0.98	0.99
II-7 教室内の雰囲気	平均値	4.04	3.99	4.00	4.16	4.07	4.16	4.23	4.20	3.94	4.02	3.80	3.85	4.19
	標準偏差	0.99	1.01	0.97	0.94	1.00	0.94	0.95	0.93	0.97	0.94	0.97	1.01	0.96
II-8 宿題・課題	平均値	3.82	3.78	3.73	3.78	3.89	4.06	4.16	4.11	3.77	3.84	3.68	3.76	3.91
	標準偏差	1.05	1.07	1.07	1.04	1.02	0.98	0.99	1.00	0.98	1.01	0.97	0.99	1.09
II-9 理解しやすさ	平均値	3.78	3.78	3.74	3.77	3.76	3.98	4.10	4.13	3.52	3.65	3.49	3.64	3.98
	標準偏差	1.02	1.02	1.02	0.97	1.00	0.97	1.03	0.94	1.04	1.04	1.00	1.00	1.00
II-10 見方・考え方が深まる	平均値	3.76	3.82	3.71	3.80	3.77	3.94	3.98	4.04	3.41	3.66	3.43	3.66	3.95
	標準偏差	1.05	1.01	1.02	1.01	1.03	0.99	1.07	0.98	1.01	1.04	1.02	1.02	1.04
III 満足度	平均値	3.97	3.96	3.93	4.01	3.99	4.15	4.21	4.23	3.71	3.89	3.72	3.83	4.11
	標準偏差	1.00	1.00	0.98	0.97	0.98	0.95	1.00	0.94	0.99	1.00	0.98	0.97	0.99

○3の回答が適切である項目

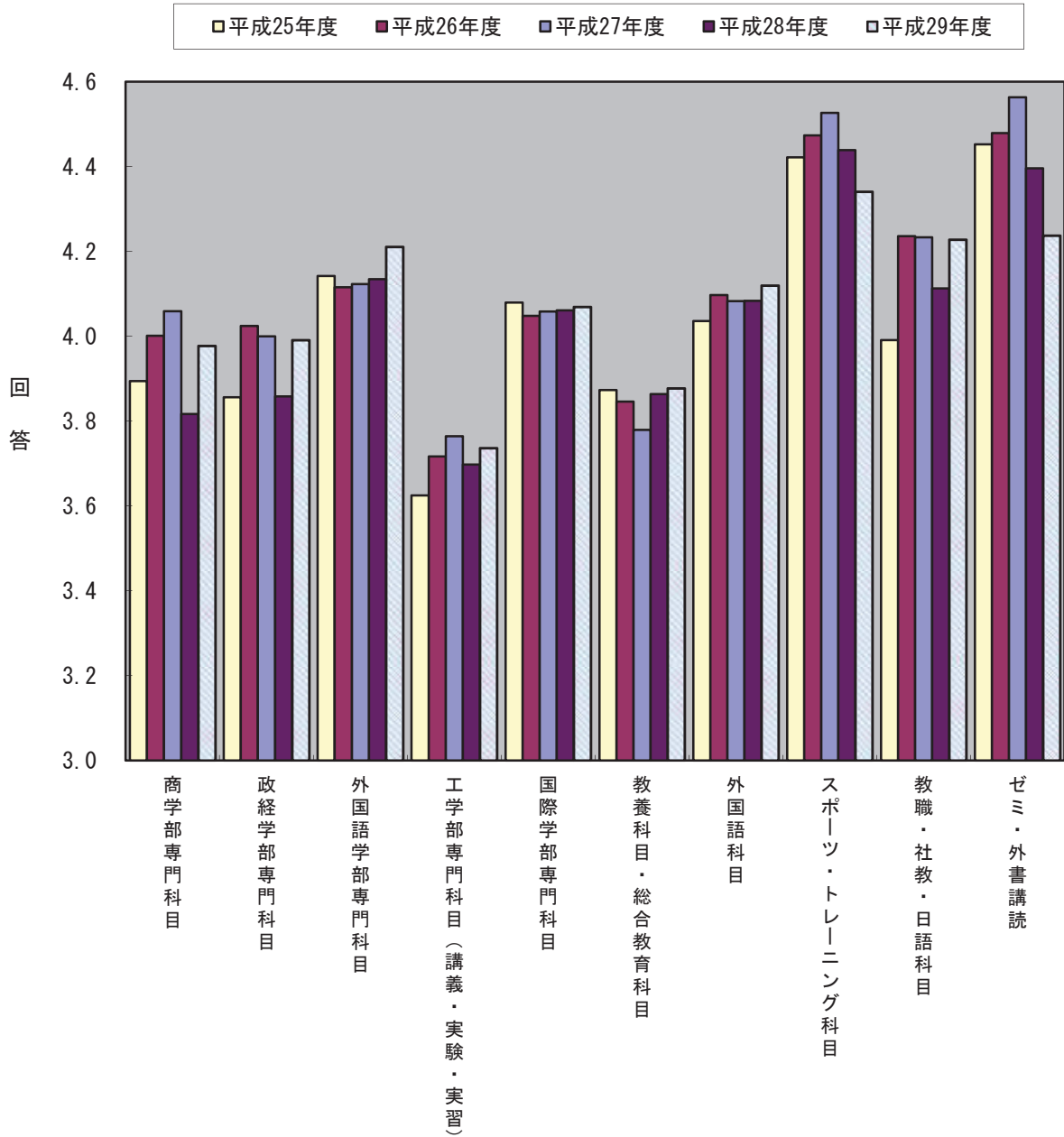
II-2 難易度	平均値	3.43	3.44	3.44	3.45	3.50	3.34	3.49	3.32	3.43	3.53	3.45	3.38	3.32
	標準偏差	0.75	0.76	0.76	0.70	0.76	0.68	0.84	0.80	0.74	0.81	0.75	0.71	0.74
II-4 進度	平均値	3.25	3.22	3.25	3.22	3.28	3.11	3.31	3.16	3.19	3.29	3.21	3.23	3.19
	標準偏差	0.66	0.61	0.63	0.60	0.67	0.52	0.71	0.71	0.58	0.66	0.58	0.61	0.61

○学科別満足度（平均値）



(3) 満足度 平均値

① 学科目別

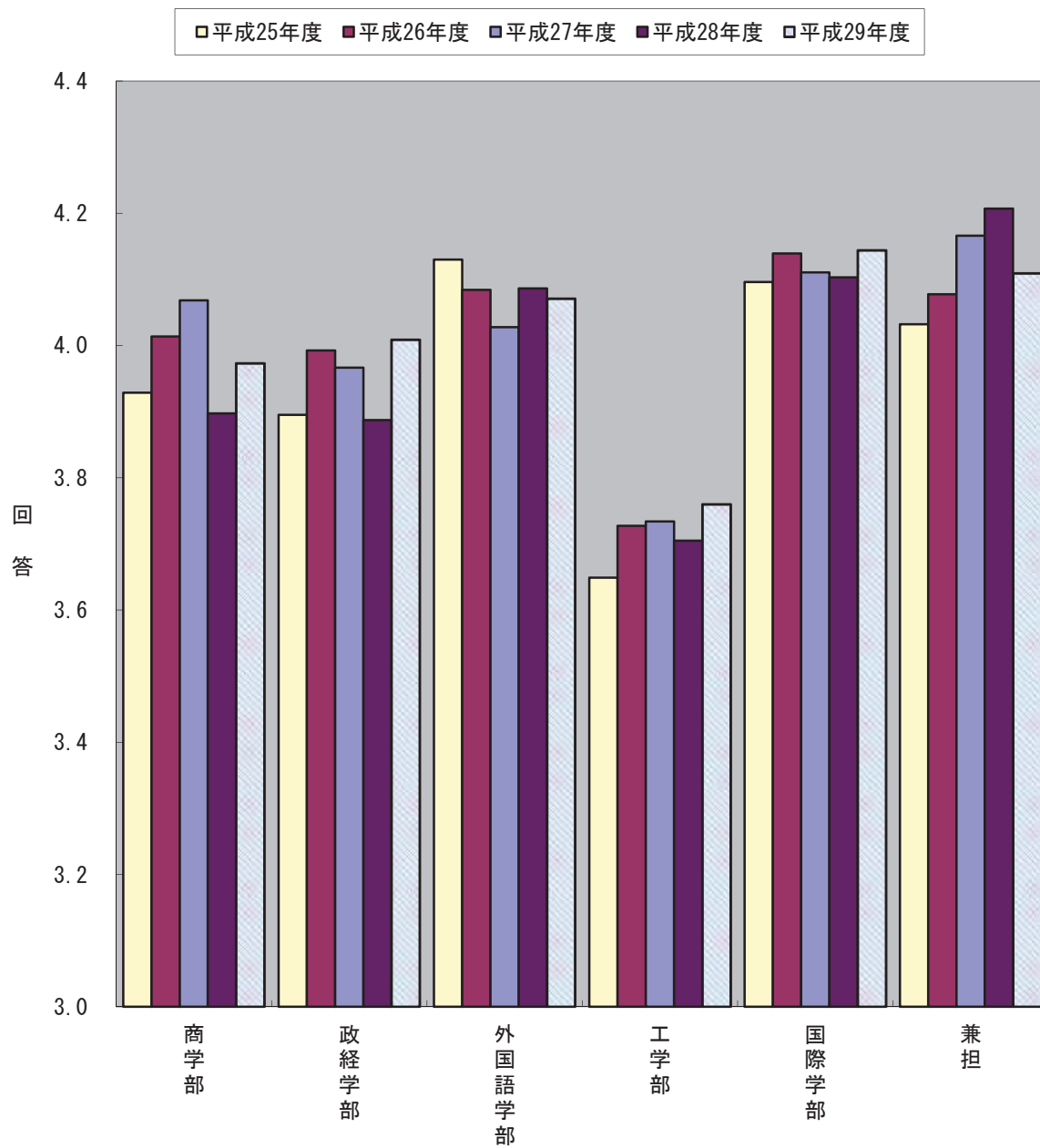


○科目数

平成25年度	144	129	120	132	78	127	446	26	31	31
平成26年度	144	130	111	130	72	90	465	14	33	29
平成27年度	138	136	100	120	74	93	476	14	31	25
平成28年度	143	131	108	126	75	108	433	15	32	27
平成29年度	130	138	97	112	56	89	319	13	30	20

学科目

② 所属別



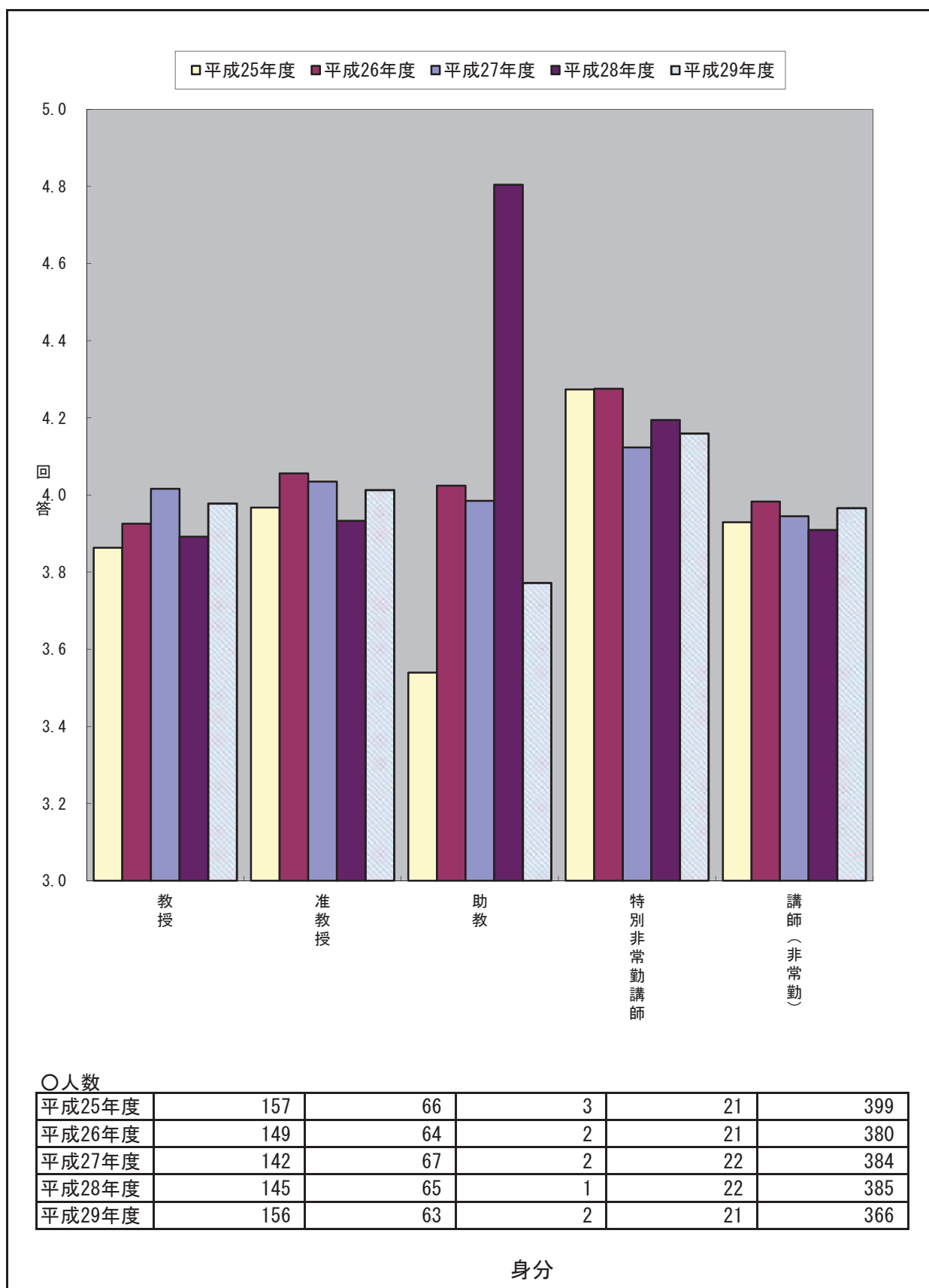
○人数

平成25年度	172	169	85	109	85	26
平成26年度	164	159	82	106	84	21
平成27年度	169	162	80	104	84	18
平成28年度	171	167	80	103	81	16
平成29年度	158	167	81	100	83	19

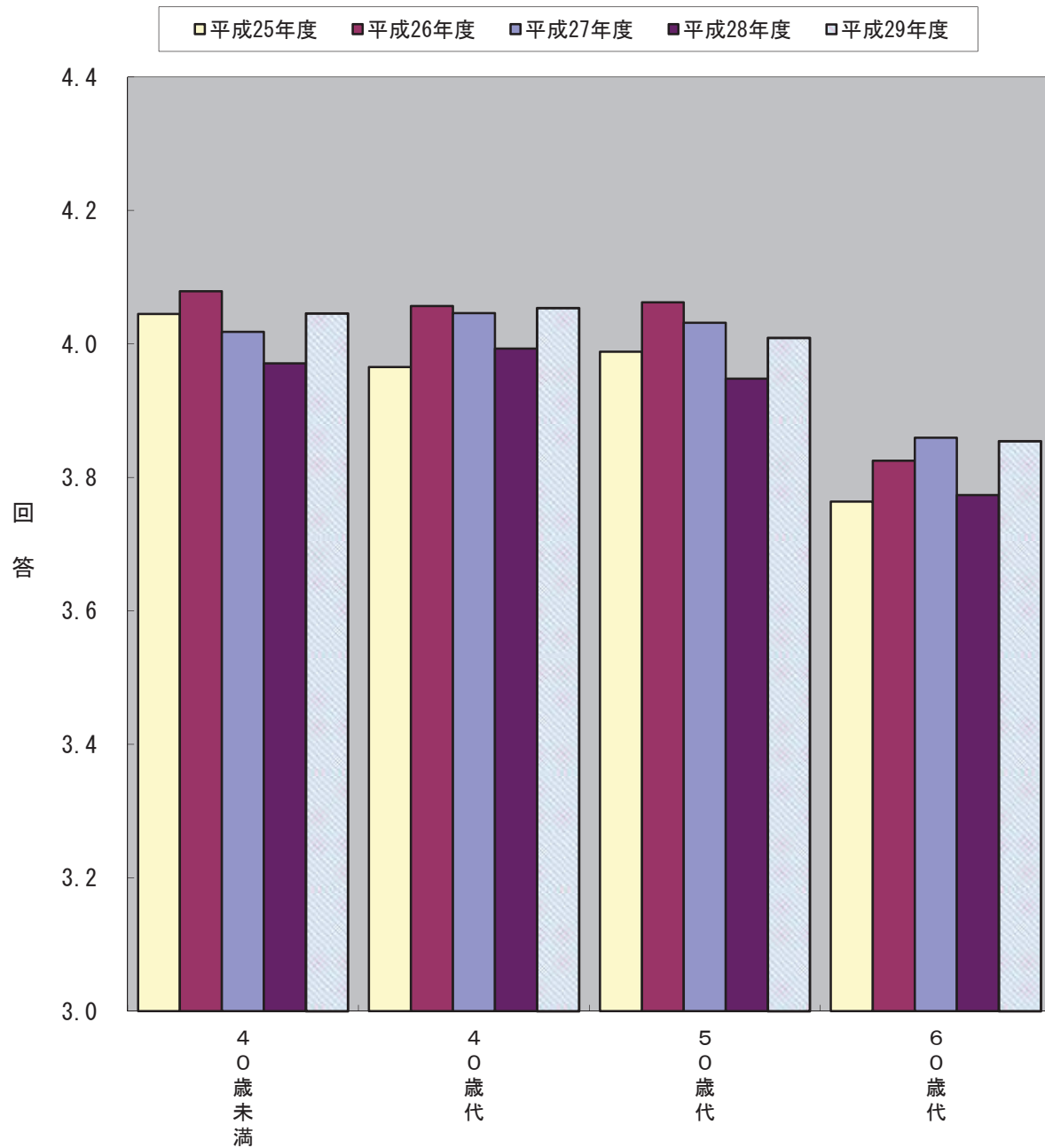
※講師（非常勤）を含む

学部

③ 身分別



④ 年齢別



○人数

平成25年度	74	180	191	201
平成26年度	73	160	178	205
平成27年度	86	166	184	182
平成28年度	80	155	203	180
平成29年度	78	150	205	175

年齢

5. 学科目別 回答の分析

(1) 商学部専門科目

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.56%	0.93%	8.10%	21.49%	68.92%
I-2	6.11%	5.80%	18.58%	25.99%	43.52%
I-3	62.54%	17.48%	12.34%	3.52%	4.11%
I-4	12.68%	3.75%	46.47%	13.16%	23.95%
I-5	73.88%	8.49%	9.77%	4.06%	3.80%
II-1	2.63%	4.31%	21.91%	31.41%	39.74%
II-2	1.13%	2.87%	56.60%	29.40%	10.00%
II-3	1.06%	2.02%	26.62%	31.80%	38.51%
II-4	0.92%	2.99%	72.04%	17.71%	6.34%
II-5	2.56%	4.94%	19.45%	26.35%	46.70%
II-6	2.22%	3.81%	22.39%	28.24%	43.34%
II-7	1.96%	4.75%	23.26%	30.85%	39.18%
II-8	3.62%	4.08%	34.21%	25.76%	32.32%
II-9	2.84%	6.64%	28.86%	34.18%	27.48%
II-10	3.25%	5.84%	29.69%	33.09%	28.13%
III	2.27%	3.87%	23.93%	33.77%	36.16%

(2) 政経学部専門科目

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.88%	0.76%	10.08%	22.33%	65.95%
I-2	6.35%	5.36%	20.46%	27.72%	40.11%
I-3	60.70%	19.43%	12.60%	3.56%	3.71%
I-4	16.32%	3.95%	38.33%	14.39%	27.02%
I-5	76.60%	6.86%	9.09%	3.88%	3.57%
II-1	2.07%	3.60%	22.52%	32.85%	38.95%
II-2	0.85%	2.34%	52.13%	34.64%	10.04%
II-3	1.13%	1.62%	24.95%	32.03%	40.27%
II-4	0.96%	3.24%	70.51%	18.89%	6.40%
II-5	2.43%	3.75%	19.99%	27.46%	46.38%
II-6	2.09%	3.18%	22.75%	30.27%	41.71%
II-7	2.15%	3.32%	21.83%	29.25%	43.46%
II-8	3.30%	3.48%	36.02%	24.87%	32.32%
II-9	2.34%	5.82%	31.92%	35.56%	24.37%
II-10	2.97%	4.57%	30.44%	34.08%	27.95%
III	1.92%	3.22%	24.48%	34.57%	35.80%

(3) 外国語学部専門科目

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.45%	0.90%	9.35%	22.05%	67.25%
I-2	5.24%	5.49%	18.94%	30.32%	40.01%
I-3	41.49%	25.00%	23.39%	6.38%	3.74%
I-4	7.36%	1.78%	58.53%	11.09%	21.24%
I-5	71.06%	10.40%	10.21%	4.65%	3.68%
II-1	1.22%	3.80%	18.87%	30.91%	45.20%
II-2	1.35%	5.27%	56.14%	31.32%	5.92%
II-3	0.39%	1.75%	20.86%	30.15%	46.85%
II-4	1.09%	4.57%	74.66%	16.14%	3.54%
II-5	1.10%	2.95%	15.41%	23.08%	57.47%
II-6	1.03%	3.35%	18.66%	27.86%	49.10%
II-7	0.97%	3.29%	19.21%	28.76%	47.78%
II-8	1.35%	3.16%	22.95%	29.21%	43.33%
II-9	1.10%	3.80%	20.89%	34.17%	40.04%
II-10	1.67%	4.38%	23.95%	32.78%	37.22%
III	1.22%	3.67%	17.40%	28.22%	49.48%

(4) 工学部専門科目 (講義科目)

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.14%	0.42%	8.38%	18.86%	72.20%
I-2	7.22%	7.08%	22.68%	29.96%	33.06%
I-3	57.57%	21.75%	14.88%	3.38%	2.43%
I-4	11.61%	3.27%	61.93%	6.93%	16.27%
I-5	68.78%	11.87%	12.76%	4.19%	2.40%
II-1	2.71%	5.19%	27.23%	34.93%	29.94%
II-2	0.89%	3.21%	48.59%	36.24%	11.07%
II-3	1.01%	2.05%	29.69%	32.28%	34.97%
II-4	0.58%	3.15%	70.17%	20.78%	5.32%
II-5	3.00%	4.94%	21.95%	29.54%	40.57%
II-6	2.71%	4.52%	24.97%	32.76%	35.04%
II-7	1.96%	4.73%	26.87%	34.48%	31.96%
II-8	2.65%	3.88%	34.88%	31.36%	27.23%
II-9	4.28%	9.95%	35.76%	32.37%	17.64%
II-10	4.86%	8.47%	37.98%	31.16%	17.52%
III	3.30%	5.71%	31.27%	35.30%	24.41%

(5) 工学部専門科目 (実験・実習科目)

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.18%	0.18%	5.47%	13.95%	80.23%
I-2	11.66%	7.95%	28.36%	28.62%	23.41%
I-3	2.48%	2.13%	24.40%	31.41%	39.57%
I-4	0.71%	2.77%	27.65%	40.50%	28.37%
II-1	2.12%	5.04%	20.78%	37.67%	34.39%
II-2	0.53%	3.36%	38.16%	43.02%	14.93%
II-3	0.35%	2.12%	57.07%	31.10%	9.36%
II-4	5.12%	9.81%	31.63%	33.04%	20.41%
II-5	3.10%	4.96%	27.26%	31.68%	33.01%
II-6	3.09%	4.60%	31.92%	33.69%	26.70%
II-7	2.30%	3.72%	31.89%	35.61%	26.48%
II-8	2.12%	4.87%	28.41%	36.11%	28.50%
II-9	2.74%	8.85%	30.44%	35.75%	22.21%
II-10	1.95%	5.04%	29.09%	40.85%	23.08%
II-11	2.57%	5.05%	30.74%	37.91%	23.74%
III	3.10%	5.22%	27.88%	36.90%	26.90%

(6) 国際学部専門科目

設問/回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.52%	0.92%	11.62%	29.40%	57.54%
I-2	6.30%	6.13%	21.99%	28.25%	37.33%
I-3	62.95%	15.69%	12.28%	4.30%	4.78%
I-4	10.46%	4.02%	36.40%	17.20%	31.92%
I-5	71.38%	7.36%	11.52%	4.60%	5.13%
II-1	2.66%	4.63%	21.45%	29.10%	42.16%
II-2	1.27%	3.46%	61.97%	26.08%	7.22%
II-3	1.19%	1.54%	26.10%	27.64%	43.53%
II-4	0.96%	1.93%	77.33%	14.05%	5.73%
II-5	2.17%	4.88%	18.16%	24.98%	49.82%
II-6	2.10%	4.86%	21.22%	25.28%	46.54%
II-7	1.40%	3.28%	19.07%	26.68%	49.56%
II-8	4.56%	4.69%	32.73%	22.00%	36.02%
II-9	2.63%	6.08%	23.54%	32.25%	35.49%
II-10	2.89%	4.33%	22.27%	31.58%	38.93%
III	2.23%	4.56%	19.98%	30.50%	42.73%

(7) 教養科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.84%	1.08%	9.20%	20.76%	68.12%
I-2	8.74%	6.58%	21.25%	25.16%	38.27%
I-3	71.63%	12.22%	8.88%	3.13%	4.14%
I-4	22.47%	4.89%	37.21%	7.36%	28.07%
I-5	79.29%	5.68%	7.91%	3.36%	3.76%
II-1	4.31%	5.86%	25.68%	30.01%	34.15%
II-2	1.03%	3.53%	57.77%	26.40%	11.28%
II-3	1.35%	2.34%	29.19%	30.91%	36.21%
II-4	0.90%	2.57%	73.19%	16.23%	7.11%
II-5	3.61%	5.56%	20.02%	27.69%	43.13%
II-6	3.42%	4.61%	24.41%	28.37%	39.20%
II-7	2.21%	5.43%	25.20%	29.75%	37.42%
II-8	5.35%	4.44%	36.57%	23.52%	30.13%
II-9	4.39%	7.05%	30.47%	31.35%	26.75%
II-10	4.65%	6.77%	28.57%	30.91%	29.10%
III	3.61%	4.82%	25.40%	32.60%	33.57%

(8) 外国語科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.16%	0.66%	8.25%	18.77%	72.17%
I-2	4.19%	3.95%	16.75%	29.06%	46.05%
I-3	44.88%	28.19%	17.92%	5.31%	3.71%
I-4	2.25%	2.34%	65.96%	8.71%	20.74%
I-5	71.25%	9.73%	10.51%	4.80%	3.71%
II-1	1.59%	3.92%	19.18%	32.10%	43.21%
II-2	1.48%	4.72%	56.71%	29.50%	7.59%
II-3	0.78%	1.20%	22.54%	29.88%	45.60%
II-4	0.80%	3.57%	75.17%	16.04%	4.41%
II-5	1.58%	3.63%	15.49%	25.77%	53.53%
II-6	1.51%	2.82%	20.47%	29.63%	45.56%
II-7	1.36%	2.91%	17.79%	29.51%	48.44%
II-8	1.44%	2.41%	24.37%	29.34%	42.44%
II-9	1.99%	4.86%	23.32%	34.49%	35.34%
II-10	3.31%	5.36%	30.06%	29.53%	31.74%
III	2.02%	3.26%	19.68%	30.80%	44.23%

(9) スポーツ・トレーニング科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.00%	0.43%	7.79%	19.48%	72.29%
I-2	0.86%	1.72%	15.95%	32.33%	49.14%
I-3	0.87%	1.30%	8.26%	29.57%	60.00%
I-4	7.30%	3.86%	47.64%	8.58%	32.62%
II-1	2.16%	1.29%	16.38%	30.17%	50.00%
II-2	2.16%	6.49%	71.00%	9.52%	10.82%
II-3	1.72%	1.72%	84.91%	4.74%	6.90%
II-4	2.16%	3.03%	28.14%	22.51%	44.16%
II-5	0.00%	0.00%	18.10%	22.84%	59.05%
II-6	1.72%	0.43%	17.67%	25.86%	54.31%
II-7	0.43%	3.02%	18.97%	26.29%	51.29%
II-8	0.00%	0.86%	18.97%	28.88%	51.29%
II-9	0.43%	2.15%	15.45%	31.76%	50.21%
II-10	1.29%	2.16%	21.55%	31.03%	43.97%
II-11	0.43%	2.16%	16.45%	33.77%	47.19%
III	1.29%	3.02%	12.93%	25.86%	56.90%

(10) 教職・社教・日語科目

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.00%	0.39%	6.94%	26.01%	66.67%
I-2	2.69%	4.41%	19.58%	30.13%	43.19%
I-3	55.04%	20.54%	16.47%	5.43%	2.52%
I-4	2.65%	1.23%	74.96%	8.64%	12.52%
I-5	68.79%	10.02%	10.98%	6.17%	4.05%
II-1	1.74%	1.54%	17.76%	27.80%	51.16%
II-2	0.19%	2.50%	68.08%	23.85%	5.38%
II-3	0.39%	0.97%	19.73%	29.59%	49.32%
II-4	0.77%	2.69%	77.31%	16.15%	3.08%
II-5	1.43%	3.07%	10.84%	26.38%	58.28%
II-6	1.35%	2.32%	17.76%	24.90%	53.67%
II-7	0.58%	0.58%	14.84%	25.82%	58.19%
II-8	2.12%	3.08%	29.62%	20.96%	44.23%
II-9	0.96%	3.27%	22.31%	35.00%	38.46%
II-10	0.58%	2.69%	21.15%	30.58%	45.00%
III	0.97%	2.12%	18.92%	29.15%	48.84%

(11) ゼミ・外書講読

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.38%	0.75%	4.14%	17.67%	77.07%
I-2	16.23%	6.04%	20.38%	24.91%	32.45%
I-3	33.84%	26.62%	24.71%	9.89%	4.94%
I-4	4.29%	1.32%	27.72%	19.14%	47.52%
I-5	52.65%	15.91%	18.94%	6.44%	6.06%
II-1	1.89%	3.03%	15.15%	29.55%	50.38%
II-2	2.26%	4.51%	63.53%	23.31%	6.39%
II-3	1.13%	3.02%	19.62%	28.68%	47.55%
II-4	0.38%	4.15%	82.64%	9.06%	3.77%
II-5	1.15%	2.69%	9.23%	27.69%	59.23%
II-6	2.26%	2.63%	15.79%	25.56%	53.76%
II-7	0.75%	3.02%	17.74%	23.40%	55.09%
II-8	4.51%	2.26%	21.80%	29.70%	41.73%
II-9	1.14%	3.41%	18.56%	35.23%	41.67%
II-10	1.89%	2.27%	17.80%	30.30%	47.73%
III	1.50%	2.63%	15.79%	30.83%	49.25%

(12) 全体（講義科目）

設問／回答	①	②	③	④	⑤
I-1	0.53%	0.80%	8.98%	21.36%	68.33%
I-2	6.37%	5.66%	19.84%	27.63%	40.50%
I-3	58.55%	19.83%	13.79%	4.05%	3.79%
I-4	13.31%	3.68%	46.89%	11.37%	24.76%
I-5	73.77%	8.39%	9.98%	4.18%	3.67%
II-1	2.52%	4.39%	22.37%	31.73%	38.99%
II-2	1.13%	3.41%	55.70%	30.40%	9.36%
II-3	1.04%	1.79%	25.77%	30.94%	40.46%
II-4	0.87%	3.11%	73.00%	17.26%	5.75%
II-5	2.45%	4.39%	18.73%	26.78%	47.65%
II-6	2.22%	3.72%	22.30%	29.13%	42.62%
II-7	1.84%	4.00%	22.01%	29.90%	42.26%
II-8	3.31%	3.66%	32.40%	26.29%	34.32%
II-9	2.84%	6.28%	28.50%	33.79%	28.60%
II-10	3.45%	5.66%	29.58%	31.89%	29.42%
III	2.40%	3.96%	23.55%	32.76%	37.34%

6. 学部設問項目 平均値・標準偏差

(1) 商学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	あなたはこの授業へのあなた自身の取り組みを振り返って満足していますか	専任教員	97	3.82	0.98
		講師(非常勤)	166	3.84	1.02

(2) 外国語学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか	専任教員	81	4.35	0.91
		講師(非常勤)	59	4.23	0.93
IV-2	このクラスの学生数は適切ですか	専任教員	81	4.41	0.85
		講師(非常勤)	59	4.18	0.93

(3) 工学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	宿題や課題にどれくらい取り組んでいますか	専任教員	69	3.65	1.14
		講師(非常勤)	50	3.47	1.19
IV-2	この授業の内容について、どれくらい質問していますか	専任教員	69	2.27	1.22
		講師(非常勤)	50	2.19	1.23
IV-3	この授業で設定している到達目標について、知識や技術が身につきましたか	専任教員	69	3.34	0.97
		講師(非常勤)	50	3.29	1.03

(4) 国際学部

設問項目		教員別	科目数	平均値	標準偏差
IV-1	授業の開始時間、終了時間は守られている	専任教員	66	4.53	0.79
		講師(非常勤)	91	4.58	0.75
IV-2	出欠はきちんととられている	専任教員	66	4.50	0.91
		講師(非常勤)	91	4.52	0.89
IV-3	授業中、学生同士の私語はない	専任教員	66	4.08	1.08
		講師(非常勤)	91	3.70	1.21
IV-4	この授業で使う教室の大きさ、施設・備品などは適切ですか	専任教員	66	4.47	0.82
		講師(非常勤)	91	4.38	0.90

IV コース・分野・学科別集計

1. 商学部専門科目（コース別）

区 分 項 目	学 科 コ ー ス 科 目 数	経 営			国際ビジネス	会 計	全 体
		経 営	経営情報	流 通	国際ビジネス		
		26	19	14	27	40	126
I-1	平均値	4.53	4.51	4.64	4.50	4.70	4.58
	標準偏差	0.76	0.73	0.68	0.78	0.61	0.72
I-2	平均値	4.17	3.37	4.00	3.90	4.02	3.97
	標準偏差	1.07	1.34	1.15	1.16	1.16	1.17
I-3	平均値	1.63	1.64	1.69	1.68	1.84	1.70
	標準偏差	1.09	0.98	1.10	1.05	1.11	1.08
I-5	平均値	1.56	1.53	1.49	1.61	1.58	1.56
	標準偏差	1.11	0.97	1.03	1.10	1.08	1.07
II-1	平均値	4.03	3.93	4.11	3.92	4.01	4.01
	標準偏差	1.03	1.06	0.94	1.02	1.02	1.01
II-3	平均値	4.04	3.97	4.09	4.01	4.10	4.05
	標準偏差	0.94	0.94	0.88	0.89	0.89	0.91
II-5	平均値	4.08	4.08	4.14	4.02	4.19	4.10
	標準偏差	1.08	1.05	1.01	1.04	0.98	1.03
II-6	平均値	4.00	4.10	4.24	4.00	3.99	4.07
	標準偏差	1.05	0.99	0.90	1.00	1.05	1.00
II-7	平均値	4.08	4.14	4.02	3.85	4.08	4.01
	標準偏差	0.98	0.93	0.96	1.05	0.97	0.99
II-8	平均値	3.79	3.87	3.83	3.69	3.87	3.80
	標準偏差	1.07	1.03	1.03	1.04	1.04	1.05
II-9	平均値	3.81	3.53	3.95	3.68	3.66	3.77
	標準偏差	0.98	1.10	0.91	1.02	1.10	1.01
II-10	平均値	3.79	3.60	3.91	3.75	3.63	3.77
	標準偏差	1.04	1.07	0.95	1.01	1.10	1.02
III	平均値	4.02	3.82	4.11	3.90	3.91	3.98
	標準偏差	0.97	1.03	0.90	0.99	1.03	0.98

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.36	3.54	3.32	3.51	3.59	3.44
	標準偏差	0.75	0.80	0.69	0.75	0.80	0.75
II-4	平均値	3.22	3.21	3.26	3.25	3.33	3.26
	標準偏差	0.69	0.70	0.63	0.60	0.69	0.65

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / コ ー ス	経 営	経営情報	流 通	国際ビジネス	会 計	全 体
1. 講義への興味	13.1	16.7	12.4	11.6	11.5	12.6
2. 教員にひかれて	4.1	2.6	3.4	4.4	3.3	3.7
3. 単位が必要	48.1	45.9	41.7	45.5	54.6	46.3
4. 単位取得が楽	15.0	11.3	14.1	11.8	10.0	13.0
5. 時間帯が空いている	19.7	23.4	28.3	26.8	20.6	24.4
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 政経学部専門科目（分野別）

区分	分野	法律	政治	行政	経済	その他	全体
設問	科目数	30	25	10	59	10	134
I-1	平均値	4.53	4.50	4.46	4.50	4.73	4.51
	標準偏差	0.76	0.76	0.80	0.80	0.58	0.78
I-2	平均値	4.02	4.03	3.58	3.91	3.00	3.90
	標準偏差	1.07	1.11	1.26	1.16	1.49	1.17
I-3	平均値	1.59	1.56	1.61	1.79	1.61	1.70
	標準偏差	0.97	0.90	0.98	1.13	0.86	1.05
I-5	平均値	1.37	1.35	1.48	1.62	1.38	1.51
	標準偏差	0.88	0.83	0.97	1.15	0.93	1.04
II-1	平均値	4.02	3.99	4.03	4.02	4.25	4.03
	標準偏差	0.94	1.03	0.98	0.98	0.90	0.98
II-3	平均値	4.04	4.11	4.11	4.07	4.38	4.08
	標準偏差	0.88	0.89	0.90	0.92	0.80	0.90
II-5	平均値	4.09	4.12	4.10	4.11	4.27	4.11
	標準偏差	1.02	1.01	1.00	1.02	1.00	1.01
II-6	平均値	4.03	4.06	4.12	4.05	4.30	4.06
	標準偏差	0.98	1.00	0.95	0.99	0.88	0.98
II-7	平均値	4.12	4.29	4.21	3.97	4.50	4.08
	標準偏差	0.91	0.88	0.90	1.05	0.80	0.99
II-8	平均値	3.73	3.60	3.78	3.83	4.13	3.78
	標準偏差	1.05	1.10	1.04	1.03	0.95	1.04
II-9	平均値	3.72	3.75	3.80	3.71	3.92	3.73
	標準偏差	0.92	0.98	0.92	1.00	0.88	0.97
II-10	平均値	3.82	3.86	3.91	3.76	3.68	3.79
	標準偏差	0.94	1.00	0.93	1.02	1.07	1.00
III	平均値	3.96	4.01	4.07	3.98	3.99	3.99
	標準偏差	0.94	0.97	0.92	0.96	0.98	0.95

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.51	3.44	3.42	3.53	3.55	3.51
	標準偏差	0.69	0.70	0.70	0.77	0.80	0.74
II-4	平均値	3.23	3.19	3.22	3.29	3.47	3.26
	標準偏差	0.63	0.63	0.61	0.69	0.79	0.67

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回答 / 分野	法律	政治	行政	経済	その他	全体
1. 講義への興味	16.2	17.8	15.8	16.5	0.7	16.3
2. 教員にひかれて	3.0	2.2	4.4	4.8	2.2	4.0
3. 単位が必要	39.8	33.9	38.7	37.6	87.7	38.6
4. 単位取得が楽	12.4	12.8	14.4	16.0	2.2	14.4
5. 時間帯が空いている	28.6	33.2	26.8	25.1	7.2	26.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 外国語学部専門科目（学科別）

区 分	学 科	英米語	中国語	スペイン語	自由科目	全 体
設 問	科目数	44	26	25	2	97
I-1	平均値	4.58	4.44	4.59	4.42	4.55
	標準偏差	0.69	0.88	0.67	0.78	0.74
I-2	平均値	3.89	4.03	4.00	3.70	3.94
	標準偏差	1.16	1.08	1.09	1.29	1.13
I-3	平均値	2.01	2.19	2.08	1.61	2.06
	標準偏差	1.10	1.19	1.04	1.04	1.11
I-5	平均値	1.40	1.84	1.77	1.63	1.59
	標準偏差	0.91	1.29	1.12	1.14	1.08
II-1	平均値	4.18	4.09	4.13	4.33	4.15
	標準偏差	0.87	1.04	0.98	0.97	0.94
II-3	平均値	4.18	4.22	4.28	4.19	4.21
	標準偏差	0.83	0.93	0.86	0.77	0.86
II-5	平均値	4.37	4.18	4.37	4.38	4.33
	標準偏差	0.86	1.06	0.85	1.00	0.91
II-6	平均値	4.25	4.07	4.28	3.79	4.21
	標準偏差	0.87	1.06	0.88	1.07	0.93
II-7	平均値	4.18	4.13	4.27	4.15	4.19
	標準偏差	0.91	1.00	0.87	0.93	0.92
II-8	平均値	4.08	4.09	4.13	4.21	4.10
	標準偏差	0.94	0.99	0.94	0.84	0.95
II-9	平均値	4.07	4.05	4.14	4.12	4.08
	標準偏差	0.87	1.05	0.89	1.07	0.92
II-10	平均値	3.99	3.91	4.06	4.21	3.99
	標準偏差	0.91	1.11	0.95	0.91	0.97
III	平均値	4.22	4.13	4.27	4.24	4.21
	標準偏差	0.87	1.09	0.93	0.95	0.94

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.29	3.51	3.32	3.42	3.35
	標準偏差	0.67	0.79	0.78	0.55	0.73
II-4	平均値	3.10	3.30	3.18	3.21	3.16
	標準偏差	0.48	0.69	0.73	0.48	0.60

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 学 科	英米語	中国語	スペイン語	自由科目	全 体
1. 講義への興味	9.0	3.6	5.4	17.1	7.4
2. 教員にひかれて	1.2	3.0	1.8	2.4	1.8
3. 単位が必要	55.4	66.9	61.0	39.0	58.5
4. 単位取得が楽	11.7	11.3	8.5	12.2	11.1
5. 時間帯が空いている	22.7	15.2	23.3	29.3	21.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

4. 工学部専門科目

(1) 実験・実習科目 (学科別)

区分	学科	機械	電子システム	情報	デザイン	基礎教育	全体
設問	科目数	4	4	3	4	2	17
I-1	平均値	4.79	4.81	4.75	4.74	4.96	4.78
	標準偏差	0.52	0.57	0.63	0.56	0.29	0.55
I-2	平均値	2.75	3.37	3.19	3.46	4.89	3.34
	標準偏差	1.30	1.22	1.34	1.18	0.37	1.30
I-3	平均値	3.83	4.21	4.15	3.81	4.93	4.02
	標準偏差	1.11	0.96	0.99	0.96	0.32	1.01
I-4	平均値	3.88	4.13	3.94	3.74	4.55	3.94
	標準偏差	0.84	0.82	0.81	0.82	0.58	0.84
II-1	平均値	4.00	4.06	4.10	3.82	4.63	4.00
	標準偏差	0.96	0.90	0.94	1.06	0.48	0.98
II-4	平均値	3.45	3.45	3.63	3.40	4.00	3.49
	標準偏差	1.03	1.01	1.03	1.16	0.91	1.08
II-5	平均値	3.89	3.71	3.99	3.74	4.28	3.83
	標準偏差	0.95	0.97	0.95	1.10	0.90	1.02
II-6	平均値	3.89	3.74	3.95	3.48	4.33	3.74
	標準偏差	0.99	0.98	0.90	1.02	0.86	1.01
II-7	平均値	3.93	3.81	3.94	3.52	4.39	3.79
	標準偏差	0.93	0.86	0.86	0.96	0.77	0.94
II-8	平均値	3.86	3.99	4.09	3.48	4.57	3.83
	標準偏差	0.88	0.92	0.86	0.99	0.71	0.97
II-9	平均値	3.38	3.67	3.61	3.63	3.91	3.60
	標準偏差	1.04	1.03	1.00	1.01	0.86	1.02
II-10	平均値	3.52	3.80	3.86	3.77	4.02	3.75
	標準偏差	1.03	0.94	0.94	0.88	0.79	0.94
II-11	平均値	3.49	3.74	3.77	3.69	4.02	3.69
	標準偏差	1.01	1.02	0.96	0.98	0.80	0.99
III	平均値	3.57	3.85	3.84	3.72	4.29	3.77
	標準偏差	1.00	0.92	1.07	1.00	0.86	1.00

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.67	3.80	3.73	3.65	3.96	3.72
	標準偏差	0.81	0.78	0.80	0.78	0.72	0.79
II-3	平均値	3.36	3.49	3.40	3.60	3.35	3.48
	標準偏差	0.72	0.68	0.67	0.73	0.67	0.71

(注) : 「実験・実習用アンケート」で実施した演習等科目を含む。

(2) 学科・学科目別(講義科目)

区分	学科	機 械	電子システム	情 報	デザイン	基礎教育系列	全 体
設 問	科目数	17	20	19	7	22	85
I-1	平均値	4.66	4.67	4.61	4.55	4.60	4.63
	標準偏差	0.70	0.62	0.64	0.68	0.70	0.67
I-2	平均値	3.98	3.73	3.45	3.69	3.90	3.75
	標準偏差	1.10	1.18	1.26	1.16	1.16	1.19
I-3	平均値	1.67	1.73	1.58	2.00	1.77	1.71
	標準偏差	0.93	1.05	0.89	1.16	1.02	1.00
I-5	平均値	1.56	1.67	1.46	1.62	1.68	1.60
	標準偏差	0.94	1.10	0.90	1.03	1.10	1.02
II-1	平均値	3.72	3.91	3.85	3.84	3.88	3.84
	標準偏差	1.03	1.02	0.98	0.97	0.97	1.00
II-3	平均値	3.82	4.07	3.99	3.98	4.03	3.98
	標準偏差	0.94	0.93	0.86	0.87	0.89	0.91
II-5	平均値	3.90	4.11	3.96	3.93	4.04	4.00
	標準偏差	1.10	1.01	1.06	1.04	1.00	1.05
II-6	平均値	3.75	4.01	3.96	4.08	3.91	3.93
	標準偏差	1.07	1.00	1.00	0.93	0.98	1.01
II-7	平均値	3.88	3.95	3.79	3.91	3.99	3.90
	標準偏差	0.96	0.99	0.97	0.99	0.94	0.97
II-8	平均値	3.66	3.79	3.72	3.75	3.90	3.77
	標準偏差	0.97	1.00	0.95	1.00	0.97	0.98
II-9	平均値	3.43	3.52	3.42	3.65	3.54	3.49
	標準偏差	1.03	1.09	1.02	0.96	0.98	1.03
II-10	平均値	3.33	3.56	3.44	3.87	3.40	3.48
	標準偏差	1.02	1.07	1.04	0.95	0.96	1.03
III	平均値	3.58	3.80	3.66	3.87	3.77	3.72
	標準偏差	1.01	1.03	0.99	0.97	0.95	1.00

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.49	3.61	3.56	3.41	3.51	3.53
	標準偏差	0.73	0.82	0.77	0.70	0.76	0.77
II-4	平均値	3.19	3.32	3.25	3.25	3.33	3.27
	標準偏差	0.60	0.67	0.59	0.61	0.66	0.63

※1-4「受講動機」回答の分布(複数回答可)

単位：%

回答/学科	機 械	電子システム	情 報	デザイン	基礎教育系列	全 体
1. 講義への興味	12.6	10.3	12.5	10.8	11.4	11.6
2. 教員にひかれて	4.2	3.8	2.5	2.2	3.2	3.3
3. 単位が必要	66.3	58.3	61.9	49.5	69.0	61.9
4. 単位取得が楽	7.1	9.2	5.7	8.4	4.3	6.9
5. 時間帯が空いている	9.7	18.4	17.4	29.1	12.1	16.3
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

5. 国際学部科目

(1) 英語群（配当学年、回答者の学年で分類）

区 分	回答者学年	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
設 問	科 目 数	23	15	13	6	1	38
I-1	平 均 値	4.67	4.36	4.51	4.00	4.47	4.58
	標 準 偏 差	0.63	0.89	0.63	0.87	0.65	0.67
I-2	平 均 値	3.84	4.11	3.73	3.75	3.53	3.80
	標 準 偏 差	1.15	0.99	1.20	1.30	1.18	1.17
I-3	平 均 値	2.05	2.23	2.06	1.50	2.02	2.06
	標 準 偏 差	1.09	1.06	1.11	0.71	0.89	1.08
I-5	平 均 値	1.60	1.51	1.53	1.38	1.40	1.56
	標 準 偏 差	1.08	0.85	0.98	0.70	0.87	1.02
II-1	平 均 値	4.02	4.13	4.05	4.38	3.77	4.02
	標 準 偏 差	1.03	0.87	0.96	1.32	0.95	1.01
II-3	平 均 値	4.18	4.06	4.17	4.50	4.11	4.17
	標 準 偏 差	0.93	0.86	0.89	0.71	0.96	0.92
II-5	平 均 値	4.29	4.31	4.34	4.57	4.33	4.31
	標 準 偏 差	0.99	0.89	0.88	0.73	0.93	0.95
II-6	平 均 値	4.16	4.15	4.31	4.88	4.00	4.20
	標 準 偏 差	0.95	0.86	0.83	0.33	1.01	0.92
II-7	平 均 値	4.25	4.23	4.34	4.38	4.09	4.26
	標 準 偏 差	0.91	0.83	0.85	0.86	1.03	0.90
II-8	平 均 値	4.16	4.04	4.30	4.63	3.72	4.17
	標 準 偏 差	0.99	0.85	0.85	0.70	1.11	0.96
II-9	平 均 値	4.09	4.02	4.19	4.63	3.72	4.09
	標 準 偏 差	0.97	1.04	0.78	0.70	1.00	0.94
II-10	平 均 値	3.84	4.09	3.85	4.63	3.43	3.84
	標 準 偏 差	1.11	0.99	1.02	0.70	1.18	1.09
III	平 均 値	4.20	4.02	4.20	4.75	3.94	4.17
	標 準 偏 差	0.99	1.00	0.88	0.66	1.00	0.96

※3の回答が適切である項目

II-2	平 均 値	3.15	3.28	3.17	3.00	3.28	3.17
	標 準 偏 差	0.81	0.76	0.81	0.00	0.57	0.79
II-4	平 均 値	3.08	3.21	3.12	3.13	3.02	3.10
	標 準 偏 差	0.59	0.54	0.52	0.33	0.25	0.55

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 学 科	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
1. 講義への興味	2.6	7.7	0.7	0.0	2.3	2.4
2. 教員にひかれて	3.0	7.7	0.0	0.0	0.0	2.2
3. 単位が必要	61.9	66.7	88.1	85.7	86.0	72.7
4. 単位取得が楽	14.3	7.7	3.0	14.3	4.7	9.5
5. 時間帯が空いている	18.2	10.3	8.2	0.0	7.0	13.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 地域言語群 (配当学年、回答者の学年で分類)

区 分	回答者の学年	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
設 問	科目数	33	15	24	8	4	58
I-1	平均値	4.68	4.25	4.38	4.20	4.61	4.54
	標準偏差	0.65	0.86	0.74	0.75	0.49	0.71
I-2	平均値	4.47	4.14	4.20	4.13	4.61	4.35
	標準偏差	0.78	0.95	0.89	1.31	0.59	0.86
I-3	平均値	2.18	1.92	1.85	2.53	1.72	2.06
	標準偏差	1.02	0.95	1.03	1.09	0.80	1.04
I-5	平均値	1.73	1.81	1.61	1.87	1.94	1.69
	標準偏差	1.11	1.13	1.05	1.26	1.39	1.09
II-1	平均値	4.23	4.26	4.20	4.33	4.78	4.23
	標準偏差	0.87	1.02	0.90	0.87	0.42	0.89
II-3	平均値	4.26	4.25	4.28	4.53	4.56	4.27
	標準偏差	0.87	0.79	0.84	0.72	0.68	0.85
II-5	平均値	4.33	4.28	4.15	4.60	4.67	4.27
	標準偏差	0.89	0.93	1.00	0.71	0.58	0.94
II-6	平均値	4.30	4.06	4.12	4.33	4.83	4.22
	標準偏差	0.87	1.09	0.98	0.94	0.37	0.93
II-7	平均値	4.24	3.80	4.16	4.53	4.83	4.19
	標準偏差	0.96	1.26	0.98	0.72	0.37	0.99
II-8	平均値	4.16	3.97	4.07	4.07	4.78	4.12
	標準偏差	0.90	1.06	0.93	1.28	0.42	0.93
II-9	平均値	4.09	3.91	3.95	3.73	4.61	4.02
	標準偏差	0.92	1.27	1.02	1.29	0.59	0.99
II-10	平均値	3.99	3.94	3.82	4.40	4.50	3.94
	標準偏差	1.00	1.14	1.07	0.95	0.76	1.04
III	平均値	4.28	3.97	4.13	4.07	4.67	4.21
	標準偏差	0.88	1.18	0.96	1.28	0.58	0.94

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.43	3.42	3.39	3.67	3.39	3.42
	標準偏差	0.70	0.95	0.73	0.94	0.49	0.73
II-4	平均値	3.25	3.33	3.14	3.40	3.00	3.22
	標準偏差	0.63	0.78	0.59	0.71	0.00	0.63

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1年配当 (1年)	1年配当 (2～4年)	2年配当 (2年)	2年配当 (3・4年)	3・4年配当 (3・4年)	全 体
1. 講義への興味	1.7	3.7	1.1	0.0	10.3	1.5
2. 教員にひかれて	3.0	7.4	2.3	0.0	10.3	2.9
3. 単位が必要	34.7	55.6	57.6	68.8	13.8	44.6
4. 単位取得が楽	13.9	3.7	10.2	12.5	37.9	12.0
5. 時間帯が空いている	46.9	29.6	28.8	18.8	27.6	39.0
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 基礎科目群 (回答者の学年で分類)

区 分	回答者の学年	1年	2年	3・4年	全 体
設 問	科目数	15	13	12	19
I-1	平均値	4.69	4.69	4.46	4.64
	標準偏差	0.60	0.58	0.76	0.65
I-2	平均値	3.68	4.26	4.04	3.84
	標準偏差	1.22	0.89	1.05	1.17
I-3	平均値	1.73	1.77	1.80	1.75
	標準偏差	1.05	1.01	1.08	1.05
I-5	平均値	1.53	1.81	1.56	1.57
	標準偏差	1.08	1.24	1.11	1.11
II-1	平均値	4.15	4.36	4.28	4.21
	標準偏差	0.94	0.89	0.98	0.95
II-3	平均値	4.23	4.16	4.16	4.20
	標準偏差	0.86	0.99	0.97	0.91
II-5	平均値	4.22	4.33	4.35	4.27
	標準偏差	0.95	0.90	0.90	0.94
II-6	平均値	4.12	4.32	4.05	4.13
	標準偏差	0.99	0.98	1.11	1.02
II-7	平均値	4.19	4.41	4.32	4.25
	標準偏差	0.86	0.78	0.92	0.87
II-8	平均値	3.99	3.95	4.15	4.02
	標準偏差	0.99	1.16	1.02	1.02
II-9	平均値	4.01	4.06	4.04	4.02
	標準偏差	0.90	1.08	1.07	0.97
II-10	平均値	3.76	4.13	4.25	3.92
	標準偏差	1.05	0.99	0.93	1.04
III	平均値	4.00	4.24	4.25	4.09
	標準偏差	0.97	1.01	0.93	0.98

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.40	3.39	3.39	3.39
	標準偏差	0.77	0.81	0.72	0.76
II-4	平均値	3.27	3.26	3.12	3.23
	標準偏差	0.65	0.54	0.56	0.62

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回 答 / 学 科	1年	2年	3・4年	全 体
1. 講義への興味	8.6	8.5	9.6	8.9
2. 教員にひかれて	0.9	4.2	3.7	2.3
3. 単位が必要	54.9	38.0	38.5	47.2
4. 単位取得が楽	10.7	16.9	11.9	12.1
5. 時間帯が空いている	24.9	32.4	36.3	29.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

(4) 専門共通科目 (回答者の所属で分類)

区 分	科目区分	専門(1年)	専門(2年)	専門(3・4年)	全 体
設 問	科目数	8	10	10	10
I-1	平均値	4.69	4.22	4.32	4.59
	標準偏差	0.63	0.70	0.86	0.71
I-2	平均値	3.97	3.57	3.90	3.92
	標準偏差	1.09	1.22	1.27	1.14
I-3	平均値	1.65	1.81	1.60	1.65
	標準偏差	1.03	0.88	1.06	1.03
I-5	平均値	1.45	1.65	1.49	1.48
	標準偏差	0.97	1.02	1.09	1.00
II-1	平均値	4.03	3.92	4.30	4.07
	標準偏差	1.05	1.07	0.99	1.05
II-3	平均値	4.04	4.06	4.29	4.09
	標準偏差	0.97	0.88	0.77	0.93
II-5	平均値	4.11	4.30	4.25	4.15
	標準偏差	1.08	0.87	1.00	1.05
II-6	平均値	4.05	4.11	4.17	4.08
	標準偏差	1.13	0.98	0.97	1.09
II-7	平均値	4.14	4.14	4.39	4.18
	標準偏差	0.99	0.96	0.78	0.96
II-8	平均値	3.56	3.95	4.08	3.68
	標準偏差	1.21	1.01	0.94	1.17
II-9	平均値	3.77	3.78	3.94	3.80
	標準偏差	1.12	1.14	0.92	1.09
II-10	平均値	3.91	3.97	4.08	3.94
	標準偏差	1.11	1.08	0.94	1.08
III	平均値	3.98	4.03	4.19	4.02
	標準偏差	1.12	1.00	0.90	1.07

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.50	3.49	3.49	3.50
	標準偏差	0.71	0.68	0.73	0.72
II-4	平均値	3.36	3.16	3.25	3.33
	標準偏差	0.67	0.55	0.58	0.65

※1-4「受講動機」回答の分布(複数回答可)

単位：%

回 答 / 科目区分	専門(1年)	専門(2年)	専門(3・4年)	全 体
1. 講義への興味	13.4	5.0	10.8	12.2
2. 教員にひかれて	2.6	2.5	2.2	2.5
3. 単位が必要	24.1	62.5	39.8	29.9
4. 単位取得が楽	19.1	22.5	11.8	18.1
5. 時間帯が空いている	40.8	7.5	35.5	37.3
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

(5) 専門コース科目（回答者の所属で分類）

区 分	科目区分	国際協力		国際経済		国際政治		国際文化		国際観光		農業総合		専門コース科目	
	科目数	16		9		7		7		5		1		45	
設 問	学生所属	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻	全体	主専攻
I-1	平均値	4.36	4.36	4.42	4.48	4.35	4.32	4.36	4.37	4.38	4.44	4.37	4.83	4.38	4.38
	標準偏差	0.78	0.78	0.76	0.75	0.78	0.82	0.81	0.83	0.79	0.70	0.77	0.37	0.79	0.79
I-2	平均値	3.58	3.58	3.70	4.01	3.66	3.81	3.84	3.84	4.02	4.25	3.56	4.33	3.82	3.81
	標準偏差	1.18	1.18	1.18	1.13	1.19	1.20	1.20	1.20	1.13	1.01	1.19	0.47	1.18	1.20
I-3	平均値	1.75	1.75	1.76	1.86	1.71	1.73	1.77	1.75	1.76	1.61	1.75	2.33	1.74	1.77
	標準偏差	1.14	1.14	1.13	1.14	1.13	1.17	1.22	1.21	1.21	1.09	1.16	1.37	1.16	1.18
I-5	平均値	1.70	1.70	1.69	1.85	1.64	1.71	1.76	1.67	1.74	1.59	1.70	2.00	1.70	1.74
	標準偏差	1.21	1.21	1.20	1.26	1.17	1.20	1.26	1.22	1.24	1.06	1.22	1.15	1.20	1.23
II-1	平均値	3.94	3.94	3.94	4.10	3.94	4.05	3.91	3.89	4.02	4.34	3.91	4.17	4.02	4.04
	標準偏差	1.03	1.03	1.04	1.01	1.04	1.01	1.08	1.09	1.02	0.81	1.04	0.69	1.02	1.02
II-3	平均値	4.07	4.07	4.07	4.13	4.03	4.06	3.99	4.00	4.09	4.42	4.05	4.33	4.11	4.12
	標準偏差	0.92	0.92	0.96	0.98	0.95	0.95	0.93	0.92	0.92	0.76	0.93	0.47	0.92	0.92
II-5	平均値	4.13	4.13	4.12	4.22	4.08	4.13	3.96	3.96	4.08	4.44	4.11	4.33	4.14	4.15
	標準偏差	1.02	1.02	1.05	1.06	1.06	1.05	1.08	1.03	1.02	0.81	1.03	0.47	1.02	1.02
II-6	平均値	4.07	4.07	4.02	4.08	4.03	4.11	3.93	3.93	4.04	4.32	4.04	4.50	4.08	4.10
	標準偏差	1.02	1.02	1.04	1.04	1.04	1.01	1.06	1.04	1.01	0.86	1.02	0.50	1.01	1.00
II-7	平均値	4.17	4.17	4.21	4.30	4.11	4.18	4.00	4.06	4.14	4.43	4.14	4.50	4.19	4.19
	標準偏差	0.97	0.97	0.92	0.86	0.99	0.96	1.03	1.00	0.97	0.79	0.97	0.50	0.95	0.96
II-8	平均値	3.88	3.88	3.88	3.99	3.77	3.75	3.67	3.66	3.75	4.03	3.85	3.83	3.83	3.84
	標準偏差	1.02	1.02	1.02	0.98	1.11	1.20	1.16	1.14	1.13	1.02	1.02	0.90	1.09	1.10
II-9	平均値	3.84	3.84	3.86	3.99	3.85	3.98	3.80	3.76	3.94	4.40	3.82	4.17	3.94	3.97
	標準偏差	1.02	1.02	1.03	1.02	1.05	1.04	1.06	1.03	1.02	0.75	1.02	0.69	1.01	1.01
II-10	平均値	3.92	3.92	3.92	4.02	3.90	4.02	3.86	3.86	3.99	4.36	3.89	4.50	3.99	4.01
	標準偏差	1.02	1.02	1.03	1.05	1.04	1.01	1.07	1.04	1.01	0.76	1.02	0.50	1.01	1.01
III	平均値	4.03	4.03	4.02	4.11	3.97	4.06	3.91	3.94	4.05	4.39	4.00	4.33	4.07	4.09
	標準偏差	1.01	1.01	1.04	1.03	1.03	1.00	1.02	0.99	0.97	0.78	1.01	0.47	0.99	0.99

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.38	3.38	3.36	3.35	3.33	3.22	3.32	3.36	3.27	3.12	3.40	3.67	3.31	3.31
	標準偏差	0.74	0.74	0.73	0.73	0.75	0.74	0.75	0.69	0.70	0.56	0.74	0.75	0.71	0.71
II-4	平均値	3.18	3.18	3.16	3.16	3.18	3.17	3.24	3.25	3.24	3.14	3.19	3.33	3.19	3.19
	標準偏差	0.56	0.56	0.56	0.57	0.62	0.67	0.70	0.68	0.66	0.46	0.58	0.75	0.60	0.62

単位：%

回 答 / 科目区分	国際協力		国際経済		国際政治		国際文化		国際観光		農業総合		専門コース科目	
1. 講義への興味	10.1	10.1	10.2	10.7	9.2	6.9	10.9	11.9	10.0	8.9	11.0	25.0	9.9	9.4
2. 教員にひかれて	3.8	3.8	4.0	3.4	4.3	4.2	5.9	6.2	5.6	4.4	4.0	0.0	4.5	4.7
3. 単位が必要	40.6	40.6	40.8	42.2	40.0	39.6	41.4	40.9	37.7	25.1	40.7	25.0	38.5	38.4
4. 単位取得が楽	19.2	19.2	15.6	9.7	19.4	21.9	13.2	10.0	14.0	20.7	17.7	8.3	16.8	17.0
5. 時間帯が空いている	26.3	26.3	29.4	34.0	27.1	27.5	28.6	30.9	32.7	41.0	26.6	41.7	30.4	30.5
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6. 教養教育科目

(1) 講義科目 (群別)

項目	群	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群	第8群	第9群	第10群	第12群	全体
	科目数	8	7	5	9	4	7	7	2	4	11		64
I-1	平均値	4.49	4.51	4.56	4.54	4.42	4.51	4.54	4.54	4.55	4.54		4.53
	標準偏差	0.87	0.80	0.73	0.73	0.88	0.82	0.81	0.84	0.72	0.76		0.79
I-2	平均値	4.06	3.64	3.73	4.13	4.46	3.67	3.85	3.73	3.60	3.65		3.81
	標準偏差	1.16	1.33	1.27	1.08	0.72	1.25	1.28	1.23	1.13	1.37		1.26
I-3	平均値	1.55	1.45	1.56	1.67	1.40	1.56	1.44	1.76	1.47	1.55		1.53
	標準偏差	1.04	0.96	1.16	1.08	0.80	1.10	0.92	0.99	0.96	1.04		1.04
I-5	平均値	1.52	1.37	1.52	1.51	1.21	1.50	1.27	1.46	1.39	1.43		1.44
	標準偏差	1.12	0.92	1.10	1.07	0.62	1.07	0.81	1.09	0.87	0.95		1.01
II-1	平均値	3.87	3.61	3.88	3.72	4.13	3.93	3.33	3.31	3.43	4.23		3.77
	標準偏差	1.04	1.14	1.02	1.15	0.91	1.03	1.18	1.08	1.18	0.90		1.10
II-3	平均値	4.00	3.85	3.99	3.86	4.10	3.97	3.77	3.78	3.78	4.24		3.94
	標準偏差	0.88	0.97	0.89	0.94	0.90	0.93	0.97	0.97	0.98	0.84		0.93
II-5	平均値	4.22	3.92	4.15	3.72	4.13	4.09	3.38	3.51	3.44	4.40		3.97
	標準偏差	0.94	1.08	0.92	1.26	1.05	1.02	1.24	1.13	1.34	0.83		1.11
II-6	平均値	3.88	3.93	4.12	3.83	3.99	4.00	3.60	3.58	3.66	4.13		3.91
	標準偏差	1.04	1.05	0.93	1.16	0.98	0.99	1.15	1.12	1.20	1.00		1.07
II-7	平均値	3.89	3.86	4.07	3.99	4.33	3.71	3.64	3.62	3.68	4.27		3.90
	標準偏差	1.06	1.05	0.91	0.97	0.91	1.08	1.07	1.12	1.08	0.87		1.03
II-8	平均値	3.65	3.52	3.56	3.62	3.74	3.64	3.50	3.38	3.43	4.06		3.63
	標準偏差	1.11	1.15	1.13	1.14	1.08	1.08	1.10	1.00	1.03	1.02		1.11
II-9	平均値	3.60	3.49	3.89	3.59	3.89	3.86	2.98	3.11	3.14	4.19		3.62
	標準偏差	1.03	1.05	0.93	1.13	0.86	0.95	1.19	1.22	1.19	0.84		1.09
II-10	平均値	3.75	3.60	3.89	3.56	3.89	3.97	3.12	2.85	3.39	4.05		3.69
	標準偏差	1.09	1.07	1.01	1.14	0.91	0.94	1.17	1.09	1.18	0.96		1.10
III	平均値	3.91	3.71	4.03	3.68	4.05	4.03	3.27	3.11	3.42	4.32		3.83
	標準偏差	0.98	1.03	0.93	1.14	0.90	0.93	1.15	1.12	1.14	0.83		1.06

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.52	3.44	3.28	3.43	3.31	3.34	3.83	3.67	3.78	3.21		3.45
	標準偏差	0.76	0.75	0.71	0.78	0.76	0.72	0.84	0.97	0.79	0.67		0.78
II-4	平均値	3.27	3.29	3.22	3.26	3.15	3.21	3.46	3.44	3.31	3.13		3.27
	標準偏差	0.70	0.65	0.60	0.68	0.73	0.60	0.79	0.93	0.66	0.55		0.67

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 / 群	第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群	第8群	第9群	第10群	第12群	全体
1. 講義への興味	25.3	23.2	23.5	27.0	24.1	22.5	30.1	25.4	24.5	17.8		24.1
2. 教員にひかれて	3.4	7.9	5.2	5.6	2.8	6.5	2.3	0.0	2.9	6.1		5.1
3. 単位が必要	33.8	35.5	34.8	29.5	32.4	33.6	42.0	38.0	49.3	37.1		36.0
4. 単位取得が楽	7.9	3.8	5.8	6.8	4.6	8.6	3.8	5.6	6.8	12.3		6.9
5. 時間帯が空いている	29.7	29.7	30.7	31.1	36.1	28.8	21.9	31.0	16.5	26.6		28.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0

(2) 外国語科目 (商・政経・外国語学部、12カ国語)

項目	外国語	英語	A語	B・P語	C語	F語	G語	K語	I・M語	I・P語	R語	S語	日本語	全体
	科目数	109	2	2	22	12	18	12	8	2	2	11	16	216
I-1	平均値	4.66	4.50	4.32	4.58	4.70	4.61	4.67	4.76	4.50	4.47	4.54	4.73	4.64
	標準偏差	0.66	0.50	0.84	0.71	0.63	0.73	0.65	0.63	0.50	0.73	0.73	0.55	0.67
I-2	平均値	3.90	3.75	4.52	4.31	4.34	4.20	4.36	4.22	4.50	4.75	4.10	4.35	4.08
	標準偏差	1.17	0.43	0.70	0.92	0.92	0.94	0.93	1.04	0.50	0.60	1.04	0.93	1.08
I-3	平均値	1.84	1.75	1.76	2.02	1.85	1.78	1.98	1.86	1.83	1.83	1.76	2.89	1.91
	標準偏差	1.08	0.83	0.71	1.05	1.02	0.93	1.15	0.98	0.69	0.96	0.97	1.21	1.08
I-5	平均値	1.54	1.75	1.20	1.50	1.49	1.44	1.61	1.46	1.17	1.25	1.54	2.78	1.58
	標準偏差	1.04	1.30	0.49	1.00	1.05	0.99	1.11	0.99	0.37	0.60	1.04	1.45	1.08
II-1	平均値	4.04	3.75	4.52	4.07	4.22	4.23	4.33	4.10	4.67	4.33	3.94	4.43	4.10
	標準偏差	0.99	0.43	0.64	0.97	0.89	0.89	0.81	0.94	0.75	0.88	0.93	0.82	0.96
II-3	平均値	4.11	3.75	4.60	4.17	4.22	4.28	4.29	4.17	4.00	4.36	4.18	4.36	4.17
	標準偏差	0.90	0.83	0.57	0.89	0.83	0.77	0.79	0.86	0.82	0.79	0.84	0.83	0.87
II-5	平均値	4.22	4.25	4.67	4.07	4.22	4.35	4.41	4.30	5.00	4.35	4.20	4.55	4.24
	標準偏差	0.98	0.83	0.69	1.02	0.98	0.88	0.82	0.89	0.00	1.06	0.96	0.73	0.96
II-6	平均値	4.10	4.25	4.48	4.00	4.19	4.21	4.29	4.26	4.00	4.25	3.98	4.42	4.12
	標準偏差	0.96	0.83	0.64	1.01	0.94	0.89	0.88	0.89	0.82	0.76	0.97	0.76	0.95
II-7	平均値	4.18	4.00	4.60	4.05	4.22	4.34	4.29	4.32	5.00	4.61	4.15	4.33	4.20
	標準偏差	0.94	1.00	0.49	0.97	0.92	0.83	0.88	0.81	0.00	0.49	0.88	0.85	0.92
II-8	平均値	4.01	3.00	4.48	3.97	4.18	4.19	4.31	4.20	4.33	3.94	3.98	4.31	4.07
	標準偏差	0.96	1.41	0.57	0.96	0.92	0.88	0.79	0.93	0.75	0.97	0.87	0.84	0.94
II-9	平均値	3.93	3.50	3.92	3.80	3.94	3.91	4.24	3.76	4.00	3.92	3.60	4.45	3.93
	標準偏差	0.97	0.50	0.93	1.00	0.93	1.02	0.84	1.06	0.82	0.92	1.09	0.80	0.98
II-10	平均値	3.71	3.50	4.08	3.63	3.96	3.87	4.05	3.86	4.50	3.97	3.57	4.32	3.78
	標準偏差	1.05	0.50	1.06	1.05	0.93	0.99	0.98	1.04	0.76	0.99	1.09	0.85	1.04
III	平均値	4.06	3.75	4.40	3.93	4.20	4.20	4.27	4.18	4.67	4.36	3.91	4.51	4.09
	標準偏差	0.97	0.43	0.80	1.03	0.91	0.97	0.89	0.95	0.47	0.82	1.03	0.77	0.97

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.30	3.50	3.48	3.55	3.43	3.51	3.31	3.63	3.33	3.36	3.68	3.22	3.39
	標準偏差	0.76	0.50	0.50	0.71	0.66	0.67	0.80	0.75	0.47	0.58	0.76	0.63	0.75
II-4	平均値	3.13	3.00	3.16	3.34	3.25	3.22	3.20	3.33	3.00	3.08	3.41	3.20	3.20
	標準偏差	0.57	0.00	0.37	0.69	0.60	0.54	0.67	0.64	0.00	0.28	0.64	0.54	0.60

※1-4「受講動機」回答の分布 (複数回答可)

単位：%

回答 /	外国語	英語	A語	B・P語	C語	F語	G語	K語	I・M語	I・P語	R語	S語	日本語	全体
1. 講義への興味	2.6	0.0	0.0	2.7	0.6	0.9	3.0	0.7	0.0	0.0	0.7	3.3	2.2	
2. 教員にひかれて	1.6	0.0	6.3	0.9	1.8	0.9	5.0	6.7	0.0	0.0	1.3	6.6	2.2	
3. 単位が必要	78.3	50.0	75.0	71.0	64.7	69.9	47.0	46.3	100.0	48.6	74.5	31.5	69.2	
4. 単位取得が楽	6.9	0.0	0.0	5.5	8.8	7.8	11.0	2.2	0.0	8.6	6.5	19.7	7.7	
5. 時間帯が空いている	10.7	50.0	18.8	19.9	24.1	20.5	34.0	44.0	0.0	42.9	17.0	39.0	18.6	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

注1. A語：アラビア語、B・P語：ブラジル・ポルトガル語、C語：中国語、F語：フランス語、
G語：ドイツ語、K語：韓国語、I・M語：インドネシア・マレーシア語、
I・P語：インド・パキスタン語 (実施科目なし)、R語：ロシア語、S語：スペイン語

注2. 国際学部の地域言語は、47ページを参照

(3) スポーツ・トレーニング科目

設 問	科 目 数	12
I-1	平 均 値	4.65
	標 準 偏 差	0.62
I-2	平 均 値	4.30
	標 準 偏 差	0.85
I-3	平 均 値	4.48
	標 準 偏 差	0.77
II-1	平 均 値	4.27
	標 準 偏 差	0.93
II-4	平 均 値	4.14
	標 準 偏 差	0.95
II-5	平 均 値	4.48
	標 準 偏 差	0.74
II-6	平 均 値	4.38
	標 準 偏 差	0.86
II-7	平 均 値	4.34
	標 準 偏 差	0.82
II-8	平 均 値	4.37
	標 準 偏 差	0.77
II-9	平 均 値	4.36
	標 準 偏 差	0.81
II-10	平 均 値	4.22
	標 準 偏 差	0.87
II-11	平 均 値	4.32
	標 準 偏 差	0.79
III	平 均 値	4.43
	標 準 偏 差	0.82
IV-1	平 均 値	4.45
	標 準 偏 差	0.77
IV-2	平 均 値	4.43
	標 準 偏 差	0.82
IV-3	平 均 値	3.94
	標 準 偏 差	1.09

※3の回答が適切である項目

設 問	科 目 数	12
II-2	平 均 値	3.15
	標 準 偏 差	0.77
II-3	平 均 値	3.13
	標 準 偏 差	0.60

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

回 答	
1. 講義への興味	7.7
2. 教員にひかれて	4.1
3. 単位が必要	46.2
4. 単位取得が楽	8.6
5. 時間帯が空いている	33.5
合 計	100.0

(4) 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目

区分	課程・講座	教 職	社 教	日 語	全 体
設 問	科目数	19	2	5	26
I-1	平均値	4.58	4.50	4.70	4.60
	標準偏差	0.64	0.50	0.58	0.63
I-2	平均値	4.10	3.75	4.18	4.11
	標準偏差	1.00	0.83	0.98	1.00
I-3	平均値	1.80	2.00	1.73	1.79
	標準偏差	1.05	0.71	1.09	1.05
I-5	平均値	1.68	1.75	1.74	1.69
	標準偏差	1.13	0.83	1.32	1.16
II-1	平均値	4.27	4.50	4.21	4.26
	標準偏差	0.90	0.87	0.98	0.91
II-3	平均値	4.29	3.75	4.27	4.28
	標準偏差	0.81	0.43	0.98	0.83
II-5	平均値	4.42	5.00	4.51	4.43
	標準偏差	0.88	0.00	0.64	0.85
II-6	平均値	4.34	4.75	4.26	4.34
	標準偏差	0.89	0.43	0.88	0.89
II-7	平均値	4.43	4.75	4.37	4.42
	標準偏差	0.80	0.43	0.83	0.80
II-8	平均値	4.03	3.50	4.18	4.05
	標準偏差	1.03	0.50	1.00	1.02
II-9	平均値	4.10	4.00	4.18	4.11
	標準偏差	0.88	0.00	0.92	0.89
II-10	平均値	4.19	4.00	4.23	4.20
	標準偏差	0.87	0.71	0.97	0.89
III	平均値	4.26	4.50	4.30	4.27
	標準偏差	0.85	0.50	0.98	0.87

※3の回答が適切である項目

II-2	平均値	3.27	3.75	3.26	3.27
	標準偏差	0.56	0.83	0.72	0.59
II-4	平均値	3.17	3.25	3.03	3.15
	標準偏差	0.52	0.43	0.65	0.55

※1-4「受講動機」回答の分布（複数回答可）

単位：%

回 答 / 課程・講座	教 職	社 教	日 語	全 体
1. 講義への興味	1.9	0.0	7.6	2.8
2. 教員にひかれて	0.7	0.0	3.8	1.2
3. 単位が必要	78.2	100.0	45.6	73.2
4. 単位取得が楽	9.7	0.0	7.6	9.3
5. 時間帯が空いている	9.4	0.0	35.4	13.5
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

V 評価及び課題

1. 商学部

平成29年度授業改善のための学生アンケートの概要から、商学部での授業改善活動を以下に報告する。

先ず、本学では、早期より学生アンケートの実施と評価、フィードバックを行い、FD活動の一環として大きな成果を上げてきた。授業改善のための学生アンケートは、各教員間でも支持されたり、学生側にも直接的には授業への取り組みの姿勢や、教員への提案や意見の集約にも、また間接的にも、学生の学習自覚や自己啓発にも役だっていると言える。

以下、本年度の上掲アンケートについての集約と総括を行い報告したい。

1. 本アンケート実施の対象

11月1日から12月8日までの実施期間において、実施率は、専任教員48名（100%）、非常勤講師110名（100%）であり、実施科目は、前者97科目、後者169科目になる。

学生側の回答の状況では、1年生3491名、2年生3064名、3年生2221名、4年生876名及び無回答（16名）延べ数では、ほぼアンケート件数では、十分な回答率であり、その有効性について問題は無い。

但し、全学全体では、無回答2448名であり、多くは所属名（学部、学科）の未記入であり、今後のアンケート回収の際の確認作業など、アンケート実施方法の再検討も望まれる。

5. 学科目別実施科目数では、商学部の場合、商学部専門科目125科目、政経学部専門科目5科目と他学部の重複は少ない。また教養科目・総合教育科目24科目、外国語科目98科目であり、他学部と比較しても、ほぼバランスが取れている。

さらに各項目を外観し、コメントを以下に加える。

「1. 2. 科目別（講義等科目）平均値・標準偏差では、設問項目別でも、例えばⅠ－1では、商学部専門科目で4.57であり、ほぼ全学を平均値の4.56より若干高めであり、他の質問項目別に見ても、ほぼ平均値になっている。

尚、全体科目数967科目の内、商学部は130科目であり、平均値に近似している傾向は、この点では問題は無い。

「2. 教員所属別（講義等科目）では、（1）専任教員、（2）講師（非常勤）所属別の両者を比較しても、ほぼ全学の平均値に近似しており、問題は無い。

「3. 履修登録者数別比較表（講義科目）」では、Ⅰ－1質問項目、Ⅱ－7質問項目以外は、ほぼ少人数（100名以下）が、多人数科目を上回っている。

特徴的なのは、Ⅰ－1、出席状況、Ⅱ－1狙いの明確さ、また講義要項と進み具合、そしてⅢ. 満足度では、少人数科目が、全て多人数科目を上回っており、教員と学生とのコ

ンタクト頻度やコミュニケーションの連結性などが影響しているものと思われる。

また商学部のアナケート満足度Ⅲは、他学部と比しても、ほぼ同様の傾向を示している。

今後の課題としては、多人数登録科目の問題として、授業展開の工夫、また進度、教材など検討を加える必要がある。

質問項目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通じて、特にⅢ満足度は、総合評価の位置づけと考えられる。

次に時系列的に過去と今年度までの5年間を比較してみる。以下の各質問項目の内容であるが、商学部では、平成25年、26年、27年、28年、28年、29年度を比較すると、以下のような特徴がある。

Ⅰ-1 学生の出席状況

多人数クラス、中人数、少人数クラスともに4.5～7であり、差も少なく概ね各クラス、また年度を通じて、共に良好な出席状況であると言える。

Ⅰ-2 ノート・メモ

パソコン、視聴覚機材といったメモ媒体が、ノートやメモの紙媒体から、急速なIoT化が進んでおり、従来型の「板書⇒ノート書き取りパターン」の学習スタイルが、変わってきている。今後、eラーニングなどの検討が進むにつれて、アンケート項目も見直しが必要となるだろう。

Ⅰ-3 予習・復習

同様ように読書、資料、レポート作成といった学生の学習スタイルの変化は、予習、復習にも、ITノウハウが活かされてくる。

但し、指数としてはわずか1.6～2.0であり、十分な課題や問題意識を持って授業に臨み、また関心をもって振り返る機会はあまり高いとは言えない。この点は、今後、検討が必要となるだろう。

Ⅰ-5 質問(オフィスアワー等)

1-3予習・復習に関連して、3とこの5の項目は、年度別に見てもほとんど同様な指数で移行しており、質問を持って臨む深い関心の掘り起こしにまでは至らない。これも検討課題である。

Ⅱ-1 狙いの明確さ

時系列的にも指数は高く、4.0前後で移行しているが、カリキュラムでのシラバスの活用や、授業での教員の指示もあり、高い数値を示しており、問題はないと考える。

II-3 講義要項との進み具合

上記項目と同様であり、時系列的にも指数は高く、4.0前後で移行しているが、カリキュラムでのシラバスの活用や、授業での教員の指示もあり、高い数値を示しており、問題はないと考える。

II-5 声の大きさ

授業のIOT化に伴い、従来型の板書と筆記、マイクでの拡声などが、今後は、肉声によるコミュニケーションだけではなく効果的な手法にもアンケート項目を拡張すべきであろう。教室のサイズや音響効果もあるが、ほぼ4.0の指数で移行しており、問題はないと考える。

II-6 教材等の効果

IOT化に伴い、映像機器、パソコン連動の教材機器も活用されており、これは本学でも、また商学部でも高い指数を示している。

Black boardも教材効果には大いに益している。

II-7 教室内の雰囲気

教室の管理者は直接的には教員であるが、一方で、受け手、また対話の相互関係として学生の授業態度も、この教室の雰囲気作りには、大きく影響する。

本項目は、クラスの雰囲気作りという学習態度や学生動向の管理面にも関連して、今後も教員間でも論議したい項目である。

商学部では、指数としては4.0を上回り、良好な傾向を示している。

II-8 宿題・課題

先の1-3予習、復習とも関連して、宿題を与える、課題を与えるという学生への働きかけが、問題である。

尚、指数としては4.0を割り込み、やや低い傾向があるが、問題はないレベルと考えられる。

II-9 理解しやすさ

科目には、それ、それぞれのディスプリン（科目の本趣）があり、科目としての存立の意義があるが、必ずしも学生の理解度とは比例しない。

但し、教員には困難な学問体系の平易な説明や例示をおこなうノウハウも求められる。

Ⅱ-10 見方・考え方が深まる

学生の内面啓発にまで至って、初めて教育の効果が現れる。新たな視座の獲得、また、理解の深まりと関心の高まりなど、教育の効果は、抽象的な間接効果として現れる。その点で、本項目の指数が、4.0に近似して高い傾向があるのは、大変、良好であると考えられる。

Ⅲ. 満足度

時系列的にも、各年、指数で4.0を常に超えており、学生アンケートの総体勢として、良好な結果である。

授業に対する満足度とは、学生の下した結論でもあり、概ね授業に対して十分な評価を与えており、好ましい成果である。一方で、「満足度」とは、非常に主観的で、抽象的でもあり、具体的なブレークダウンとなると、曖昧性が残る。

先に記した通り、「満足度」は学生アンケートの最終的評価の総決算であり、この指標が優れて好成績なのは、概ね本学の授業が学生の一定の評価を得られており、大いに学生は満足していることを示すものである。

Ⅲ-2 難易度

商学部の専門科目において、難易度に対する学生の評価は、概ね3.5前後で例年、シフトしているが、3-4年生が中心の応用科目が多岐にわたり、それぞれの専門性も高まっていることから、この指数も必ずしも低い評価であるとは言えない。特に商学部の場合は、実務科目が多く、その点でも特殊性が強く、難易度にも影響しているようである。

Ⅲ-4 進度

上掲Ⅲ-2と同様、難易度に進度は影響されることが多いので、ほぼ、Ⅲ-2と同じ評価になっていると考えられる。ほぼ3.5前後の指数であり、これは、専門科目の特殊性、実務科目構成などから、「進度」については問題ないものと考えられる。

以上、学生のアンケート項目を、商学部の内容からコメントを加えたが、一方で、他学部と、これらアンケート項目に対する分布の差異は、大きな隔たりはなく、概ね、他学部とも同様な結果となっている。また全体との比較においても、大きな隔たりは見られない。

本項目について末尾になるが、スポーツ・トレーニング科目のアンケート項目について、Ⅳ-2 時間帯、Ⅳ-1 希望種目、Ⅳ-3 履修希望、Ⅱ-11 健康・体力維持に役立つなど、付加的なアンケート項目が、追加されており、商学部でも、特に満足度などの項目について、具体的なアンケート項目を追加することも検討したい。例えば、商学部の学部理念でもある「実務」学習などは、追加できる。

(2) 学生所属別平均値・標準偏差 (講義科目)

①学年別、また②学科別などから、(1)でのアンケート項目に対する回答の分布を見ると、大凡、1年次、2年次の評価が高く、これらから、初期教育の重要性が見て取れる。

また、③身分別からみると、助教の評価、特に平成28年度は、特に評価が高く、指数で4.8である。例年が4.0位であるとき、これは非常に高いことが分かる。一方で、平成29年度の助教は、3.7前後と、最も低くなる。大変な格差がある。

教授、准教授は、概ね4.0前後であり、ほぼ平年並で差異はない。また特別非常勤、講師(非常勤)は、特に特別非常勤の指数が高く、平均でも4.2ある。

④年代別では、40歳代、50歳代、60歳代と徐々に下がっており、0.2~0.4程度の差異がある。

6. 学部別設問項目の平均値・標準偏差

IV-1「あなたはこの授業へのあなた自身の取り組みを振り返って満足していますか」について。

本アンケート項目は、学部独自の項目であり、多岐に渡るアンケート項目の中で、満足度の項目を、具体的に学生に問いかけた形式をとっている。この項目については、4.0を超えて、どの学科でも平均的に良好な評価を得ている。

最後に、学科別のアンケート各項目の評価を確認したい。特に今回は、「Ⅲ. 満足度」をその学科ごとに、どのような評価になっているかを検討する。

経営学科(経営コース:26科目、経営情報コース:19科目、流通マーケティングコース:14科目)、国際ビジネス学科27科目、会計学科40科目のそれぞれの平均値・標準偏差は、順に以下ようになる。

平均値 経営コース:4.02、経営情報コース:3.82、流通マーケティングコース:4.11、
国際ビジネス学科:3.90、会計学科:3.91、全体:3.98

標準偏差 経営コース:0.97、経営情報コース:1.03、流通マーケティングコース:0.90、
国際ビジネス学科:0.99、会計学科:1.03、全体:0.98

数値だけで判断するのは、早計ではあるが、経営コース、流通・マーケティングコースは4.0を超えて評価が高く、一方で、経営情報コース、国際ビジネス学科、会計学科は3.8前後と低い傾向がある。但し例年との比較では、数値も入替変わっており、ほぼ例年4.0で、これも問題ないレベルである。

更に1-4「受講動機」では、「1. 講義への関心」は、国際ビジネス学科と会計学科が低く、11.0前後であり、経営情報コースが16.7と高い。

また「2 教員にひかれて」では、国際ビジネス学科が最も高い（4. 4）。

「4. 単位が必要」では、会計学科が5 4. 5 と大変高い。

また消極的とも取れる「4 単位取得が楽」「5 時間帯が空いていた」では、特に前者を見ると経営コースが最も高く1 5. 0、一方、会計学科が1. 0で最も低い。これらの傾向は専門科目についての項目であり、学生も3年生、4年生になって、科目に対するスタンスが定まってくると、「3. 単位が必要」（=低い指数）と「4. 単位取得が楽」（=高い指数）との二律背反 {単位必要な科目} は（「4. 楽に単位は取れない」ことが理解されてくるようだ。

以上、商学部における平成2 9年度学生アンケートの項目と評価分布について、概観と講評、および今後の方針、検討課題について論じた。

以 上

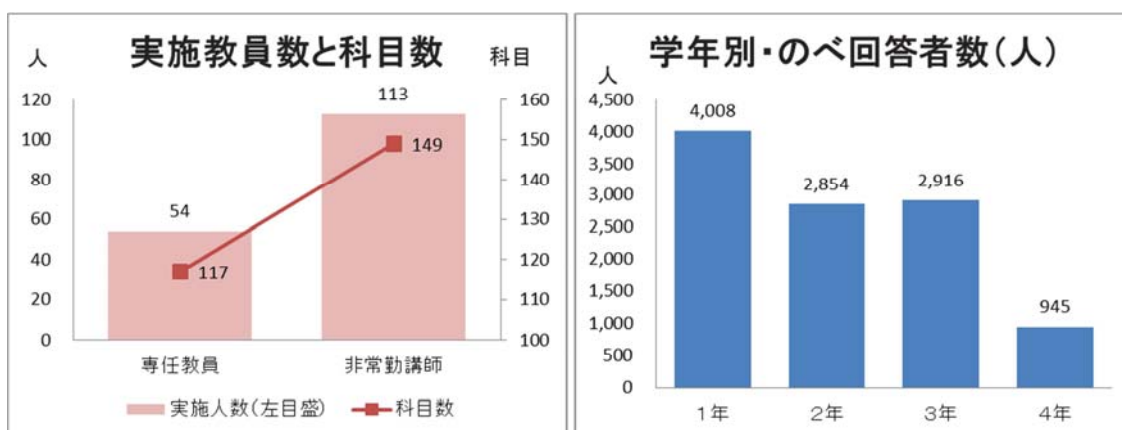
2. 政経学部

(1) 実施状況

平成 29 年度「授業改善のための学生アンケート」は、平成 29 年 11 月 1 日から 12 月 8 日までの約 1 カ月間をかけて、授業時間に実施した。アンケートの実施方法は、従来に同じであり、無記名式のアンケート（マークシート形式）を学生に配布し、それを記入させた上で回収したものである。本項では、政経学部における設置科目のうち専門科目に関する集計結果を示す。

政経学部に所属する専任教員 54 名および講師（非常勤）113 名に協力依頼をし、全員からのご協力を得た。対象科目については、教員に任意選定をして頂いており、科目数は専任教員が担当するもの 117 科目（1 教員あたり平均 2.2 科目）、講師が担当するもの 149 科目（同 1.3 科目）である。従って、167 名の教員により 266 科目に関する調査を実施したことになる。

アンケートの回答者数は、延べ人数ベースで 1 年生 4,008 名、2 年生 2,854 名、3 年生 2,916 名、4 年生 945 名の合計 10,754 名（学年不明者 31 名を含む）である。1 年生が多く、4 年生が少ないが、最小グループである 4 年生からも 945 名のサンプルを得ている。なお、1 科目あたりの回答数は 40.4 名（ $=10,754 \text{ 名} \div 266 \text{ 科目}$ ）であった。1 講義あたりの（欠席者を除いた）受講者数が 40 名前後というのが政経学部における平均的な講義風景であることが見てとれる。



資料：平成 29 年度「授業改善のための学生アンケート」の結果をもとに作成

(2) アンケート項目

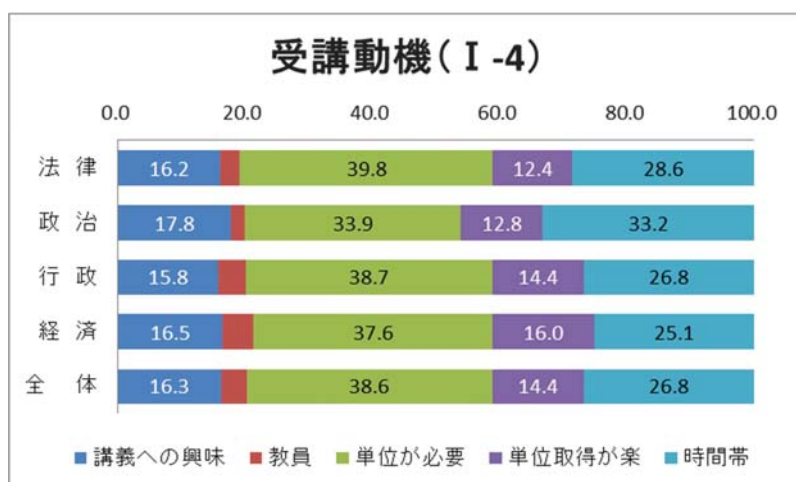
アンケート項目は下表に示される通りであり、全部で 16 問を設問している。はじめに学生の出席態度について問い、続いて、授業の進め方や内容に関して学生に評価をさせ、最後に総合的な満足度を問う構成である。

表 アンケート項目

I 受講する姿勢や動機について	
I-1	出席 (90%以上/80%以上/60%以上/40%以上/40%未満)
I-2	ノート (5段階評価、5が大、1が小)
I-3	予習復習 (4時間以上/2時間以上/1時間以上/30分以上/30分未満)
I-4	受講動機 (⑤興味/④教員/③単位が必要/④単位取得が楽/⑤時間帯)
I-5	授業時間以外での質問 (5段階評価、5が大、1が小)
II 授業の内容や進め方について	
II-1	授業の狙いや重要ポイントは明確か (5段階評価、5が大、1が小)
II-2	授業の難易度 (5段階評価、5が難しすぎる、1がやさしすぎる)
II-3	講義要項に沿った授業か (5段階評価、5が大、1が小)
II-4	授業の進度 (5段階評価、5が速すぎる、1が遅すぎる)
II-5	話し方や声は聞き取りやすいか (5段階評価、5が大、1が小)
II-6	教材は内容理解に有効か (5段階評価、5が大、1が小)
II-7	教室内の雰囲気 (5段階評価、5が大、1が小)
II-8	宿題・課題は適切か (5段階評価、5が大、1が小)
II-9	内容は理解できたか (5段階評価、5が大、1が小)
II-10	ものの見方や考え方は深まったか (5段階評価、5が大、1が小)
III 総合的な満足度 (5段階評価、5が大、1が小)	
その他：自由意見欄	

(3) 集計結果－受講する姿勢や動機

設問 I-4 では受講動機について問うた (複数回答)。これを専門科目の分類 (法律、政治、経済) ごとに集計したところ、受講動機はほぼ同じであることが分かった。3 分類の合計である全体レベルでは、「単位が必要」(39%)、「時間帯が空いている」(27%) が多く、「興味がある」(16%)、「単位取得が楽」(14%) が少なかった。1 年生、2 年生からの回答が多かったため、カリキュラムが要請する科目を優先する傾向があったかも知れない。また、時間割の編成から都合がつく時間帯に専門科目をあてる傾向が窺える。



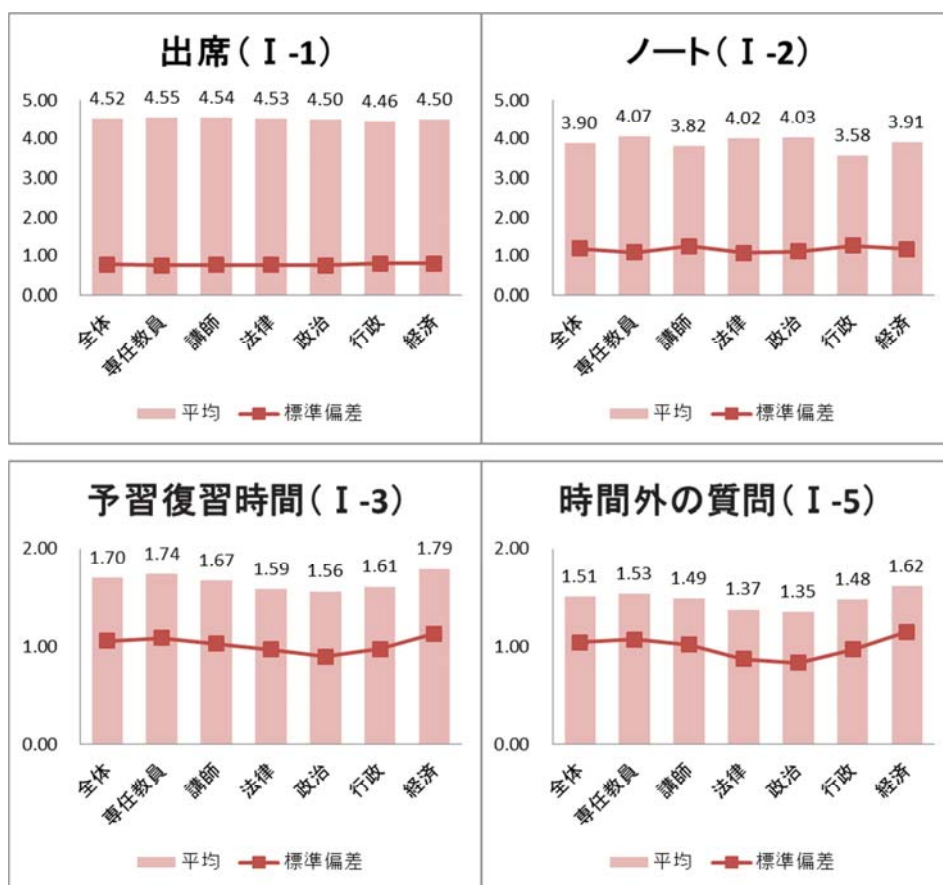
資料：平成 29 年度「授業改善のための学生アンケート」の結果をもとに作成

設問 I-1 では、それぞれ出席状況について問うている。出席状況の平均は 4.5 であり、これは回答者の出席率が 80%台と 90%台の間にあることを意味する。標準偏差は 0.8 なので、どちらかと言うと回答が上方に偏る傾向にあるが、少なくとも今回のアンケートの回答者の出席状況は良好である。

設問 I-2 では、ノートの筆記の有無を設問した。回答者の平均は 4 前後であり、多くの学生は教員の口頭説明や板書をノートに筆記していることが分かった。

設問 I-3 は、予習や復習に充てる時間に関する設問である。全体平均は 1.7 であり、大雑把に考えると 1 講義あたりの予習復習時間は 36 分間であるが、全く勉強していない学生の存在が窺える。講義時間外での学修をさらに促すことの必要性が示唆される。

設問 I-5 は、授業時間外での先生への質問の有無である。全体平均は 1.5 なので、多くの学生は時間外の質問をしていないようである。オフィスアワー等の周知が望まれる。



注 1：縦軸の数値は回答項目 (1-5) の平均値、数値が大きいほど好ましい傾向を意味する。

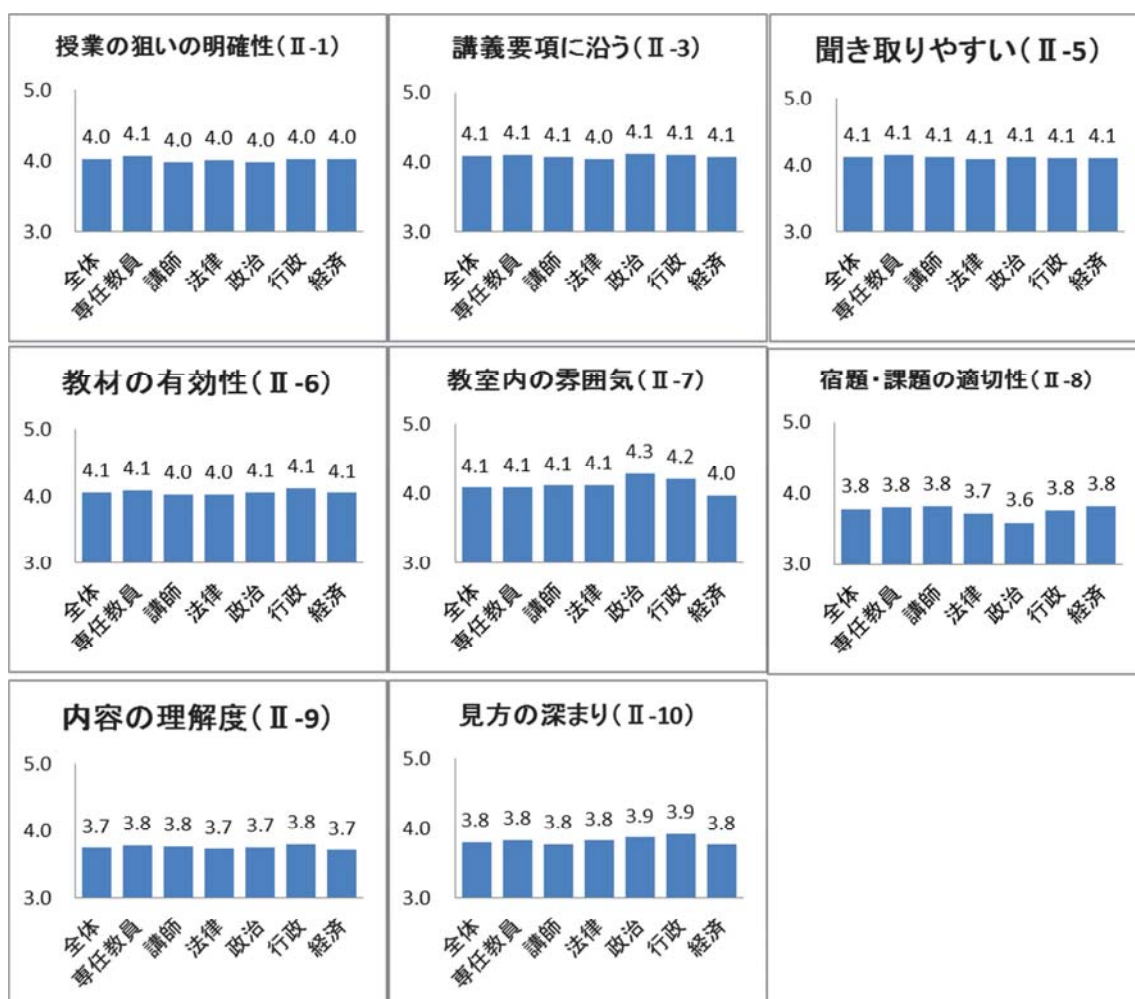
注 2：全体は総平均 (科目別の平均値をさらに集計したもの)、専任教員、講師は担当する教員タイプ、法律、政治、行政、経済は専門科目のタイプを示す。

資料：平成 29 年度「授業改善のための学生アンケート」結果をもとに作成

(4) 集計結果—授業の内容や進め方に関する評価

設問Ⅱ-1 から設問Ⅱ-10 においては、授業の各側面について学生から評価を得たものである。評点の平均は4前後であり、「そう思う」と考える学生が多かったことが見てとれる。また、担当講師のタイプ（専任教員か講師か）、専門科目のタイプ（法律、政治、行政、経済）ごとの差異はほとんど無く、学生からの評価はほぼ同じであることが分かった。

上記の通り、回答結果を設問項目別にみても、その差異はほとんどないが、あえて評価を試みると、良いものとしては、「授業の狙いの明確性」「講義要項に沿っている」「聞き取りやすい」「教材の有効性」「教室の雰囲気」があり、不足するものとしては「宿題・課題の適切性」「内容がよく理解できた」「ものの見方や考え方が深まった」がある。教員が提供する講義内容については、よく設計されていると評価されている。学生側の理解度や見方の深まりについては、それに比べると低評価であり、学生は意外と謙虚である。

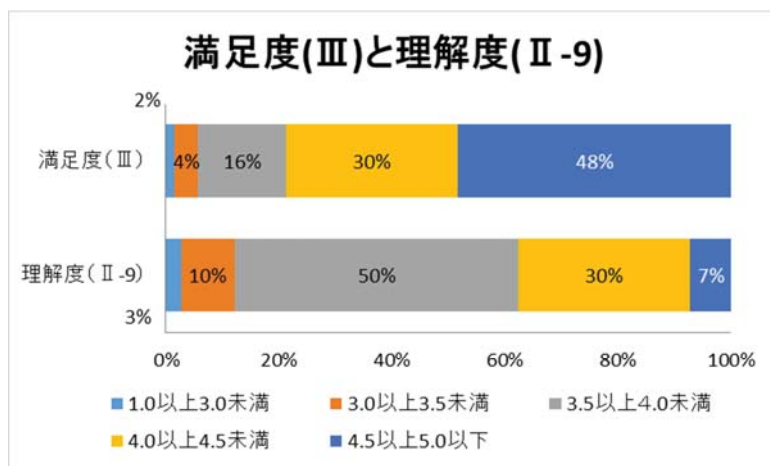


注1：縦軸の数値は回答項目（1-5）の平均値、数値が大きいほど好ましい傾向を意味する。

注2：全体は総平均（科目別の平均値をさらに集計したもの）、専任教員、講師は担当する教員タイプ、法律、政治、行政、経済は専門科目のタイプを示す。

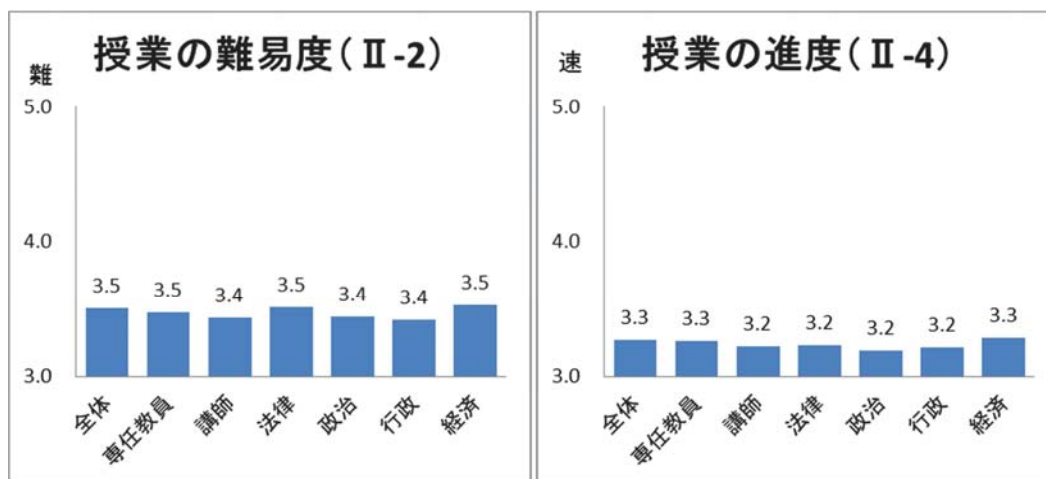
資料：平成29年度「授業改善のための学生アンケート」結果をもとに作成

設問Ⅲでは「総合的に見て、この授業に満足していますか。」という満足度を問うている。集計結果によると、科目における満足度の平均値が 4.0 以上であった科目が全体の 8 割を占めており、3.0 以上 4.0 未満が 2 割である。3.0 未満とされた科目の割合は 2% しかなかった。概ね好評かであり、満足度が低い科目は極めて少ないことが見てとれる。



資料：平成 29 年度「授業改善のための学生アンケート」結果をもとに作成

「授業の難易度」（設問Ⅱ-2）、「授業の進度」（設問Ⅱ-4）に関しては、満足度評価に関して 3 以上を選択した学生についてのみ集計した。難しさ 3.5、速い 3.3 という回答平均を得ており、難しさと進度についてはほぼ適切であると評価されている。

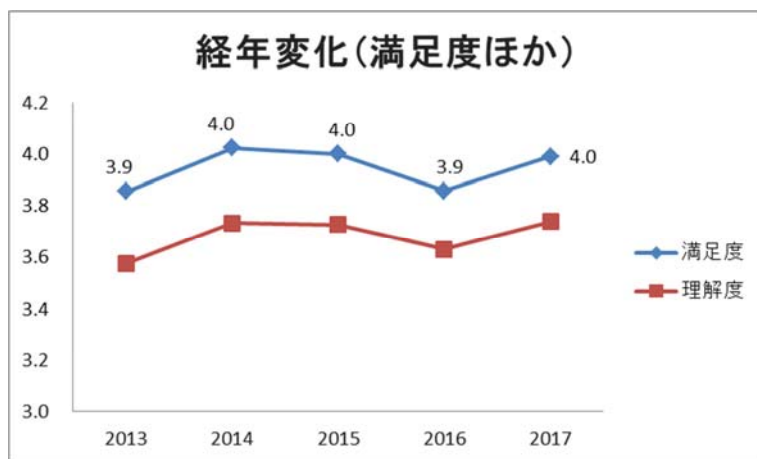


注 1：「授業の難易度Ⅱ-2」「授業の進度Ⅱ-4」については、「授業満足度Ⅲ」が 3 以上であった回答についてのみ集計した。

資料：平成 29 年度「授業改善のための学生アンケート」結果をもとに作成

(5) 満足度ほかの経年変化

本年度（平成 29 年度）のアンケート結果を過去値と比較することから、本年の特徴を探る。満足度（設問Ⅲ）については、過去 5 年間に於いて 3.9 ないし 4.0 という平均値で推移しており、ほぼ一定している。本年集計における標準偏差が 1.0 であったことからみても、過去値と差異はなかったと言えるだろう。理解度（Ⅱ-9）についても変化なしであり、大きく低下するようなことは無かった。



資料：平成 25-29 年度「授業改善のための学生アンケート」結果をもとに作成

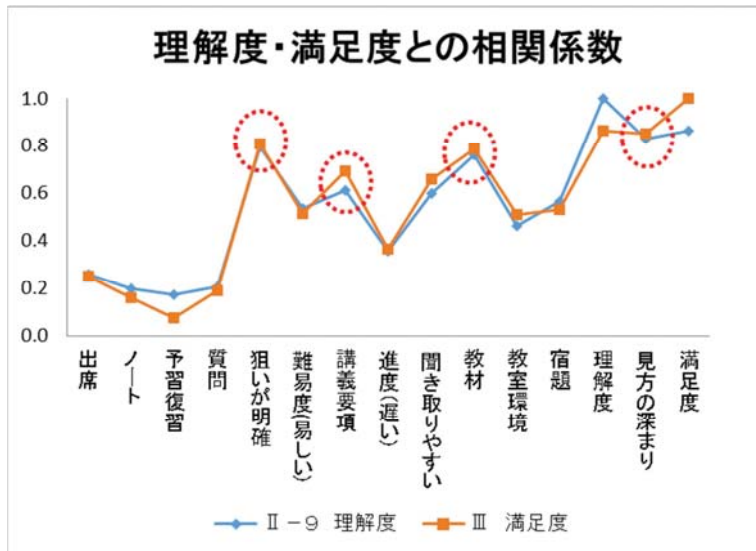
(6) 設問間の相関係数

満足度（設問Ⅲ）と理解度（Ⅱ-9）の決定要因に関して、若干の考察を試みる。この 2 つの設問について、ほかの設問との相関係数を算出した。相関係数は、科目別・設問別の平均値に関するものであり、詳細データが得られた 213 科目レベルでの傾向分析である。

はじめに、満足度と理解度の相関係数は 0.87 であり、高い相関性が見受けられる。授業が理解できると満足度が高くなるわけである。

出席度、ノートへの筆記、予習復習の時間、先生への質問との相関度は高くない。少なくとも本アンケートにおいては、学生が授業に対して主体的に取り組んだ結果として、理解度や満足度が高まるわけではないことが示唆される。ただし、理解度については、予習復習をするとやや高まる傾向があった点は好ましい。

続いて、講義の狙いや教材といった教員側が提供する講義内容との相関度を見ていく。「見方や考え方が深まった」「授業の狙いが明確」「教材が有効」「講義要項のとおり」との相関度が比較的高い。一方、「授業が易しい」「進度が遅い」「教室環境」「宿題」との相関度はやや低かった。この解釈についても注意が必要であるが、教場における分かりやすさが重視されているようである。それぞれの専門的知見を分かりやすく説明することが望まれていると言えるだろう。しかし、学生が難度の高い専門科目に主体的に取り組む、呻吟することも学修にとっては重要だと思われる。このバランスのとり方の重要性を改めて確認することができた。



注1: 「満足度Ⅲ」「理解度Ⅱ-9」と、これ以外の科目における科目別平均値に関する相関係数。難易度(Ⅱ-2)、進度(Ⅱ-4)については、相関係数の負値とすることからほかの設問との比較を試みた。

注2: 科目別の平均値は各設問の5段階評価値をもとに算出しているため、単純な相関係数の算出には限界があることに注意が必要である。あくまでも傾向の把握に留まる。

資料: 平成29年度「授業改善のための学生アンケート」結果をもとに作成

以上

3. 外国語学部

(1) 実施状況について

今年度「授業改善のための学生アンケート」を実施した外国語学部教員は、専任教員（特別非常勤講師を含む）が 43 名、講師(非常勤)が 38 名、実施率は、専任教員・講師(非常勤)ともに 100%であった。例年、100%あるいは 100%に近い実施率が続き、外国語学部教員の中にFD活動への積極的な意識が根付いていると言える。

外国語学部の実施科目数は、専任教員は 81 科目、講師(非常勤)は 59 科目 で、合計 140 科目 であった。その内訳は、政経学部専門科目が 1 科目、外国語学部専門科目が 95 科目、国際学部専門科目が 1 科目、教養科目・総合教育科目が 10 科目、外国語科目が 23 科目、教職・社教・日語科目が 6 科目、ゼミ・外書講読が 4 科目の合計 140 科目である。

アンケート回答数（延べ人数）は、1 年生が 1,154 名、2 年生が 601 名、3 年生が 349 名、4 年生が 135 名、無回答（学年・学科を記していないもの）が 18 名で、合計 2,257 名であった。

(2) 集計結果とその分析

①学科目別（講義等科目）

大学全体の集計結果と比較しながら、外国語学部の集計結果を見ていく。

「外国語学部専門科目」に対する評価を設問項目別に数値で見えていくと、次のようなことがわかる。

I-1 「学生の出席状況」の平均値は 4.55 で、大学全体の平均値である 4.56 をやや下回っている。下回っているとはいえ、大方の学生が出席しているといえる。

I-2 「ノート・メモ」の平均値は 3.94 で、大学全体の平均値 3.90 よりやや上回っている。

I-3 「予習・復習」の平均値は 2.06 で、大学全体の専門科目の中では最も高い数値であるが、外国語の習得を志す学生としては不十分である。

I-5 「質問（オフィスアワー等）」は 1.59 で、大学全体の平均値 1.56 をやや上回っている。外国語学部の専門科目において、オフィスアワーも活用し熱心に取り組もうという姿勢がみられる。

II-1 「狙いの明確さ」は 4.15 で、大学全体の専門科目の中では最も高い。

II-3 「講義要項との進み具合」は 4.21 で、これも「狙いの明確さ」同様、大学全体の専門科目の中では最も高い。カリキュラムが整備され、学生の満足度が高いともいえるだろう。

II-5 「声の大きさ」は 4.33 で、大学全体の専門科目では最も高く、ここ 5 年間安定して高い数値を示している。

II-6 「教材等の効果」は 4.21 で、これも大学全体の専門科目の中では最も高く、外国

語学部の教員全体が真摯に教材を用いて授業をする姿がうかがえる。

II-7 「教室内の雰囲気」は 4.19 で、大学全体の専門科目の中では高い方で、良好な環境の中で授業が行われていることがわかる。

II-8 「宿題・課題」は 4.10 で、他学部の専門科目の数値が 3 点台にあることに比較するとかなり高く、学生の授業外学習を促す授業デザインとなっている。

II-9 「理解しやすさ」は 4.08 で、これも他学部の専門科目の数値が 3 点台にあることに比較すると高い数値を示しており、学生の理解がしやすいように授業運営がなされていることがわかる。

II-10 「見方・考え方が深まる」は 3.99 で、大学全体の専門科目の中では国際学部と同じ値で最も高く、役に立つと思われる授業であるといえる。

III 「満足度」は 4.21 で、大学の専門科目の中では最も高く、外国語学部の専門科目において満足度が高い授業がなされているといえる。

II-2 「難易度」と II-4 「進度」は、上記の項目と異なり、評価が 3 になる回答が好ましいと判断されるが、それぞれ、3.35 と 3.16 であり、大学全体の平均値がそれぞれ 3.43 と 3.24 であることに比較すると 3 に近い良好な数字となっている。

以上の集計結果により、外国語学部の教育にとって特に重要だと思われる項目、「狙いの明確さ」「声の大きさ」「教材等の効果」「教室内の雰囲気」「理解しやすさ」などは、学生たちからかなり高い評価を受けていることがわかる。

また、外国語においては 0 スタートもその外国語についてバックグラウンドを持つなど様々なレベルの学生がいるため、高い評価を受けるのが難しいと思われる「難易度」と「進度」についても、概ね良好な評価を得ている。

総合評価とも言える「満足度」も 4.21 で昨年度の 4.13 よりも更に向上した良好な数値を保っているが、教員としては現状に満足することなく「満足度」を上げる努力を続けていくことが求められる。

②教員所属別評価

[専任教員に対する評価]

専任教員（教授、准教授、助教、特別非常勤講師）に対する評価では、I-1 「学生の出席状況」が 4.62(全体 4.56)、I-2 「ノート・メモ」が 3.94(全体 3.90)、I-3 「予習・復習」が 2.05(全体 1.75)、I-5 「質問（オフィスアワー等）」が 1.61(全体 1.56)、II-1 「狙いの明確さ」が 4.20(全体 4.00)、II-3 「講義要項との進み具合」が 4.26(全体 4.08)、II-5 「声の大きさ」が 4.36(全体 4.13)、II-6 「教材等の効果」が 4.26(全体 4.06)、II-7 「教室内の雰囲気」が 4.26(全体 4.07)、II-8 「宿題・課題」が 4.13(全体 3.85)、II-9 「理解しやすさ」が 4.12(全体 3.79)、II-10 「見方・考え方が深まる」が 4.07 (全体 3.78) 、III 「満足度」が 4.24 (全体 3.99) であり、全ての項目で平均値を超えており、外国語学部の専任教員に対する評価は高いといえる。

また、3 の回答が適切であるという II-2 「難易度」と II-4 「進度」は、それぞれ 3.35(全体 3.43)、3.18(全体 3.17)であり、大学全体の中で外国語学部の専任教員が最も 3 に近く、学生の教員に対する満足度がかなり高いといえる。

[講師（非常勤）に対する評価]

外国語学部の講師(非常勤)に対する評価では、I-1 「学生の出席状況」が 4.52(全体 4.56)、I-2 「ノート・メモ」が 3.84(全体 3.90)、I-3 「予習・復習」が 1.67(全体 1.75)、I-5 「質問（オフィスアワー等）」が 1.44(全体 1.56)、II-1 「狙いの明確さ」が 3.87(全体 4.00)、II-3 「講義要項との進み具合」が 4.09(全体 4.08)、II-5 「声の大きさ」が 4.14(全体 4.13)、II-6 「教材等の効果」が 4.01(全体 4.06)、II-7 「教室内の雰囲気」が 4.06(全体 4.07)、II-8 「宿題・課題」が 3.89(全体 3.85)、II-9 「理解しやすさ」が 3.72(全体 3.79)、II-10 「見方・考え方が深まる」が 3.63 (全体 3.78)、III 「満足度」が 3.92 (全体 3.99)であり、ほぼ全ての項目で平均値をやや下回っていた。

また、3 の回答が適切であるという II-2 「難易度」と II-4 「進度」は、それぞれ 3.47(全体 3.43)、3.27(全体 3.24)であり、「難易度」「進度」については大学全体の平均よりも 3 から離れている。

専任教員の授業への評価がこの数年高くなっているのに比べ、講師（非常勤）の授業への評価は大学全体の中でやや低い位置にあるようである。大学全体でも、専任教員の方が講師（非常勤）より満足度が高くなっているが、外国語学部ではその傾向が若干強く現れていると言える。今後も、専任教員と講師（非常勤）は連携を密にしながら、より効果的な外国語教育ができるよう、さらに努力を重ねていかなければならないだろう。

③学生所属別評価（講義科目）

学科別の分析

講義科目に関する学生アンケートの回答を学科別に取り上げる。

I-1 「学生の出席状況」

学科別の平均値は、英米語 4.62、中国語 4.51、スペイン語 4.59 で、出席状況は概ね良好である。然しながら、外国語習得のためには更なる積極的な出席を期待したい。

I-2 「ノート・メモ」

学科別の平均値は、英米語 3.90、中国語 4.00、スペイン語 3.86 で、概ね高い数値である。外国語学部は会話の授業など、ノートやメモを取らない授業もあるので一概に必要なとは言えないが、講義形式の授業においては適切に取るように教授する必要がある。

I-3 「予習・復習」

学科別の平均値は、英米語 1.82、中国語 2.11、スペイン語 1.87 で、大学全体の中では他学部の各学科と比較すると高い。外国語学部の学生たちは、言語習得といった他学部の学生たちよりずっと予習・復習に時間をかけなければならないため、当然の結果と言えそうであるが、学習時間的に不十分な学生も多々いるため今後とも見守っていく必要がある。

I-5 「質問（オフィスアワー等）」

学科別の平均値は、英米語 1.38、中国語 1.73、スペイン語 1.70 だった。他項目の回答結果と比較すると、いずれもそれほど高くない。英米語学科は大学全体の平均値より低くなっているが、オフィスアワーではなく、授業内もしくは授業直後に質問する学生が多いからであろう。

II-1 「狙いの明確さ」

英米語 4.11、中国語 4.17、スペイン語 4.12 で、全て4点を超えており、授業計画に沿った運営がなされていると考えられる。

II-3 「講義要項との進み具合」

昨年度も英米語 4.14、中国語 4.13、スペイン語 4.26 と高い数値であったが、今年度も英米語 4.20、中国語 4.31、スペイン語 4.24 と他学科と比較すると最も高い数値を外国語学部の学科が占めているといえる。講義要項に沿った進み方をしていると言える。

II-5 「声の大きさ」

毎年、外国語学部が外国語という音声面にも力を入れる科目を有するために、特に高い評価を受けている項目である。今年度も、英米語 4.26、中国語 4.28、スペイン語 4.31 であり、最も高い数値を外国語学部の学科が占めている。

II-6 「教材等の効果」

この項目も、外国語学部の三学科は毎年比較的高い評価を受けている。今年度は、英米語 4.20、中国語 4.20、スペイン語 4.23 だった。なおスペイン語学科は大学の全学科で最も高い数値であった。

II-7 「教室内の雰囲気」

この項目も、毎年良い評価が得られている。今年度は、英米語 4.16、中国語 4.23、スペイン語 4.20 であり、中国語学科は大学の全学科で最も高い数値であった。

II-8 「宿題・課題」

平成 25 年度以降徐々に数値が高くなり、今年度も英米語 4.06、中国語 4.16、スペイン語 4.11 といったかなり高い値を示している。ただ語学学習という毎日の積み重ねが必要な科目を主要科目として有する外国語学部としては当然の結果とも言え、また単に宿題・課題を強いるのみではなくその内容も精査していく必要があるだろう。

II-9 「理解しやすさ」

この項目でも、外国語学部は毎年比較的高い評価を受けている。今年度の平均値は、英米語 3.98、中国語 4.10、スペイン語 4.13 だった。外国語学部の各教員が創意工夫を凝らし、適切に教授していることを表す。

II-10 「見方・考え方が深まる」

学科別の平均値は、英米語 3.94、中国語 3.98、スペイン語 4.04 で、ここ 5 年間、大学の平均値よりやや高い数値である。

III 「満足度」

この項目もここ 5 年間安定して高い評価が得られている。今年度の学科別の平均値は、英米語 4.15、中国語 4.21、スペイン語 4.23 だった。スペイン語学科の満足度は昨年度、一昨年度に続き学内トップだったが、これは、初年次教育をはじめ、いくつものきめ細かい指導が、学生たちに好ましい印象を与えていると考えていいだろう。「満足度」という項目は、授業に対する総合評価でもあるので、外国語学部の教育は学生たちから概ね良い評価を得ている。

II-2 「難易度」

3 に近いほど良い値だと言われているこの項目における今年度の学科別の平均値は、英米語 3.34、中国語 3.49、スペイン語 3.32 だった。最も適切だと考えられる数値 3 から大きく逸脱しない結果となり、三学科とも概ね良好な評価を得ている。

II-4 「進度」

3 に近いほど良い値だと言われているこの項目における今年度の学科別の平均値は、英米語 3.11、中国語 3.31、スペイン語 3.16 だった。最も適切だと考えられる数値 3 に近く、三学科とも良好な評価を得ている。

④ 学科目別の回答分析

外国語学部専門科目に対する回答の分析

各設問に対し、学生たちは①～⑤の段階で評価している（最高値は⑤、ただし「難易度」

と「進捗」は③が適切とされる)。どの項目で、満足のいく数値⑤や④が多くつけられているだろうかについて中心に見ていく。

I-1 「学生の出席状況」は、⑤が 67.25%と最も多く、次いで④の 22.05%となっている。

I-2 「ノート・メモ」は、⑤が 40.01%と最も多く、次いで④の 30.32%となっている。

I-3 「予習・復習」は、①が 41.49%と最も多く、次いで②の 25.00%となっており、④は 6.38%、⑤は 3.74%と値が低い。予習・復習をしないで授業に臨む学生が多いことがわかる。

I-4 「受講した動機」は、③「単位が必要だから」が 57.18%と最も多く、次いで⑤「時間帯が空いている」の 24.90%となっている。必修科目の時間的制限があるためやむを得ないが、講義内容による積極的な動機付けというよりは、受動的な動機により受講する学生が多いようだ。

I-5 「質問（オフィスアワー）」は、①の 71.06%が最も多く、②が 10.40%、③10.21%がほぼ同割合となっている。授業中にわからない問題を解消できるためであろう。

II-1 「狙いの明確さ」は、⑤の 45.20%が最も多く、次いで④の 30.91%となっている。

II-2 「難易度」は、③の 58.77%が最も多く、次いで④の 31.11%となっている。

II-3 「講義要項との進み具合」は、⑤の 46.85%が最も多く、次いで④の 30.15%となっている。適切だと感じている学生が多い。

II-4 「進捗」は、③の 74.66%が最も多く、次いで④の 16.14%となっている。

II-5 「声の大きさ」は、⑤の 54.47%が最も多く、次いで④の 23.08%となっている。

II-6 「教材等の効果」は、⑤の 49.10%が最も多く、次いで④の 27.86%となっている。

II-7 「教室内の雰囲気」は、⑤の 47.78%が最も多く、次いで④の 28.76%となっている。

II-8 「宿題・課題」は、⑤の 43.33%が最も多く、次いで④の 29.21%となっている。

II-9 「理解しやすさ」は、⑤の 40.04%が最も多く、次いで④の 34.17%となっている。

II-10 「見方・考え方が深まる」は、⑤の 37.22%が最も多く、次いで④の 32.78%となっている。

III「満足度」は、⑤の 49.48%が最も多く、次いで④の 28.22%となっている。

以上のことから、外国語学部全体としては、多くの項目で満足のいく数値⑤や④が多くつけられて概ね良好な評価を得ていることがわかる。

⑤学部設問項目

昨年度同様、今回のアンケートに外国語学部が独自に入れた設問項目は、次の 2 つである。

IV-1 「この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか」

IV-2 「このクラスの学生数は適切ですか」

「この授業で使う教室の大きさ、施設・設備などは適切ですか」に対する回答の平均値は、専任教員の授業では 4.35、講師（非常勤）の授業では 4.23 の値であった。

「このクラスの学生数は適切ですか」に対する回答の平均値は、専任教員の授業では 4.41、

講師（非常勤）の授業では 4.22 であった。前年とほぼ同じ値で、概ね良好な結果と言えよう。

以上の 2 項目は、少人数教育を中心とした外国語の授業で効果的に授業が行われる環境が整っているかどうかをチェックする重要な設問であるが、今年度も学生側からは満足できる評価が得られていると考えられる。ただ一部、教室の改修により教材の音声小さくなった等も聞こえることから、今後も注視していく必要がある。

（3）授業改善に向けての今後の課題

以上、「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を分析してきたが、今年度も外国語学部の数値は全般にわたって比較的安定した高い水準を維持していると言える。

特に「声の大きさ」、「理解しやすさ」、「狙いの明確さ」など、外国語教授法の基本となる部分について、教員たちが工夫を重ね、それぞれの授業の中で実践し続けていることが、学生たちから良い評価を受けることにつながっていると思われる。

少人数の授業が比較的多い外国語学部の授業では、授業時間内だけでなく、休み時間を利用して研究室に足を運び、教員の指導を受けている学生の姿は以前からよく見かけられる。しかし、その一方で、I-5 「質問（オフィスアワー等）」の平均値はあまり高くはない。一部の学生はよく質問するが、それが全体的な流れになっていないということも考えられる。より多くの学生に対する学びの環境をさらに整えていく必要があるだろう。

外国語学部の学生の満足度が高いのは、授業中のみならず、留学相談、資格試験対策、就活相談、外国語弁論大会など、多方面で懇切丁寧な教育指導が行われていることとも関連があるだろう。今後も、教室内外でこうしたきめ細かな指導を続けることが、学生たちの力をさらに伸ばすことにつながるはずである。

現在、外国語学部が抱える最も大きな課題は、様々な背景を持つ学生への対応や学力差どのように効果的な授業を行うかである。学ぶ対象の外国語に関して会話としてはほぼネイティブのようなリスニング・スピーキング能力を有する学生が、文法的には不完全なまま卒業する例や、共に 0 スタートで始めたにもかかわらず学力差が開きすぎ、ターゲットの外国語への興味・関心が薄れ、それほどマスターしないケースなども目にする。以上を改善するため各教員が個別の学生に適した授業の工夫が以前にも増して求められている。

外国語学部では、能力別のクラス編成によって、より学習効果が上がる体制は三学科とも一応整っている。しかし、それだけでは十分でなく、教員たちは絶えず学生の習熟度や学習到達度を細かくチェックする必要があり、教員間の連携も重要である。学生たちの学力差の問題は、今後も続くと思われる。外国語学部であるため、海外からの帰国子女や親などに当該言語のバックグラウンドがあり幼少時からその言語に親しんできた学生と 0 スタートの学生が混在する授業においては、授業の内容や進め方について新たな試みが必要かもしれない。

来年度もさらに試行錯誤しながら、授業の内外を通じて寄せられる学生の意見を真摯に受け止め、外国語学部としてより良い教育の実践に努めていきたいと考える。

以上

4. 工学部

(1) アンケート実施状況について

全学的な取り組みとしての授業評価アンケートを昨年度は前期に実施したが、今年度は後期（平成 29 年 11 月 1 日～12 月 8 日、予備日：12 月 11 日～12 月 15 日）に実施した。

実施教員は、専任教員 51 名中 51 名（実施率：100%）、講師（非常勤）49 名中 49 名（実施率：100%）と例年通りすべての教員が実施した。なお、昨年度（前期に実施）と比べると、専任教員数は同じ、講師（非常勤）は、3 名少ない数となっている。

アンケート実施科目数は、151 科目（専任教員：93、講師（非常勤）：58）であり、アンケート回答数（延べ人数）は、5,530 人（1 年：1,854、2 年：1,893、3 年：1,539、4 年：162、無回答：82）であった。昨年度と比べると実施科目数は、16 科目少なく（昨年度：167）、アンケート回答数（延べ人数）は、1,271 名少なかった（昨年度：6,801）。昨年度は、授業評価アンケートを前期に実施しており、昨年度の報告書にも記載の通り、前期科目の履修者は後期科目に比べて多いことが影響していると考えられる。多くの学生からの回答を得るという意味では、前期に実施する方が適しているかもしれない。

授業評価アンケートを実施した 151 科目の内訳は、工学部専門科目で講義科目が 85（昨年度：91）、実験実習科目が 27（昨年度：35）である。その他、政経学部専門科目が 1 科目、教養科目・総合教育科目が 6 科目、外国語科目が 23 科目、スポーツ・トレーニング科目が 5 科目、教職・社教・日本語科目が 4 科目である。

以下、全体集計結果に基づき、工学部の専門科目に対するアンケート結果を分析し、所見および今後の課題を指摘して総評としたい。

(2) 全体集計結果に基づく授業評価アンケート結果の分析

工学部のディプロマポリシーでは、「ものづくり」に興味を持ち、自ら進んで学び、技術を身に付け、品格と教養を備えたエンジニアやデザイナーの育成を目指すとされている。実際、工学部卒業生のほとんどが製造業や技術分野のサービス業、デザイン分野に就職するため、在学中から技術者やデザイナーとしての実践力養成が重要となる。そのため工学部専門科目（学科別専門科目と専門基礎科目）には、実験・実習・演習科目が多い。以下、昨年度までと同様に、各アンケート項目について考察する。

I. 受講の姿勢や動機

① 学生の出席状況（設問 I-1）

工学部専門科目（講義）は 4.63、工学部専門科目（実験・実習）は 4.78 で例年とそれ

ほど大きな変化はない。他学部と比較しても高い値である。工学部では出席確認をしっかり行なうよう申し合わせており、学生にも周知されている。また、D館の教室や工学部棟内の実験室等のほとんどでカードリーダーが設置されてきていることもよい影響になっていると考えられる。また、実験・実習科目では特に出席や課題提出を重要視している科目が多いため、講義科目よりも高い値になっていると思われる。

②ノート・メモ（設問 I-2）

工学部専門科目（講義）は 3.75、工学部専門科目（実験・実習）は 3.34 でこちらも例年とほとんど変化していない。他学部と比較するとやや低い値を示しているが、工学部としては決して低い値ではないと考えられる。これは、工学部で、配布資料を学生に配りノート PC と液晶プロジェクタを用いた授業が増えてきていること、また、その授業での資料を Blackboard 等で公開していること、などによりノートを取るという作業の必要性が低いものがあるからという側面もある。実験・実習科目では、教員が準備した資料に基づいて、課題に取り組む（実際に手を動かす）時間が多いため、ノートやメモに時間を使うことが少なくなっている。

③予習・復習（設問 I-3）

工学部専門科目（講義）は 1.71 と低い値であり、予習や復習に積極的に取り組む学生は少ない。これに対して、実験・実習科目は 4.02 と高い値を示している。これは、実験・実習科目の多くは、宿題を課したり、授業内で取り組んだ課題に対するレポートを後日提出させたりという科目が多いことが影響している。

④受講した動機（設問 I-4）

受講の動機は、「単位が必要」というのが全体の 61.9%を占めており、圧倒的に高い。学科系列別に見ると、基礎教育系列が 69.0%と最も高く、機械システム工学科(66.3%)、情報工学科(61.9%)、電子システム工学科(58.3%)、デザイン学科(49.5%)の順となっている。基礎系列は、数学や英語などの専門基礎科目が、進級する上で必要単位となっているということを表している。

次いで「時間帯が空いている」が全体で 12.1%、「講義への興味」が全体で 11.4%となっている。「時間帯が空いている」というのは、どちらかと言うと学業に対して後ろ向きな学生（つまり、アルバイトや部活動などを優先的に考えている傾向がある）が多いため、自分にとって必要な科目の履修という観点では今後の課題であるが、同時に「講義への興味」の割合が同じくらいであることは興味深い。また「時間帯が空いている」については、

学科のばらつきが大きく、デザイン学科は 29.1%と他学科に比べて非常に高い。カリキュラムの違いによるものかもしれないが、今後より詳細な調査が必要かもしれない。

⑤質問（設問 I-5）

工学部専門科目（講義）は 1.60 と低いのに対して、工学部専門科目（実験・実習）は 3.94 と高い値を示している。これは、上述の予習・復習と同様に、実験・実習科目では、課題提出を必須、もしくは、成績に大きく影響する評価項目としているので、期限内に課題を終わらせるために、教員に質問等に行かざるを得ない状況がある。

II. 授業の内容や進め方

①狙いの明確さ（設問 II-1）

講義科目では 3.84、実験・実習科目では 4.00 といずれも高い値を示しており、例年とそれほど大きく変化していない。特に実験・実習科目は、必要な技術を、実際に手を動かして身につけるといことが影響していると思われる。

②難易度（設問 II-2）

講義科目では 3.53、実験・実習科目では 3.72 となっている。本設問は「3」の回答が適切であるものであり、そういう意味では、若干難しいと感じている学生がいるということになる。しかし、工学部の専門科目は、数学や物理などの基礎学力を要求されるものも多く、また、その専門性からいたずらに難易度を落とすことが難しいため、ある意味では妥当な結果と言える。実験・実習科目の方がやや高いのは、単純に内容が難しいということだけでなく、課題提出に対する負担などの面も含まれているのかもしれない。

③講義要項（設問 II-3）

講義科目では 3.98、実験・実習科目では 3.49 となっている。講義科目は昨年度の 3.85 よりも改善されている。実験・実習科目はやや低い値となっているが、これは分野にもよるが技術が目まぐるしく変化しているので、それに合わせてその都度内容に多少の変更を加えている科目があるものと思われる。ただし、学生が講義要項をどの程度読んでいるかという点も考慮しなくてはならないため、そのような学生はおそらく「どちらとも言えない」という回答をしている可能性がある。

④震度（設問 II-4）

講義科目では 3.27、実験・実習科目では 3.48 となっており、「3」が適切である設問

であることを考えると、ほとんどの学生は「ちょうどよい」と感じている。

⑤話し方や声（設問 II-5）

講義科目は 4.00、実験・実習科目は 3.83 であり、昨年度よりよくなっている。これは、D 館の教室にマイクはもちろんのこと、プロジェクタ等の設備が整ってきていることも要因の一つと考えられる。

⑥教材の効果（設問 II-6）

講義科目は 3.93、実験・実習科目は 3.74 となっている。他学部の専門科目は軒並み 4 を超えていることに比べるとやや低い値である。特に、実験・実習科目では、資料や教材を丁寧に準備している教員が多い。したがって、設問 II-2 の難易度とも関連しているかもしれない。つまり、やや難しいと感じているので教材が役立っていないと考えてしまう学生が多少いるのかもしれない。

⑦教室内の雰囲気（設問 II-7）

講義科目では 3.90、実験・実習科目では 3.79 となっている。講義科目に関しては、昨年度の 3.76 から改善されている。しかしながら、この設問に関しても他学部に比べて低い値となっており、改善の余地は大きい。

⑧宿題・課題（設問 II-8）

講義科目では 3.77、実験・実習科目では 3.83 となっている。この設問も他学部に比べて低い値となっているが、工学部の専門科目の多くは、前回の授業からの積み上げ（つまり前回の内容を知らないで次回の内容についてこられない）になっており、科目によってはほぼ毎週のように知識の定着を図るための課題を課している。特に実験・実習科目は、毎回の授業で課題や宿題があり、それを負担に感じている学生によっては、いわゆる「適切に」出されているかというところに疑問を持っているのかもしれない。

⑨理解しやすさ（設問 II-9）

講義科目は 3.49、実験・実習科目は 3.60 とこれも他学部よりも低い。特に外国語学部専門科目の 4.02 と比べるとその差は顕著である。これも設問 II-4 の難易度とも関連していると思われるが、学業に対して後ろ向きな学生の回答をどう捉えるかを考慮する必要がある。また、後述する「満足度」にも密接に関わる問題のため今後改善するための対策を講じていく必要がある。

⑩見方・考え方が深まる（設問 II-10）

講義科目は 3.48、実験・実習科目は 3.75 となっている。実験・実習科目は他学部並みであるが、講義科目が低い。工学部の専門科目のほとんどは、大学に入って初めて学修するもののため、直観的には、見方や考え方が深まるように思える。しかしながら、難易度や理解しやすさの設問に対する低さにも表れているように、授業に対してモチベーションを保てておらず、結果として深まっていないという可能性がある。

III. 満足度（総合的に見て、この授業に満足していますか）

工学部としても最も重要視している項目の一つである。専門の講義科目は 3.72 となっており、昨年度の 3.65 よりは高くなっている。学科別に見ると、デザイン学科(3.87)、電子システム工学科(3.80)、情報工学科(3.66)、機械システム工学科(3.58)という順になっており、例年通りデザイン学科が最も高い。また、情報工学科は昨年の 3.55 よりも改善されている。

一方、実験・実習科目の満足度は 3.77 と、昨年度の 3.82 を下回ってしまっている。昨年度はアンケートを前期に実施しているため、一概に比較はできないが、他学部では 4 を超える満足度（外国語学部専門科目：4.21、国際学部専門科目：4.07）があり、その他の学部でも 4.0 に近いレベルにある。工学部でも満足度が 4.0 を超えるような授業展開の工夫や改善を続けていくことが必要である。

また、一方では、難易度や理解しやすさなどの設問やもの見方や考え方が深まるかという設問に対してネガティブな回答をしている学生がどの程度いるかについても注意が必要である。つまり、難しい、分からないということから、分かるようになったという実感が持てれば自ずと満足度にも反映されるが、分かるようになる前に「諦めて」しまっている学生も多いと思われる。もちろん、そのような学生にも分かってもらえるような授業展開を考える必要があることは大前提としても、単位さえ取ればどんな形でもよいとか、あるいは、留年してしまっても構わない（あまり気にしない）という学生に対する動機付けをどう施していくかというのも授業の工夫とは別の問題としてあるように考えられる。

IV. 学部等設問項目

昨年度までの同様に、工学部では、学部別設問として、学生の授業や課題への取り組みや達成度についての設問を以下の 3 項目設けている。

①宿題や課題への取り組み（設問 IV-1）

宿題や課題への取り組みは 3.65 であり、昨年度と同じ値となっている。実験・実習科

目などでは、課題の提出を必須としている科目も多いことから、もう少し高い値になっているはずであるため、今後より詳細な分析や調査が必要である。

②授業に対する質問（設問 IV-2）

授業の内容について、どのくらい質問しているかは2.27であり、昨年度の2.39を下回っている。この設問は、設問 I-5とも類似しているが、設問 IV-5よりは高い値を示している。実験・実習科目では、授業中（授業時間外も）に分からないところがあれば、教員やTAに積極的に質問するという前向きな学生もいるが、分からないままギリギリまで放っておいて質問をしないという学生も多く、そのような学生の影響でこの数値になっているという可能性がある。また、コミュニケーション能力の問題で、前向きに学修しているが、質問をするという行為自体を負担に感じる学生も少なからずいるのかもしれない。

③到達目標に対する度合い（設問 IV-3）

授業で設定している到達目標について、知識や技術が身についたかという設問に対して、3.34であった。昨年度は2.39であったため大きく改善されている部分もあるが、一昨年度が3.33であることから、昨年度が特異な状況だったのかもしれない。満足度などがそれほど高い値でないことから、難しいと感じている学生の多くは、この設問に対しても肯定的な回答ができない学生もいるのかもしれない。改善策としては、講義要項の授業の目的や到達目標の項を分かりやすく記述する、初回授業時に丁寧な説明を行なうなどが考えられる。しかしながら、その一方で講義要項をしっかりと読んで授業の臨んでいない学生や単位取得が楽だからという目的で履修している学生が少なからずいる。このような学生は到達目標そのものを気にしていない（分からない）ので、無難な「3（どちらとも言えない）」と回答していることも予想できるため今後より詳細に調べる必要がある。

（3）今後の課題

工学部の専門科目（講義、実験・実習）を中心として授業評価アンケートの全体集計結果に基づいて分析・考察を行なった。これまでの結果と同様、教員の努力による授業改善が進んでいると言える状況もあった。

また、授業を受ける学生側の問題（履修態度、動機など）に、まだまだ問題があるという点も従来とそれほど変化していない。

授業評価アンケートの目的が「教員の授業改善に役立てること」「教育の質向上を図ること」であることを踏まえ、昨年度までと同様に以下の2点を今後の課題とする。

①学生の授業への取り組み姿勢に関する改善方策の検討

授業の展開について、最近注目されているアクティブラーニングであるが、実験・実習科目においては、比較的採り入れやすい要素である。一方、講義科目では、教材の準備で対応している科目も多く、授業展開の工夫としてアクティブラーニング的な要素を採り入れるには、多くの検討事項が必要である。しかしながら、物理でクリッカーと呼ばれるARSシステムを用いて、双方向型の授業が展開されるなどの試みが行われおり、その成果は実を結びつつある。また、この物理での授業展開を今年度の工学部のFDワークショップにて紹介するなど、各教員にも浸透しつつある状況である。

AO入試、推薦入試などいわゆる年内入試組と、一般試験を受ける年明け入試組との間では、物理や数学などの専門基礎科目に対する基礎学力の隔たりが大きい。また、情報・デザイン・メディア学系（情報工学科およびデザイン学科）を受験する学生には、入試科目の性質により、そもそも数学や物理をほとんどやっていないという学生が入学してきている場合もある。工学部の専門科目は、このような基礎学力を前提としている科目も少なくない。また、このような学生はそもそも望んでその学科に入ったというわけではない学生もいるので、履修態度や授業に取り組む姿勢の改善は非常に難しいと考えられてきているが、各教員の努力や学習支援センターによるサポートなどにより、改善に向かっているとも言える。

さらなる改善のためには、単位制度の実質化という中で、予習や復習にかける時間の確保やそれに対する教員の指導を充実することが考えられる。その意味でも学習支援センターの利用促進や、教員のオフィスアワーの効果的利用を促すことが重要である。

②満足度の改善

工学部の専門科目の満足度 3.72（講義科目）は、昨年度より上がっているとはいえ、他学部と比較してもまだまだ改善の余地が大きい。しかしながら、9年前は 3.41 であったことから、学生の満足度の改善という課題に対して工学部教員が積極的に取り組み、成果を着実に上げてきている。

一方、満足度をどう捉えるかという視点も考えていかなければならない。一般的には、学生がその授業を受けて内容を理解できて結果として単位が取れると状況であれば満足度は高くなるに違いない。しかしながら、上述の通り、単位取得が楽という感覚で履修している学生や、難しくよく分からないから諦めたという学生が、どのような観点で回答しているかによって、本当の意味で満足しているかということ測ることができていないかもしれない。これについては、今後設問の仕方を工夫するなどの対応を考えていく必要があるように思われる。

しかしながら、このような状況が低くてもよいということに直接的につながらないので、上述①の学生の取り組む姿勢の改善と併せて、例えば双方向型、アクティブラーニング型の授業展開などの方策をとっていく必要がある。また、他学部では4.0を超える学部もあるので、(専門科目の性質が異なるため同じようにできないかもしれないが)学部間での意見交換などを通して他学部のやり方を学ぶ機会があってもよいと考えられる。

以 上

5. 国際学部

(1) 実施の状況

実施期間を平成29年11月1日（水）から平成29年12月8日（金）までの期間に設定し、専任教員（実施対象教員数35名）と講師〔非常勤〕（実施対象教員数48名）すべての教員がアンケートを実施した（実施率は専任教員、講師とも100%）。これまで国際学部では「原則開設科目全対象」としてアンケートを実施してきたが、昨年度は移行期間として事前申請すれば選択できる形にし、さらに今年度からは全学と足並みを揃えて、各教員が実施科目を選択する（原則2科目以上）というスタイルでの実施に至った。そのため、アンケートの実施科目総数は昨年度の265科目より大幅に減り、159科目（専任教員：68科目／非常勤講師：91科目）となったが、実施率100%という数字から、どの教員もしっかりと対応した姿勢が窺える。

国際学部科目におけるアンケート結果は、英語群、地域言語群、基礎科目群、専門共通科目、専門コース科目の5群に分けたデータとして集計された。

アンケート回答数（延べ人数）は、1年生1,847人、2年生1,482人、3年生993人、4年生211人、無回答66人の4,599人であった。

(2) 学科目別の評価

① 授業の内容や進め方

専門科目（56科目）について、授業の内容や進め方に関する各項目の過去5年間における平均値を並べた。前年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けた。但し、「Ⅱ-2. 難易度」と「Ⅱ-3. 進度」の2項目は数値が3の回答が適切であると判断されるものであるため、3に近づく方向を「上昇」とした。参考のために、本年度における大学全体の平均値も付記してある。

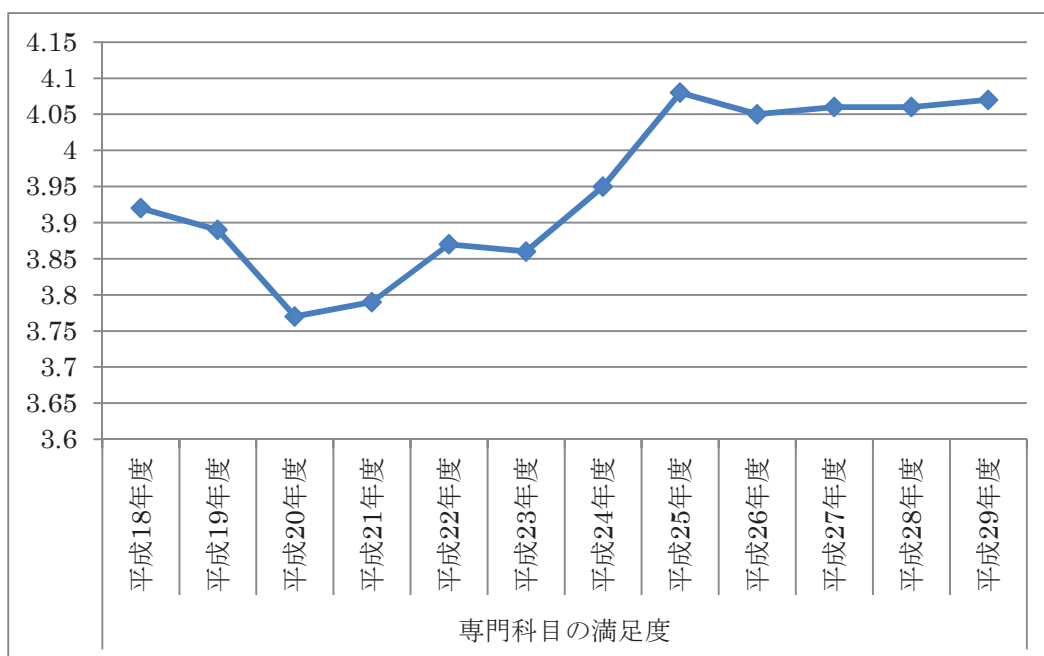
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	大学全体
Ⅱ-1. 狙いの明確さ	△4.03	△4.04	▼4.01	△4.05	▼4.03	4.00
Ⅱ-3. 講義要項との進み具合	△4.06	□4.06	□4.06	△4.07	△4.11	4.08
Ⅱ-5. 声の大きさ	△4.17	□4.17	▼4.14	▼4.09	△4.15	4.13
Ⅱ-6. 教材等の効果	△4.09	▼4.07	▼4.06	△4.09	□4.09	4.06
Ⅱ-7. 教室内の雰囲気	△4.13	△4.16	▼4.10	▼4.09	△4.20	4.07
Ⅱ-8. 宿題・課題	3.66	△3.71	△3.82	▼3.80	□3.80	3.85
Ⅱ-9. 理解しやすさ	△3.90	▼3.88	□3.88	△3.90	△3.92	3.79
Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる	△4.02	▼3.97	▼3.96	△4.06	▼3.99	3.78
Ⅲ. 満足度	△4.08	▼4.05	△4.06	□4.06	△4.07	3.99

3の回答が適切である項目

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	大学全体
Ⅱ-2. 難易度	▼3.38	△3.36	▼3.38	△3.36	△3.35	3.43
Ⅱ-4. 進度	▼3.19	△3.18	▼3.19	▼3.24	△3.22	3.24

専門科目における評価は、前年度に比べ、若干の増減はあるものの、同水準であった。「Ⅱ-8. 宿題・課題」「Ⅱ-9. 理解しやすさ」「Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる」の3項目が3ポイント台の評価であったが、後者2つは大学平均を大きく上回り、4ポイント台に近い数値である。ただ、「Ⅱ-8. 宿題・課題」は5年間の数値を見ても総じて低い上、大学平均も高くなく、学部のみならず大学全体の課題として取り組んでいくべきものとして捉えていきたい。

授業の総合的な評価にあたる「Ⅲ. 満足度」は、この5年間、4.0以上の高い数値を維持しており、学部としてはいい傾向にある。もう一段高い水準を維持していけるような次の高みに到達するには、単純に講義の中身だけで勝負するのではなく、今後の課題として前述した宿題の提示など、講義前後の学生のケアが必要になってくるのだろう。



② 受講する姿勢や動機

国際学部専門科目に関して、Ⅰ-1 からⅠ-5 までの各項目について、回答の多かった上位を挙げた。総じて見ると、学生たちは講義そのものへの取り組みは非常に良く、出席状況は良好であり、ノートもしっかり取っているようである。

ただし、講義外での学習に関してはかなり消極的である。例えば、例年、予習・復習の時間は非常に低いのであるが、特筆すべきは、今年度の「①0.5h 未満」の数値が昨年度を7ポイント以上も上回り、62.95%もの学生がそこに値するということである。おおよそ3分の2の学生たちは、事前事後に学習に取り組むということがほぼ皆無であるのだ。このことは高等教育機関としては危機的状況にあると言わざるを得ない。

ゆえに、授業時間以外に先生へ質問に行く学生は極めて少なく、学びが連関していかず、その場限りの学びに留まっているという悪循環を生んでいる。

受講動機については、「単位が必要だから」が最も多く、この点においても必要性に駆られてという消極的な姿勢が浮かび上がってくる。学部のカリキュラム・ポリシー等で謳う主体的学修能力を身につけていくには、学習以前の段階の“臨む姿勢”という点からも主体的、積極的、能動的な態度を涵養していく必要がある。

- 「I-1. 授業への出席状況」 (1) ⑤90%以上 (57.54%)
 (2) ④80%以上 (29.40%)
- 「I-2. ノート・メモ」 (1) ⑤強くそう思う (37.33%)
 (2) ④そう思う (28.25%)
- 「I-3. 予習・復習」 (1) ①0.5h未満 (62.95%)
 (2) ②0.5h以上(1h未満) (15.69%)
- 「I-4. 受講動機」 (1) ③単位が必要だから (36.40%)
 (2) ⑤講義への興味 (31.92%)
 (3) ④教員にひかれて (17.20%)
 (4) ①この時間帯が空いている (10.46%)
 (5) ②単位取得が楽だから (4.02%)
- 「I-5. 質問」 (1) ①全くそう思わない (71.38%)
 (2) ③どちらとも言えない (11.52%)

(3) 学部設問項目の評価

学部設問項目としては、昨年から「授業の開始時間・終了時間」「出欠席管理」「授業中の私語」「教室環境の適切さ」(「IV-4 この授業で使う教室の大きさ、施設・備品などは適切ですか」)の4項目を設定して実施している。IV-4の質問項目は学部が移転したことによって、どのような影響が出たのか(出なかったのか)を判別するために昨年度より新たに設けたもので、しばらくは経年変化を見ておきたいと考えている。

評価の変化を見るため、過去4年間における各項目の平均値も並べてある。前年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けてある。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
IV-1. 授業の開始・終了時間					
専任教員	△4.57	▼4.54	□4.54	□4.54	▼4.53
講師(非常勤)	△4.50	△4.56	▼4.52	△4.58	□4.58
IV-2. 出欠席管理					
専任教員	▼4.44	△4.52	△4.55	▼4.45	△4.50
講師(非常勤)	▼4.50	△4.63	▼4.57	△4.60	▼4.52
IV-3. 授業中の私語					
専任教員	□4.17	△4.20	▼4.11	▼4.06	△4.08
講師(非常勤)	△3.84	▼3.82	▼3.72	△3.92	▼3.70

IV-4. 教室環境の適切さ					
専任教員				4.28	△4.47
講師(非常勤)				4.33	△4.38

大きな変化ではないが、講師（非常勤）の数値が全般的に下がっていることは気に留めておきたい。なかなか専任教員と非常勤講師が情報交換をする場を持つことはできず、互いに高め合っていく環境下がないので、その溝を埋めていくのは困難であるが、教務委員会やFD委員会を通じて、経験やアイデアを共有できるようにしていければと思う。

「IV-4. 教室環境の適切さ」の質問項目は設定してまだ2年目であるが、徐々に数値が上がってきている。これはひとえに、現場の教員が気づいたことをフィードバックし、それに事務サイドが（予算計上の関係上、すぐではないこともあるが）少しずつ応えていている証しだと感じている。

（4）教員所属別の評価

専任教員の科目（66科目）と講師（非常勤）の科目（91科目）について、各項目の昨年度と本年度の平均値を並べた。昨年度よりも上昇した場合に△印を、低下した場合に▼印を、変化がなかった場合には□印を付けてある。

	専任教員		講師（非常勤）	
	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度
2-1. 狙いの明確さ	▼4.09	△4.15	△4.04	□4.04
2-3. 講義要項との進み具合	▼4.10	△4.18	▼4.08	△4.12
2-5. 声の大きさ	▼4.16	△4.26	▼4.16	△4.18
2-6. 教材等の効果	▼4.17	△4.24	▼4.03	△4.08
2-7. 教室内の雰囲気	▼4.20	△4.25	△4.18	▼4.09
2-8. 宿題・課題	▼3.91	△3.94	△4.01	▼3.92
2-9. 理解しやすさ	▼3.99	△4.07	△4.00	▼3.96
2-10. 見方・考え方が深まる	▼4.06	△4.07	△3.90	□3.90
3. 満足度	▼4.10	△4.19	△4.10	▼4.09

3の回答が適切である項目

	専任教員		講師（非常勤）	
	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度
2-2. 難易度	▼3.36	△3.31	△3.34	△3.30
2-4. 進度	▼3.23	△3.21	△3.21	△3.17

昨年度の評価と比較して、専任教員はすべての項目で評価を上げた。これは非常にいい傾向である。講義棟の移転に伴い、環境が変化したことで、意識的に講義の進め方を再考したり、別環境に対応しようとしたりすることになったことが逆に好循環を生んだのかもしれない。

講師（非常勤）の評価においても昨年度比較で下がっているものはあるものの、決して低い数値ではなく、評価している。満足度はほぼ昨年度並みであるし、難易度や進度に関する評価は良化している。強いて言えば、講義内容は充実していきいている傾向にあるので、さらに学習効果を高めるために、評価を下げた「2-7. 教室内の雰囲気」を意識的に改善していくようにしていくといい。専任教員と違い、学生と接する時間が限られるからこそ、授業内での工夫がより一層図られていく必要がある。

（５）分野別の評価

① 分野相互間の比較

英語群（38科目）、地域言語群（58科目）、基礎科目群（19科目）、専門共通科目（10科目）、専門コース科目（45科目）の5群について、相互に比較した。平均値が最も高いものに○印を、最も低いものに●印を付けてある。

	英語群	地域言語群	基礎科目群	専門共通科目	専門コース科目
Ⅱ-1. 狙いの明確さ	●4.02	○4.23	4.21	4.07	●4.02
Ⅱ-3. 講義要項との進み具合	4.17	○4.27	4.20	●4.09	4.11
Ⅱ-5. 声の大きさ	○4.31	4.27	4.27	4.15	●4.14
Ⅱ-6. 教材等の効果	4.20	○4.22	4.13	●4.08	●4.08
Ⅱ-7. 教室内の雰囲気	○4.26	4.19	4.25	●4.18	4.19
Ⅱ-8. 宿題・課題	○4.17	4.12	4.02	●3.68	3.83
Ⅱ-9. 理解しやすさ	○4.09	4.02	4.02	●3.80	3.94
Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる	●3.84	3.94	3.92	3.94	○3.99
Ⅲ. 満足度	4.17	○4.21	4.09	●4.02	4.07

3の回答が適切である項目

	英語群	地域言語群	基礎科目群	専門共通科目	専門コース科目
Ⅱ-2. 難易度	○3.17	3.42	3.39	●3.50	3.31
Ⅱ-4. 進度	○3.10	3.22	3.23	●3.33	3.19

相対的に言語関連の科目（英語群／地域言語群）の評価が高く、専門科目になるほど評価が低い。これらの科目は国際学部においては両輪であり、このギャップをどう埋めていくかは課題である。

② 英語群

分野相互間の比較では、数値が一番いい項目が複数あるが、一方で「Ⅱ-1. 狙いの明確さ」と「Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる」の数値は最も低い。「Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる」に関しては、語学というものが基本的にはスキル向上が狙いとされるため、そもそも思考を深めていく場面が少ないので理解できるが、「Ⅱ-1. 狙いの明確さ」の評価が低

いことは根本的な問題である。目的意識を持たせて、モチベーションを上げていくことが語学習得には欠かせないため、授業内で工夫していくよう、再検討していく必要がある。

③ 地域言語群

例年の傾向として、分野相互間の比較で総じて評価が高く、トップ評価である項目がいくつもある。「Ⅲ. 満足度」に関しても、他より数値が高く、学生が地域言語科目に関して、大変なりにも前向きに取り組んでであろうことが想像される。

また、昨年までは「Ⅱ-2. 難易度」と「Ⅱ-4. 進度」の数値は最も芳しくなかったのだが、今年度は多少評価を上げており、改善が図られている。その点も満足度の高さにつながっていると思われる。

④ 基礎科目群

比較において、最高評価もなく最低評価もなく、国際学部において平均的な評価となっている。基礎科目という性質上、そういう評価にならざるを得ないのかもしれない。ただ、そういう意味では難易度に関する評価はもっと 3.0 に近く数値になるよう、意識していかなければならないとも言える。

⑤ 専門共通科目

昨年度も同じ傾向であったが、全般的に評価が低い。「Ⅲ. 満足度」は 4.0 の数値を超えており、決して悪いとは言えないのだが、国際学部生として中心に据えていくべき科目なので、むしろ満足度がトップにくるよう、専門コース科目とあわせて、創意工夫をより一層凝らしていく必要がある。

⑥ 専門コース科目

「Ⅱ-5. 声の大きさ」と「Ⅱ-6. 教材等の効果」において、最低の評価となった。専門的な内容を掘り下げていくことになるので、教材を有効に使ったり、見せ方・伝え方に配慮したりすることは他科目以上に配慮すべきところなので、この項目の評価はもっと上げていきたい。

専門コース科目については、国際協力（16 科目）、国際経済（9 科目）、国際政治（7 科目）、国際文化（7 科目）、国際観光（5 科目）、農業総合（1 科目）の 6 コースについて相互に比較した。平均値が最も高いものに○印を、最も低いものに●印を付けてある。

	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合
Ⅱ-1. 狙いの明確さ	3.94	3.94	3.94	●3.91	○4.02	●3.91
Ⅱ-3. 講義要項との進み具合	4.07	4.07	4.03	●3.99	○4.09	○4.05
Ⅱ-5. 声の大きさ	○4.13	4.12	4.08	●3.96	4.08	4.11
Ⅱ-6. 教材等の効果	4.07	4.02	4.03	●3.93	4.04	○4.08
Ⅱ-7. 教室内の雰囲気	4.17	○4.21	○4.11	●4.00	4.14	4.19

Ⅱ-8. 宿題・課題	○3.88	○3.88	3.77	●3.67	3.75	3.83
Ⅱ-9. 理解しやすさ	3.84	3.86	3.85	●3.80	○3.94	3.82
Ⅱ-10. 見方・考え方が深まる	3.92	3.92	3.90	●3.86	○3.99	3.89
Ⅲ. 満足度	4.03	4.02	3.97	●3.91	○4.05	○4.00

3の回答が適切である項目

	国際協力	国際経済	国際政治	国際文化	国際観光	農業総合
Ⅱ-2. 難易度	3.38	3.36	3.33	3.32	○3.27	●3.40
Ⅱ-4. 進捗	3.18	○3.16	3.18	●3.24	●3.24	3.19

国際文化コースに最低評価が集中した。これは例年と違う傾向なので、原因がどこにあるのか、探る必要がある。また、学部全般を見ても（概ね小数点以下のわずかな変動とは言え）昨年度より評価を下げる傾向にあった。前年度は前期科目でアンケートを実施し、今年度は後期科目対象であったので、単純比較はできないが、気にしていくべき点である。

（6）評価と課題

国際学部としては、昨年度同様、「3. 満足度」は4.07で4.0を超える数値となった。これは、外国語学部（4.21）には及ばないものの、4.0を超えた数値は2学部のみなので、評価に値する取り組みであったと言ってもいい。ただし、細かく見ていくと、授業への出席率やノートテイキングに関する項目では、他学部に比して、低い評価になっている。学生なりに満足していたとしても、授業に対する積極性や能動的な姿勢が見られてないのであれば、いくら満足度が高いと言ってもその数値に意味はない。学生の学習に対する主体性をどれだけ育めたかという点において些か疑問があるのであれば、本質的な評価につながったとは言えないのである。ゆえに、今後、この「満足度」が何を意味していたのか、再検証していくべきであり、我々教職員が求める「満足度」とは何なのかを議論、共有して実践に活かしていかなければならないであろう。

アンケート結果として表れた数値の意味を精査せず、数字だけに踊らされて一喜一憂しては、そもそもこの「授業改善のための学生アンケート」で授業改善されることはなく、有名無実化してしまう。単に授業アンケートを実施して既成事実をつくるといった消極的な姿勢で実施するのではなく、アンケート結果をより具体的にどういった場面でどう活用していくのか、やりっ放しではない「その後」を検討していく主体性・能動性がアンケートを実施する側にも求められている。その部分を今後の課題として取り組んでいきたい。

以 上

6. 教養教育科目

本節では教養教育科目の「授業改善のための学生アンケート」全体集計に対する「評価及び課題」を、(Ⅰ) アンケートの実施状況、(Ⅱ) 現状評価、(Ⅲ) 課題、(Ⅳ) まとめ、の順で述べる。

(Ⅰ) アンケートの実施状況

「教養教育科目・総合教育科目」のアンケート実施件数は89科目である。このうち国際学部だけで開講されている基礎科目15を除いた教養教育科目のアンケート実施件数は74科目である。これは平成29年度後期開講の教養教育科目数124(文京86／八王子国際38)の6割に当たる。平成28年度前期は8割であった。今年度の実施件数は減ったことになる。また群毎に見たアンケート実施科目数には、例年どおり今年もかなりのばらつきが見られる。

(Ⅱ) 現状評価

教養教育科目の現状を評価するにあたり、教養教育科目全体に関しては「1. 学科目別平均値(講義科目)平均値・標準偏差」を参照し、また教養教育科目の各群に関しては「教養教育科目(1) 講義科目(群別)」のデータを参照する。以下、①学生の受講姿勢、②授業の内容・進め方、③学生の満足度、④難易度・進捗という順で所見を述べる。

A. 教養教育科目全体に関する現状評価

①学生の受講姿勢

「学生の出席状況」の項目は昨年の4.58から4.54と若干低下した。またこの値は全体の平均値4.56とほぼ同じであり、5学部の専門科目や外国語、ゼミ等と比較して、ほぼ中間値を示している。また「ノート・メモ」の項目は3.73から3.78と若干良くなったが、「予習・復習」は昨年と同じ1.56であった。「質問」は昨年の1.49から1.47と低下した。「ノート・メモ」や「予習・復習」の数値を改善するためには、教科書使用の徹底、小テストや中間テストの導入などの取り組みが必要であろう。大教室での授業が多い教養教育科目の「質問」の値を改善するには、授業の進行過程でこまめに質問の時間をとる、コメントシートの導入などのきめ細やかな対応が必要になってくるだろう。

②授業の内容・進め方

「授業の内容・進め方」では、「狙いの正確さ」が昨年と同様の3.84に、「講義要項との進み具合」は3.94から3.98に、「声の大きさ」が4.00から4.01に、「教材等の効果」が3.92から3.95に、「教室内の雰囲気」が3.84から3.95に、「理解しやすさ」は3.66から3.69に、「見方・考え方が深まる」は3.73から3.88へとそれぞれ上昇した。「宿題・課題」は昨年の3.62から3.69と良くなったが、全科目の平均値(3.85)より低かった。また「宿題・課題」は(3.69)が昨年と同様に全科目の中で最下位であった。しかし、棒グラフで示された年度比較のデータ(「⑥教養教育科目」)から明らかのように、教養教育科目の「授業の内容・進め方」は、すべての項目において改善の兆しが見られる。

③学生の満足度

教養教育科目の「満足度」は、昨年の3.86を上回る3.88という値であった。この値は全体の平均値(3.99)よりは低いが、工学部専門科目の「満足度」(3.72)を上回り、商学部専門科目の「満足度」(3.98)に迫る値であった。1クラスあたりの受講者数が学部の専門科目と比して、圧倒的に多い教養教育の科目のこの数値は、教養教育科目を担当する教員の努力が実を結んだためであると思われる。さらに、「満足度」の値が、平成25年度をピークにして、26、27年度と、下降し続けていた状況に歯止めがかかり(27年度)、29年度も上昇していることも指摘しておく。「満足度」の値の維持、さらなる向上のための創意工夫が望まれる。

④難易度・進度

「難易度」は3.43であり、全科目の平均値(3.43)と同じ値である。また「進度」は3.26であり、全体平均値(3.24)をわずかに上回った。このことから教養教育科目は、授業の進度はやや速めだが、学生の理解度に合わせた授業を実施していると判断できる。この二つの項目は、概ね適正の範囲内にあり、5学部の専門科目と比較しても適正值により近い結果となっている。

B. 教養教育科目各群に関する現状評価

教養教育科目各群の現状を見ていくにあたり、大教室での多人数授業の講義科目が中心のA系列・B系列・C系列(第1群～第9群)と、履修登録者数を100人以下に制限して授業を行うD系列(第10群)の科目とを分けて所見を記す。なおA～Dの系列外に「共通」というカテゴリーの科目として「歴史の中の拓殖大学」「職業と人生」「防災と安全」の3科目があるが、これらの科目のデータは存在しないため昨年と同様に評価は割愛する。

○A系列・B系列・C系列(第1群～第9群)について

第1群～第9群の編成と名称は以下の通りである。

A系列(人間を考える)

第1群(人間の探究)、第2群(文学・芸術)、第3群(身体と運動)

B系列(社会を考える)

第4群(歴史・民族)、第5群(社会のしくみ)、第6群(近代社会の変容)

C系列(自然と環境を考える)

第7群(自然の認識)、第8群(技術の進歩)、第9群(環境と人間)

各群の現状を見ていくにあたり、あらかじめ留意しておくべき点がある。それは各群のアンケート実施科目数に今年もばらつきがあり、そのため各群同士を比較することに客観性が担保されにくいという問題である。この問題は一昨年度、昨年度の評価においても指摘されていたが、今年も同じ状況にある。アンケートの実施が最多の第10群が11科目であるのに対し、アンケートの実施数が最小だったのは第8群の2科目である。とはいえ、

次に少ない第5群、第9群の科目数は4科目であるので、第8群のみを評価の対象から除外することは適切ではない。そこで以上の点に留意した上で、今年もすべての群を対象として現状評価を行うこととする。

①学生の受講態度

「出席状況」では体育実技科目を含む第3群が最上位(4.56)、第5群が最下位(4.42)である。その差は0.15であり、群毎に大きな開きはない。「ノート・メモ」では第5群が最上位(4.46)、第9群が最下位(3.60)であった。しかし昨年は第9群が最上位(4.27)、第8群が最下位(3.17)であった。第9群は昨年は最上位で、今年は最下位となった。第9群のアンケートの実施科目数(4)の少なさが、このような順位のバラツキを生じさせているのかもしれないが、理由はよくわからない。

「予習・復習」では第8群が最上位(1.76)、第5群が最下位(1.40)であるが、すべての群で1点台(平均1.44)であることから明らかなように、今年も教養教育科目では「予習・復習」を必要とする授業が非常に少ないことを示している。「質問」では第1群と第3群が最上位(1.52)、第7群が最下位(1.27)である。教養教育科目全体の平均値は1.44であり群毎の差は少ない。

②授業の内容・進め方

「授業の狙い」は第5群が最上位(4.13)、第8群が最下位(3.31)である。第10群を除いてこの値が4を超えたのは第5群のみであった。「講義要項との進み具合」は第5群が最上位(4.10)、第7群が最下位(3.77)となっている。「声の大きさ」では第1群が最上位(4.22)、第9群が最下位(3.44)である。「教材等の効果」では昨年と同じく第3群が最上位(4.12)、第4群が最下位(3.60)である。「教室内の雰囲気」では昨年と同じく第5群が最上位(4.33)、第8群が昨年をと同じく最下位(3.62)である。「宿題・課題」では第5群が最上位(3.74)、第8群が最下位(3.38)である。「理解しやすさ」では第3群と第5群が最上位(3.89)、第7群が最下位(2.98)である。「見方・考え方が深まる」では第6群が最上位(3.97)、第8群が最下位(2.85)となっている。

「授業の内容・進め方」では第5群の健闘が目立つ。第5群は全8項目中、5項目で最上位を占めている。これと対照的に第7群は全8項目、4項目で最下位である。しかし、アンケートの結果は年度によって大きな違いが出るので、次年度の値を注視したい。

③学生の満足度

「満足度」では第5群が最上位(4.05)、第3群が2位(4.03)、第8群が最下位(3.11)となっている。満足度においても第5群の健闘が特筆に値する。昨年と同様に今年の最下位である第8群の値が3点台であったことは、教養教育科目全体の「満足度」の底上げがなされたという評価もできるかもしれない。

④難易度・進度

「難易度」が適正值(3.00)にもっとも近いのが第3群(3.28)であった。これに対し

て適正值からもっとも遠いのは第7群(3.83)、次が第9群(3.78)であった。この値の順位は昨年と同じである。この結果から読み取れるのは、自然科学系から成るC系列が、文系学部学生の占める割合が高い本学の学生にとっては、どうしても難しく感じられるということであろう。この傾向は昨年と比して変わらない。止むを得ない面もあるが、C系列担当者にとっては創意工夫が求められる課題であろう。

「進捗」では、適正值にもっとも近いのは昨年と同様に第5群(3.15)であり、適正值からもっとも遠いのは第8群(3.46)である。この項目は各群ともほぼ適正な範囲内に収まっていると判断できる。

○D系列(第10群)について

①学生の受講姿勢

第10群は日本語のコミュニケーション力を高める科目によって構成されている。第10群の「出席状況」は4.54と昨年と比して若干低下した。「ノート・メモ」は3.65という値であり、学生の受講姿勢は第1群～第10群の平均値(3.81)より低い。「予習・復習」は1.55、「質問」は1.43と、教養教育科目全体の平均値とほぼ同じである。

②授業の内容・進め方

「授業の内容・進め方」では、第10群が「宿題・課題」の項目以外のすべての項目で4点台を記録し、最上位を占めている。この結果は、第10群の担当者の努力の結果であると同時に、履修者数を100人以下に制限して、演習型の授業を展開する同群の各科目の特性がよく活かされた成果であると判断できる。この傾向と分析は昨年と同じである。

③学生の満足度

「満足度」でも第10群は全群中、最上位(4.32)の値を示している。この結果についても上述のコメントが同様にあてはまると思われる。

(Ⅲ) 課題

以上の現状評価を踏まえた上で、教養教育科目に関する課題について述べる。そのさい、教養教育科目全体の課題と、群毎におけるそれとを分けて検討することにする。

A. 教養教育科目全体の課題

現状評価の項で触れておいたが、棒グラフで示された年度比較のデータ(「⑥教養教育科目」)から明らかなように、教養教育科目は、「出席」と「質問」を除いて、改善の兆しが見られた。商学部・政経学部の文京キャンパスへの全面移転の効果が定着してきたのではないかと推測される。さらにこの傾向を継続させていくために文京キャンパスの教室に備えられている最新の設備のさらなる活用、大人数の履修生を相手にしたアクティブ・ラーニングの導入の工夫など、教養教育科目担当の教員の授業改善への取り組みを今後も継続して強化する必要がある。

本年度は商学部・政経学部の文京キャンパス移転の3年目にあたり、授業を取り巻く様

々な諸環境（時間割、教室割など）が、整備されれば落ち着いたと考えられる。つまり授業に関わるハードの問題は、ほぼクリアされたということである。となれば今後は授業に関わるソフト、すなわち各教員の教育実践上の工夫が求められるということになる。恵まれたハードをどのように活かすかという取り組みは待ったなしと言える。

また、アンケートの項目の「声の大きさ」（昨年も記したが、この項目の名称は「聞こえやすさ」と改めてはどうだろうか、声が大きければ聞き手にとって聞きやすいとは限らないからである）、「教室内の雰囲気」、「宿題・課題」といった項目は、比較的速やかに対処が可能ではないかと思われる。特に「宿題・課題」の項目は学生の「受講態度」の中の「予習・復習」の項目と関連する項目である。授業3回に1回は小さな課題を出すというようなことに取り組んだらどうであろうか。座してノートをとっておけばよいという旧態依然とした教室の了解を速やかに改める必要があるだろう。

B. 教養教育科目各群の課題

第1群～第9群の中で目につくのは第5群の健闘であろう。「授業の内容・進め方」では8項目中、5項目で最上位であった。一方で、第5群は「受講態度」の項目の「出席」と「予習・復習」がそれぞれ4.42、1.40と最下位であった。なお第3群は、例年どおり安定した良い値を示している。

第7群は「講義への興味」が30.1と高い群であるにも拘らず、「満足度」が3.27と全群中最下位となっている。この結果は学生の期待度が高かったことの裏返しとして解釈することができる。第7群の担当教員の奮起を期待したい。

同様のことは自然科学系の科目から成る第8群、第9群についても言える。この2つの群は「講義への興味」が、それぞれ25.4、24.5と比較的高い値を示しているのに対し、「満足度」は3.11、3.42とふるわない。授業担当者には学生の期待を裏切らないような授業の工夫が求められる。または学生にとってC系列の科目の「単位の必要」度は総じて高く、同系列の科目は「時間帯が空いていたから」受講したという数値が21.9、31.0、16.5と低くなっているという特徴も指摘しておく。

第1群、第2群、第4群、第6群は「授業の内容・進め方」および「学生の満足度」に関わる多くの項目が中位を占めている。ただ、すべての群について言えることだが、アンケート結果は年度ごとの変動が激しく、入学してくる学生のレベルや関心に左右される面も大きい。中期的な視野でデータを分析する必要もあるだろう。

第10群は「講義への興味」が17.8と群の中で最下位にも関わらず、満足度は4.27と高い値になっている。また「授業の内容・進め方」および「学生の満足度」に関わる、ほぼすべての項目において最上位を占めており、この結果は、履修者数の制限を行っているという点を考慮に入れても、授業担当者の努力なしには考えられない成果であろう。課題としては、「予習・復習」の項目の値の低さ（1.51）をどう改善していくか、という点を今年も挙げるができる。さらに今年は「単位取得が楽」という項目で12.3という全群中、最も高い値を示したことも指摘しておく。

(IV) まとめ

教養教育科目は大教室での多人数による講義の授業が中心であり、この点で少人数・クラス別授業形態をとる専門科目群と比して不利な条件を背負いながら、比較的健闘していると言える。平成27年度の商学部・政経学部の文京キャンパスへの全面移転に伴い、教養教育科目のアンケート結果の分析も、「キャンパス別」という項目を加える必要も出てくるだろう。いずれにせよ、アンケートの結果のこのような分析を機会に、授業担当者には授業内容、配列、方法、教材さらには評価などにおいてさらなる創意工夫を求めたい。

以 上

6. 教養教育科目（外国語科目）

1. アンケートの実施状況

本年度の「授業改善のためのアンケート」は平成29年11月1日(水)から12月8日(金)に行われた。ここでの「外国語科目」とは、商学部、政経学部、外国語学部、の12言語の授業を意味する。科目の内訳は、英語、アラビア語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、インド・パキスタン語、インドネシア・マレーシア語、ロシア語、スペイン語、日本語である。専任、非常勤とも実施率は100%であることから、各教員が本アンケートの重要性を認識していると言える。

2. 項目別における集計結果（設問項目別に全体の平均値と比較）

I-1「学生の出席状況」

昨年の平均値が4.69であったのに対し、今年は4.64と0.05下回った。昨年度は前期実施だったが、前期実施分は後期実施分よりも平均値が高く出る傾向があるため、ほぼ横這いと考えて差し支えないだろう。今年の全体の平均値4.56（昨年の全体平均値4.64）も若干ではあるが上回っている。日本語の4.73が、最も高い値となった（昨年度は4.77）。

I-2「ノート・メモ」

外国語科目は4.08となり、昨年の平均値4.12よりも0.04下回った。しかし昨年と同様、今年も全体の平均値（3.90）を大きく上回っている。ただし第二外国語が比較的高い数値を出しているのに対し、英語は3.90と全体平均値並み、A語は3.75と平均値を下回っている。改善の努力が望まれるが、この数値は、言語によるメソッドの違い（口頭練習重視か文法理論重視か）や使用教材のタイプ（書き込み式ドリル形式などの場合もありうる）によって変わってくるため、一概に授業評価として扱うことはできない。

I-3「予習・復習」

今年度の外国語科目の値は1.91となっており、全体の平均値1.75と比較して0.16と、昨年度同以上に上回っている。また前年度の値が1.98であったので、数値は若干上がっている。しかし2.00の値が毎回の予習・復習が30分以上であることを意味していることを考えると、依然として十分な値とは言えない。予習・復習の内容をより一層具体的に指示することが、求められる。

I-5「質問・オフィスアワー等」

今年度の値は1.58で、全体の平均値1.56と比較し、0.02上回っている。前年度は全体の平均値を下回っていたので、若干の改善が見られる。しかし実体としては、ほとんど質問が行われていないことになる。その中でも日本語が2.78と突出して平均を上回っている。留学生の積極性と日本人学生の控えめな姿勢が、数値として表れている。

II-1「狙いの明確さ」

全体の平均値4.00に対し、外国語科目の平均値は4.10となっている。昨年は全体が3.95、外国語科目は4.06であったため、全体の平均値に対する外国語科目の値の差は同じである。就職活動への生かし方や検定試験など、より一層具体的な情報提供を行っていく必要がある。

II-3「講義要項との進み具合」

全体の平均値が4.08であるのに対して、4.17となり、全体を上回る結果となった。前年度は4.08であったので、横這いである。さらなる改善を目指すためにはシラバスに沿った授業運営をより一層徹底する必要がある。

II-5「声の大きさ」

全体の平均値 4.13 に対し、外国語科目の平均値は 4.24 となっており、0.11 上回っている。しかし昨年の外国語科目平均値は 4.15 であったため、前年を下回っている。外国語学習にとって、「声の大きさ」は発音練習等で重要な要素となるので、高い数値を維持することを目標とすべきである。

II-6「教材などの効果」

外国語科目の平均値は 4.05 で、全体の平均値 4.07 に対し 0.02 下回る結果となった。昨年の外国語科目の平均値は 4.09、全体の平均値は 4.04 であったため、評価が逆転している。外国語科目にとって教材の効果は重要な要素となるので、早急な改善を期待したい。

II-7「教室内の雰囲気」

外国語科目の平均値は 4.12 で、全体の平均値 4.06 を 0.06 上回った。しかし外国語科目は昨年の値を下回り、全体の平均値との差は縮まる結果となっている（昨年度は外国語科目 4.17、全体 4.00）。外国語科目は昨年度改善が見えたが、今回はまた数値が下降することになった。外国語科目のクラスは小規模なため、専門科目や教養科目などの大規模クラスに比べると私語をする学生が少ないと考えられるが、その環境の優位性を生かし、さらに優良な学習環境を提供できるよう改善を続けていくべきであろう。

II-8「宿題・課題」

全体の平均値が 3.85 であったのに対し、外国語科目の平均は 4.07 であった。昨年の値（全体 3.81、外国語科目 4.02）と比較すると、全体の平均値も、外国語科目の平均も上昇した。とはいえ、毎回の予習・復習が平均 30 分程度なので、学生の意識改革も必要である。外国語科目の平均を下回る言語については、適切な宿題・課題を課すことが求められる。

II-9「理解しやすさ」

外国語科目の平均値が 3.93、全体の平均値 3.79 で、外国語科目が 0.14 上回っている。初めて学習する外国語において、理解しやすさは重要な項目となる。昨年の外国語科目の平均値は 3.84 であり、全体は 3.73 であったため、差が開く結果となったが、前期実施の前回に比べ、後期実施の今回の方がポイントが高くなっている点は評価に値するであろう（一般的に後期の内容の方が難しい）。語学別ではアラビア語、スペイン語の値が低く、一層の改善が望まれる。

II-10「見方・考え方が深まる」

外国語科目の平均値は 3.78、全体の平均値も 3.78 であった。昨年度は外国語科目が全体の平均値よりも若干低かったが（外国語 3.69、全体 3.75）、今年度は逆転し、外国語科目は前年比+0.09 となった。言語別では、ブラジル・ポルトガル語（4.08）、韓国語（4.05）、インド・パキスタン語（4.50）、日本語（4.32）の値が高い。異言語担当教員の間で経験交流の機会を設けることは意義があると思われる。

III「満足度」

全体の平均値 3.99 に対し、外国語科目の平均値は 4.09 となり、0.10 上回った。また外国語科目は前年比+0.08 となり、改善が見られたと考えられる。4.00 を下回る 3 言語（アラビア語、中国、スペイン語）については、スタッフ全員が現状を認識した上で、改善に取り組む必要がある。

3の回答が適切である項目

II-2「難易度」

全体の平均値は3.43で、外国語科目は3.39、両方とも前年比を下回った（昨年度：全体3.45、外国語科目3.41）。この項目は値が低いほど難易度が下がることになるが、昨年と比較して外国語科目の難易度はほぼ変わっていないと考えられる。どちらかという、現行の授業内容を難しいと感じる学生が多いことがわかる。

II-4「進度」

全体の平均値が3.24であったのに対し、外国語科目の平均値は3.20で、両方とも前年比を僅かに下回った（昨年全体平均値3.27、外国語科目平均値3.25）。進度が適切であると感じる学生が全体的に若干増えたことがわかる。

1-4「受講動機」回答の分布

多くの言語において、昨年度同様、「単位が必要」と「時間帯が空いている」が多くのパーセンテージを占めている。「教員にひかれて」また「講義への興味」の値が低いのは、必修の第二外国語が入学前に選択されるため、事前の情報が入手困難であることに起因すると思われる。

3. 本年度の集計結果の評価について

- ①「予習・復習」、「声の大きさ」、「教材などの効果」、「講義要項との進み具合」、「宿題・課題」、「見方・考え方が深まる」、「満足度」は、前年度の値を上回っており、今後もこの傾向を維持すべきである。
- ②「学生の出席状況」、「ノート・メモ」、「教室内の雰囲気」、「理解しやすさ」の項目が、昨年の値を下回った。
- ③「質問・オフィスアワー」、については、昨年度と同じ結果となった。
- ④昨年度は、一昨年度と比べ、上回る項目のほうが多かった。今年度も上回る項目が多かった。この傾向を維持すべきである。しかしながら、今年度はアンケートを前期に実施したが、今年度は後期実施した。学期を問わず、全体的な評価が上昇したことになる。

4. 課題

- ①「学生の出席状況」の値については、昨年度同様に状況が好転しつつあるように見受けられる。キャンパスが文京に移転になったことが有利に働いていると考えられる。昨年度の実施の段階では、第二外国語が半期科目であるため、単位を取得できなかった受講生が後期に出席を取りやめ、全体の出席率を押し下げる傾向が考えられた。しかし後期実施した今年度において状況の好転が見られたことにより、この数値の上昇は学期とは関係ないと考えられる。今後、さらに高い出席率を実現するためにも、学生支援センターと協力し、数回欠席した時点で欠席者に連絡を取るといった試みを全体的に広げていき、脱落しかけた受講者の授業復帰支援を行うことを勧めたい。これによって、外国語科目の出席状況の改善のみならず、大学全体の退学者問題の改善にも寄与できるのではないかと考える。
- ②「ノート・メモ」の項目が全体の平均値を上回っているが、これは語学という科目の性質上によるものと考えられる。「ノート・メモ」の改善に関しては、教員の板書のやり方も関係している。「自由記述欄」で板書の改善に対する要望もしばしば挙げられており、

組織的な改善への取り組みが必要である。

- ③ 「予習・復習」については、全体の平均を上回っているものの、毎回の予習復習が依然として30分程度であるのは、明らかに少ない。専門科目の学習時間または個々の学生の生活状況も勘案しながら、現実的にどれ程より多くの学習時間を確保できるか検討する必要がある。また言語に触れる時間を増やすことの効果を、具体的なデータで示す必要があると考える。
- ④ 「質問・オフィスアワー等」の値が低い点については、多くの授業を講師（非常勤）に委託している現状では解決が難しい問題である。授業の最後の分を質問時間に当てる、講師控室の場所を周知させることなどが、当面の改善策として考えられる。
- ⑤ 「講義要項との進み具合」については、全体の平均値を上回った。教員の中でシラバスとの授業の整合性に対する意識が高まってきていることの表れと推察でき、今後もこの傾向を維持していくことが望まれる。
- ⑥ 「声の大きさ」、「教室内の雰囲気」、「狙いの明確さ」は昨年度を下回る結果となった。語学に重要なこの3項目の評価が下がったのは問題であり、この結果を教員間で共有する必要がある。「教材の効果」の値は昨年より改善した。引き続き、よりよい教材の選択（場合によっては作成）に努力していくべきである。
- ⑦ 「宿題・課題」については、「予習・復習」の場合と同じように、昨年に比べ数値は改善している。③で示した通り、他の科目等とのバランスを考えながら、現実的な学習時間の提示を行う必要がある。
- ⑧ 「理解しやすさ」は前年度を下回り、「見方・考え方が深まる」は上昇した。両方ともに、スペイン語の値が依然として低いが、前年度と比較し改善が見られた。引き続き、スペイン語の改善への取り組みを期待したい。
- ⑨ 「満足度」については、前年度を上回った。言語間でばらつきがあるので、個別の数字を各言語の担当責任者に周知し、改善を促す必要がある。
- ⑩ 「難易度」、「進度」については、ほぼ同じか適切な値に若干近づいた値となっている。特に値が高い言語についてはクラス間で差が出ることはないように調整を促す必要がある。
- ⑪ 「受講動機」の回答の分布については、昨年度同様に消極的理由、すなわち「単位が必要」と「時間帯が空いている」が多くのパーセンテージを占めている。改善策としては大学のホームページで情報を提供するという方法が考えられる。これについては一昨年度から、履修の手引きの内容をホームページに掲載した。引き続き授業の様子や海外の提携大学、個人研修奨学金、海外研修の情報などを掲載し、受講生が入学前により多くの情報を得られるように工夫したい。
- ⑫ 昨年度の全体値と比較すると、全体的に数値の改善が見られた。しかし上述のようにアンケートが前期に行われたことで、数値が良くなる傾向にあることを考慮すべきである。アンケートが後期に実施された場合、評価に違いが出ることも予想される。各言語におけるスタッフミーティングの場などを通して情報を共有し、各項目について具体的な対策を行っていくことが重要であると考えられる。

以上

6. 教養教育科目（スポーツ・トレーニング科目）

(A) 評価

I. 受講する姿勢や動機について

I-1 「学生の出席状況」

平均値 4.58（平成 29 年度調査は 4.65、平成 28 年度 4.80、平成 27 年度 4.58、平成 26 年度 4.59、平成 25 年度 4.65、平成 24 年度 4.51、平成 23 年度 4.58、平成 22 年度 4.51、平成 21 年度 4.47、平成 20 年度 4.53）。出席率 80%以上と答えた学生は 92%であった。平成 28 年度調査は 94%、平成 27 年度 88%、平成 26 年度 88%、平成 25 年度 91%、平成 24 年度 88%、平成 23 年度 90%、平成 22 年度 88%、平成 21 年度 88%、平成 20 年度 90%であった。平成 26 年度より工学部のみ必修科目となった。商・政経学部は平成 26 年度より必修科目からははずれている。直近 9 年間の数値にはほぼ変化はなかったのであるが、平成 29 年度調査では平成 28 年度に続き 92%という極めて高い数値となった。工学部学生の授業出席に対する真面目な姿勢が窺える。非常に高い出席状況である。

I-2 「健康・運動への関心」

平均値 4.26（平成 29 年度調査は 4.30、平成 28 年度 4.26、平成 27 年度 4.13、平成 26 年度 4.23、平成 25 年度 4.27、平成 24 年度 4.21、平成 23 年度 4.15、平成 22 年度 4.20、平成 21 年度 4.08、平成 20 年度 4.11）。平成 28 年度は「強く関心を持つ」が 48%、「そう思う」が 34%、平成 27 年度は「強く関心を持つ」が 45%、「そう思う」が 31%」で 76%、平成 26 年度は「強く関心を持つ」が 51%、「そう思う」が 26%」で 78%、平成 25 年度 81%、平成 24 年度 78%、平成 23 年度 78%、平成 22 年度 80%である。

昨年度までの過去 5 年間は約 80%の学生が「健康・運動」に関心を持っていると回答した。平成 29 年度も「強く関心を持つ 49%、そう思う 32%」で 81%の学生が自身の健康・運動に強い関心を持っている。健康が生活の柱であることは言を俟たないが、81%という高い数値は大変に良い傾向である。しかし、約 20%の学生が健康・運動に関心を持っていない。100%に限りなく近づかなければいけない項目であろう。

I-3 「積極的参加」

平均値 4.53（平成 29 年度調査は 4.48、平成 28 年度 4.53、平成 27 年度 4.52、平成 26 年度 4.40、平成 25 年度 4.48、平成 24 年度 4.37、平成 23 年度 4.30、平成 22 年度 4.35、平成 21 年度 4.28、平成 20 年度 4.21）。「強くそう思う 60%、そう思う 30%」で 90%、平成 28 年度は「強くそう思う 62%、そう思うが 30%」で 92%、平成 27 年度は「強くそう思う 64%、そう思うが 26%」で 90%、平成 26 年度は「強くそう思う 58%、そう思うが 27%」で 86%、平成 25 年度は「強くそう思う 61%、そう思うが 29%」で 90%、平成 24 年度では 87%、平成 23 年度調査も 87%と、今年度はわずかに数値が減少した。とはいえ、積極的に授業に参加する意思を大勢の学生が持っているようである。

I-4 「受講動機の回答比率」

③の「単位が必要だから」が 46%と最も高かった。次いで⑤の「講義要項を読んで興味

を持ったから」が34%で、③と⑤で80%を占めた。工学部の必修科目であるため、③の数値が高くなることは当然であると思えるが、⑤の「興味を持ったから」の数値もかなり健闘したと考える。昨年度は③が48%、⑤が30%でトータル78%であった。「興味を持ったから」が漸増している。良い傾向である。

Ⅱ. 授業の内容や進め方について

Ⅱ-1 「狙いの明確さ」

平均値 4.51（平成29年度調査は4.27、平成28年度4.51、平成27年度4.34、平成26年度4.37、平成25年度4.36、平成24年度4.33、平成23年度4.25、平成22年度4.33、平成21年度4.23、平成20年度調査4.21）。「強くそう思う50%、そう思う30%」で80%、平成28年度調査では「強くそう思う58%、そう思う34%」で93%、平成27年度調査では「強くそう思う53%、そう思う29%」で82%、平成26年度調査では「強くそう思う54%、そう思う31%」で85%、平成25年度調査では「強くそう思う53%、そう思う31%」で84%、平成24年度は83%、平成23・22年度も84%と、ほぼ同様の数値が一昨年度までは継続していたのであるが、昨年度は一気に93%と一昨年度を11ポイントも上回った。良い傾向と喜んでいたのであるが、例年通りの数値に落ち着いた。ともあれ、「狙いの明確さ」についての学生の評価は非常に高いと思える。

Ⅱ-2 「難易度」

平均値 3.11（平成29年度調査は3.15、平成28年度3.11、平成27年度3.10、平成26年度3.08、平成25年度3.18、平成24年度3.15、平成23年度3.17、平成22年度3.26、平成21年度3.20、平成20年度3.20）。③の「ちょうど良い」が71%、平成28年度は「ちょうど良い」が73%、平成27年度は「ちょうど良い」が79%、平成26年度は「ちょうど良い」が74%、平成25年度は「ちょうど良い」が70%、平成24年度は「ちょうど良い」が73%、平成23年度が72%で、今年度調査では「ちょうど良い」と感じている学生は昨年度より漸減（2ポイント）したが、例年通りの数値であり特に大きな問題は感じない。

Ⅱ-3 「進度」

平均値 3.15（平成29年度調査は3.13、平成28年度3.15、平成27年度3.14、平成26年度3.05、平成25年度3.15、平成24年度3.09、平成23年度3.06、平成22年度3.19、平成21年度3.14、平成20年度3.12）。「ちょうど良い」が85%、平成28年度は「ちょうど良い」が84%、平成27年度は「ちょうど良い」が88%、平成26年度は「ちょうど良い」が86%、平成25年度は「ちょうど良い」が83%、平成24年度は「ちょうど良い」が89%、平成23年度は87%であった。今年度も大変に良好な傾向を示している。今後も継続して高い評価が与えられるよう努力していきたい

Ⅱ-4 「説明方法・分かりやすさ」

平均値 4.22（平成29年度調査は4.14、平成28年度4.22、平成27年度4.20、平成26年度4.17、平成25年度4.15、平成24年度4.22、平成23年度4.11、平成22年度4.23、平成21年度4.02、平成20年度4.08）。「強くそう思う44%、そう思う23%」で67%、平成

28年度は「強くそう思う 48%、そう思う 28%」で 76%、平成 27 年度は「強くそう思う 49%、そう思う 25%」で 74%、平成 26 年度は「強くそう思う 52%、そう思う 19%」で 71%、平成 25 年度は「強くそう思う 46%、そう思う 26%」で 72%、平成 24 年度では 74%、平成 23 年度では 71%、平成 22 年度は 77%、平成 21 年度 69%、平成 20 年度 71%と、今年度の数値はかなり減少したが、この項目もここ数年ほぼ横ばい状態となっている。もちろん良好な傾向が窺えるわけであるが、まだまだ教員自身の改善努力が必要な項目になっていると考えられる。更に良い評価を来年度は見せられるようにしたいものである。

Ⅱ－５ 「話し方や声の聞き取りやすさ」

平均値 4.40（平成 29 年度調査は 4.48、平成 28 年度 4.40、平成 27 年度 4.50、平成 26 年度 4.52、平成 25 年度 4.45、平成 24 年度 4.48、平成 23 年度 4.38、平成 22 年度 4.45、平成 21 年度 4.36、平成 20 年度 4.41）。「強くそう思う 59%、そう思う 23%」で 82%、平成 28 年度は「強くそう思う 55%、そう思う 31%」で 86%、平成 27 年度は「強くそう思う 67%、そう思う 18%」で 85%、平成 26 年度は「強くそう思う 65%、そう思う 23%」で 88%、平成 25 年度は「強くそう思う 62%、そう思う 23%」で 85%、平成 24 年度は「強くそう思う 66%、そう思う 23%」で 89%、平成 23 年度は 86%、平成 22 年度 89%であった。今年度は昨年度に比べて漸減している。この項目の値も今後ともまだ教員各自が努力し、設定目標値に到達させなければいけないと考えられる。

Ⅱ－６ 「学生とのコミュニケーション」

平均値 4.30（平成 29 年度調査は 4.38、平成 28 年度 4.30、平成 27 年度 4.34、平成 26 年度 4.37、平成 25 年度 4.25、平成 24 年度 4.38、平成 23 年度 4.32、平成 22 年度 4.44、平成 21 年度 4.29、平成 20 年度 4.30）。「強くそう思う 54%、そう思う 26%」で 80%、平成 28 年度は「強くそう思う 51%、そう思う 31%」で 82%、平成 27 年度は「強くそう思う 56%、そう思う 23%」で 79%、平成 26 年度は「強くそう思う 58%、そう思う 24%」で 82%、平成 25 年度は「強くそう思う 50%、そう思う 30%」で 80%、平成 24 年度は「強くそう思う 57%、そう思う 27%」で 84%、平成 23 年度は 82%、平成 22 年度は 86%の学生が「学生とのコミュニケーション」の項目を高く評価している。今年度も例年と比べ大きな変化はないが、ここ 8 年間はこの項目の設定目標値 85%をクリアできていない。

Ⅱ－７ 「リーダーシップ」

平均値 4.38（平成 29 年度調査は 4.34、平成 28 年度 4.38、平成 27 年度 4.42、平成 26 年度 4.42、平成 25 年度 4.36、平成 24 年度 4.42、平成 23 年度 4.36、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.32、平成 20 年度 4.32）。「強くそう思う 54%、そう思う 26%」で 80%、平成 28 年度は「強くそう思う 52%、そう思う 35%」で 87%、平成 27 年度は「強くそう思う 63%、そう思う 20%」で 83%、平成 26 年度は「強くそう思う 59%、そう思う 24%」で 83%、平成 25 年度は「強くそう思う 54%、そう思う 30%」で 84%、平成 24 年度は「強くそう思う 57%、そう思う 29%」で 86%である。平成 23 年度は 85%で、平成 22 年度は 87%であった。平成 29 年度の数値は 77%であった。もちろん悪い評価ではないが、昨年度及び平成 22 年度の

87%という高い評価からはかなり減少した。未だに一度も設定目標値である 88%をクリアできていない。「民主的・協調的リーダーシップ」は指導スキルには欠かせないものである。今後とも努力し鋭意努力し、評価の向上を目指さなければいけない項目と考えられる。

Ⅱ－８「授業の雰囲気」

平均値 4.43（平成 29 年度調査は 4.37、平成 28 年度 4.43、平成 27 年度 4.55、平成 26 年度 4.42、平成 25 年度 4.42、平成 24 年度 4.48、平成 23 年度 4.37、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.34、平成 20 年度 4.36）。「強くそう思う 51%、そう思う 29%」で 80%、平成 28 年度は「強くそう思う 56%、そう思う 31%」で 87%、平成 27 年度は「強くそう思う 69%、そう思う 19%」で 88%、平成 26 年度は「強くそう思う 61%、そう思う 24%」で 85%、平成 25 年度は「強くそう思う 56%、そう思う 31%」で 87%、平成 24 年度は「強くそう思う 59%、そう思う 30%」で 89%、平成 23・22 年度は 86%である。今年度は昨年度を 7 ポイントも下回ってしまった。しかし、まだ 80%台の高水準は維持し続けている。この項目に影響を与える要素は、学生間の集団力学、施設設備、必要備品などであると考えられるが、教員の指導スキルが最も影響する項目でもある。設定目標値は高く 90%である。しかし、未だに達成はできていない。鋭意努力し、更に向上を目指す必要がある項目のひとつと考えられる。

Ⅱ－９「理解しやすさ」

平均値 4.40（平成 29 年度調査は 4.36、平成 28 年度 4.40、平成 27 年度 4.44、平成 26 年度 4.41、平成 25 年度 4.38、平成 24 年度 4.37、平成 23 年度も 4.37、平成 22 年度 4.41、平成 21 年度 4.29、平成 20 年度 4.30）。「強くそう思う 50%、そう思う 32%」で 82%、平成 28 年度は「強くそう思う 55%、そう思う 31%」で 86%、平成 27 年度は「強くそう思う 59%、そう思う 27%」で 86%、平成 26 年度は「強くそう思う 59%、そう思う 25%」で 84%、平成 25 年度は「強くそう思う 54%、そう思う 32%」で 86%である。平成 24 年度は「強くそう思う 55%、そう思う 31%」で 86%、平成 23 年度は 84%、平成 22 年度は 86%であった。平成 28 年度、平成 27 年度、平成 24 年度、平成 22 年度は達成目標値の 85%をクリアした。平成 29 年度は残念ながら 3 ポイント足りなかった。実技が中心の授業であるから「理解しやすさ」は当然のことであるとの認識もあるが、トレーニングに関する知識には若干複雑な要素があり、説明に工夫が必要である。今後とも高い評価をキープしていくために、さらに努力していかなければならない項目であろう。

Ⅱ－１０「知識・技術が身につく」

平均値 4.31（平成 29 年度調査は 4.22、平成 28 年度 4.31、平成 27 年度 4.30、平成 26 年度 4.27、平成 25 年度 4.25、平成 24 年度 4.23、平成 23 年度 4.26、平成 22 年度 4.28、平成 21 年度 4.13、平成 20 年度 4.16）。「強くそう思う 44%、そう思う 31%」で 75%、平成 28 年度は「強くそう思う 48%、そう思う 37%」で 85%、平成 27 年度は「強くそう思う 52%、そう思う 27%」で 79%、平成 26 年度は「強くそう思う 52%、そう思う 27%」で 79%、平成 25 年度は「強くそう思う 48%、そう思う 32%」で 80%、平成 24 年度は「強くそう思う 45%、そう思う 38%」で 83%、平成 23・22 年度はともに 82%であった。昨年度は 85%という高い数値を記録した。しかし平成 29 年度は 10 ポイント減少した。高い評価を継続して得て

いる項目ではあるが、ここ数年では群を抜いて高い評価となった。昨年度のように、重要な項目であるのでさらに評価が向上するように努力する必要がある。今後も継続して目標値 80%をクリアしていきたいと考えている。

II-1-1 「健康・体力維持に役立つ」

平均値 4.34（平成 29 年度調査は 4.32、平成 28 年度 4.34、平成 27 年度 4.42、平成 26 年度 4.38、平成 25 年度 4.33、平成 24 年度 4.33、平成 23 年度 4.36、平成 22 年度 4.38、平成 21 年度 4.22、平成 20 年度 4.19）。「強くそう思う 47%、そう思う 34%」で 81%、平成 28 年度は「強くそう思う 49%、そう思う 37%」で 86%、平成 27 年度は「強くそう思う 60%、そう思う 23%」で 83%、平成 26 年度は「強くそう思う 58%、そう思う 26%」で 84%、平成 25 年度は「強くそう思う 51%、そう思う 34%」で 85%、平成 24 年度は「強くそう思う 50%、そう思う 35%」で 85%、平成 23 年度 85%、平成 22 年度が 86%であった。以前は約 80%前後の数値であったが、7 年前より継続して数値は達成目標値 85%前後をクリアしていたが、平成 29 年度はわずかに目標値を達成できなかった。今後とも継続していきたい数値であると考え。現在目標値は 85%に設定しているが、90%に目標値を設定しなおすべきかもしれない。この項目の評価は体育実技の生命線である。高い評価をキープできるように今後とも鋭意努力していきたい。

III 総合的に見て、この授業に満足していますか

平均値 4.44（平成 29 年度調査は 4.43、平成 28 年度 4.44、平成 27 年度 4.53、平成 26 年度 4.47、平成 25 年度 4.42、平成 24 年度 4.43、平成 23 年度 4.39、平成 22 年度 4.46、平成 21 年度 4.34、平成 20 年度 4.35）。「強くそう思う 57%、そう思う 26%」で 83%、平成 28 年度は「強くそう思う 57%、そう思う 32%」で 89%、平成 27 年度は「強くそう思う 66%、そう思う 22%」で 88%、平成 26 年度は「強くそう思う 64%、そう思う 22%」で 86%、平成 25 年度は「強くそう思う 59%、そう思う 27%」で 86%、平成 24 年度は「強くそう思う 60%、そう思う 26%」で 86%である。過去 5 年間は 86%を超えていたのが、平成 29 年度は 86%を 3 ポイント下回った。達成目標値は 90%である。90%に近い数値が今回の調査でも得られているが、未だに達成目標値はクリアされていない。継続して鋭意努力していきたいと考えている。

IV. スポーツ・トレーニング用の独自の設問項目

IV-1 「希望種目」

平均値 4.40（平成 29 年度調査は 4.45、平成 28 年度 4.40、平成 27 年度 4.47、平成 26 年度 4.49、平成 25 年度 4.35、平成 24 年度 4.28、平成 23 年度 4.15、平成 22 年度 4.19、平成 21 年度 4.09、平成 20 年度 4.22）。8 種類のスポーツ種目を選択できるように準備している。8 種類あれば十分に満足できる選択が必ずできるとは言い難いにしても、ほぼ希望のスポーツ種目が選択できるのではないだろうか。平均値 4.40 はそれを物語っていると考えられる。なるべく希望種目が選べるように、継続してできうる限りの配慮を考えていきたい。

IV-2 「時間帯」

平均値 4.37（平成 29 年度調査は 4.43、平成 28 年度 4.37、平成 27 年度 4.44、平成 26 年度 4.36、平成 25 年度 4.06、平成 24 年度 3.92、平成 23 年度 3.93、平成 22 年度 3.97、平成 21 年度 3.80、平成 20 年度 3.92）。数値は高いが授業の主体となる工学部学生は必修科目として時間帯が設定されてしまっている。従って時間帯は学生の満足を十分には得ていないと考えている。特に国際学部は 1 時限目に実技授業が設定されている。体育実技の時間帯としては相応しいとは思われない。現在の授業時間設定は工学部の必修科目ということを考えればやむをえないものである。また、平均値 4.37 という高い評価を素直に受け入れても良いのかもしれない。

IV-3 「次年度の履修希望」

平均値 3.76（平成 29 年度調査は 3.94、平成 28 年度 3.76、平成 27 年度 3.82、平成 26 年度 3.81、平成 25 年度 3.68、平成 24 年度 3.47、平成 23 年度 3.56、平成 22 年度 3.60、平成 21 年度 3.51、平成 20 年度 3.54）。2 年次以降に体育実技を履修したい学生の比率は、良い傾向を示していると考えられる。「希望種目」「時間帯」の設問と同様に 1 年生のみに限定して調査する必要性は感じるが、④の「そう思う」に近い評価は、ほぼほぼ満足すべき数値であるように思われる。

2) 課題

- ① 平成 17 年度の達成値を参考にして、平成 18 年度以降の「達成する目標値」を設定した（表 1 参照）。この数値は努力目標値であり決して義務目標値ではない。また数字の根拠となる理論も明確には説明できない。しかし、「努力目標数値」と考え、時間をかけて努力していくと根拠のある数値を見つけることができるであろうという前提のもとで設定している。「希望種目」「時間帯」「次年度履修希望」には「達成目標値」を設定していない。
- ② 表 1 の達成値はアンケートの調査項目で、「⑤強くそう思う、④そう思う」と回答した学生の割合である。但し、「難易度」「進度」については、「③ちょうど良い」と解答した学生の割合である。また、表の項目の「達成・未達成・増減」は、達成目標値を達成した項目は◎印、未達成は×印で表し、そして、今回の調査が前年度に比べて増加した場合は↑、減少した場合は↓、横這いは→で表している。数値は小数点以下は四捨五入している。

表 1 「年度別達成値」と「達成目標値」の推移

	調査項目	23 年度 達成値	24 年度 達成値	25 年度 達成値	26 年度 達成値	27 年度 達成値	28 年度 達成値	29 年度 達成値	達成 目標値	◎達成
I-1	学生出席状況	90%	88%	91%	88%	88%	94%	92%	95%	× ↓
I-2	健康・運動関心	78%	78%	81%	78%	76%	81%	81%	80%	◎ →
I-3	積極的参加	87%	87%	90%	86%	90%	92%	90%	85%	◎ ↓

II-1	狙いの明確さ	84%	83%	85%	85%	82%	93%	80%	80%	◎ ↓
II-2	難易度	71%	73%	70%	74%	79%	73%	71%	80%	× ↓
II-3	進捗	87%	89%	83%	86%	88%	84%	85%	85%	◎ ↑
II-4	説明方法	71%	74%	72%	71%	74%	76%	67%	75%	× ↓
II-5	話し方・声の大きさ	86%	89%	85%	88%	85%	86%	82%	87%	× ↓
II-6	コミュニケーション	82%	83%	79%	82%	80%	82%	80%	85%	× ↓
II-7	教員のリーダーシップ	85%	86%	84%	84%	83%	87%	80%	88%	× ↓
II-8	授業の雰囲気	86%	89%	87%	84%	88%	87%	80%	90%	× ↓
II-9	理解しやすさ	84%	86%	85%	84%	86%	86%	82%	85%	× ↓
II-10	知識・技術の習得	82%	82%	80%	79%	79%	85%	75%	80%	× ↓
II-11	健康・体力維持	85%	85%	85%	84%	83%	86%	81%	85%	× ↓
III	総合的な満足度	88%	86%	86%	86%	88%	88%	89%	90%	× ↑
IV-1	希望種目									
IV-2	時間帯									
IV-3	次年度履修希望									

総括

- ① 「達成目標値」をクリアした項目：4項目（昨年度より3項目減）
- ② 「達成目標値」をクリアできなかった項目：11項目（昨年度より3項目増）
- ③ 「達成目標値」に一層の努力を要する項目：「学生出席状況」、「説明方法」、「話し方・声の大きさ」、「コミュニケーション」、「教員のリーダーシップ」、「授業の雰囲気」「健康・体力維持」の6項目

備考

◆ 平成29年度の努力目標設定

平成29年度と平成28年度を比較すると、達成目標値をクリアした項目数が3項目減少した。教員が共通意識を持ち、努力をした結果は数値に正確に表れると思える。つまり、各教員の努力が概ね足りなかったという結果のあらわれであろう。気持ちを入れかえ更なる努力を続けて行き、未達成項目の達成に向けて来年度もまた頑張りたい。平成29年度も「体育教員室」に努力目標として「説明方法を改善しよう」のポスターを継続して掲示した。この項目の学生の評価結果が今年度は特に芳しくない。かけ声倒れの印象である。初心に帰り謙虚な姿勢でポスターを見直し、数値を上げる努力を更に持続して行きたいと考える。文京キャンパスにおける体育実技授業は平成27年度より教職科目履修者のみである。トレーニング場としては少々狭い空間であるが、素晴らしい施設が文京キャンパスには整えられている。近い将来、教職科目履修者だけでなく一般学生の履修も可能にならないかと考えている。

◆ 討議のための参考資料として「表 2」を作成した。「表 1」の補完として利用できる。

表 2 「各年度の平均値の推移」

	調査項目	21年度 平均値	22年度 平均値	23年度 平均値	24年度 平均値	25年度 平均値	26年度 平均値	27年度 平均値	28年度 平均値	29年度 平均値
I-1	学生出席状況	4.47	4.47	4.58	4.51	4.65	4.59	4.58	4.80	4.65
I-2	健康・運動関心	4.08	4.08	4.15	4.21	4.27	4.23	4.13	4.26	4.30
I-3	積極的参加	4.28	4.28	4.30	4.37	4.48	4.40	4.52	4.53	4.48
II-1	狙いの明確さ	4.23	4.23	4.25	4.33	4.36	4.37	4.34	4.51	4.27
II-2	難易度	3.20	3.20	3.17	3.15	3.18	3.08	3.10	3.11	3.15
II-3	進度	3.14	3.14	3.06	3.09	3.15	3.05	3.14	3.15	3.13
II-4	説明方法	4.02	4.02	4.11	4.22	4.15	4.17	4.20	4.22	4.14
II-5	話し方・声の大きさ	4.36	4.36	4.38	4.48	4.45	4.52	4.50	4.40	4.48
II-6	コミュニケーション	4.29	4.29	4.32	4.38	4.25	4.37	4.34	4.30	4.38
II-7	教員のリーダーシップ	4.32	4.32	4.36	4.42	4.36	4.42	4.42	4.38	4.34
II-8	授業の雰囲気	4.34	4.34	4.37	4.48	4.42	4.42	4.55	4.43	4.37
II-9	理解しやすさ	4.29	4.29	4.37	4.37	4.38	4.41	4.44	4.40	4.36
II-10	知識・技術の習得	4.13	4.13	4.26	4.23	4.25	4.27	4.30	4.31	4.22
II-11	健康・体力維持	4.22	4.22	4.36	4.33	4.33	4.38	4.42	4.34	4.32
III	総合的な満足度	4.34	4.34	4.39	4.43	4.42	4.47	4.53	4.44	4.43
IV-1	希望種目	4.09	4.09	4.15	4.28	4.35	4.47	4.47	4.40	4.45
IV-2	時間帯	3.80	3.80	3.93	3.92	4.06	4.36	4.44	4.37	4.43
IV-3	次年度履修希望	3.51	3.51	3.56	3.47	3.68	3.81	3.82	3.76	3.94

以上

7. 教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目

授業評価の対象となる教職課程・社会教育主事・日本語教員養成基礎講座の科目数は、教職課程講座 19 科目、社会教育主事講座 2、日本語教員養成基礎講座 5 科目であり、合計 26 科目であった。

「Ⅲの満足度」について、3 講座の科目全体で見ると、今年度の平均値は 4.27 であった。これは、昨年度の平均値 4.11 よりも高い数値となった。その背景には、授業評価の実施時期との関連が考えられる。今年度は後期に実施したが、昨年度は前期に実施しており、後期に実施した年度の数値の方がおおむね高い傾向が出ているからである。この傾向は、教職課程・社会主事講座・日本語教員養成基礎講座科目にとどまらず、他の科目群にも当てはまる全体的な傾向である。さらに、後期に授業評価を実施した平成 27 年度の数値は 4.23 となっており、評価時期を揃えて比較しても、満足度は上がっている。

昨年度の「評価と課題」において、各講座の授業改善が進んでいるとの分析がなされたが、今年度も、改善の傾向には変わりがないといえる。

教職課程・社会教育主事講座・日本語教員養成基礎講座科目の評価及び課題について

(1) 教職課程について

I 受講する姿勢や動機について

I-1 教職科目全体での「学生の出席状況」については、平均値は 4.58 (標準偏差 0.64) であり、昨年度 4.55 (同 0.67)、一昨年度も 4.55 (同 0.66) でほとんど変わりがなく、高い数値である。また、出席率が 90%以上の学生が約 66%、80%台の学生が約 26%となっている。

出席状況は、前期に授業評価を実施した昨年度と比べても 90%以上が増える傾向が進んでおり、教職科目の履修学生の出席状況は全体的に良好であるといえる。現状では、大多数の学生はほとんど休まず履修しているので心配する状況ではない。出席状況の良好な傾向は、全体の傾向でもあるが、教職科目については、教員免許を取得し教師を目指すという明確な目標があり、目的意識の高い学生が履修しているから、と考えられる。

逆に、新たな進路の選択などにより、途中で履修を辞退する場合もある。教職課程登録者数が年度によって変動する状況もあるが、全体に 2 年次以降では、学生の後期授業への出席状況は前期に比べて安定してくると考えられる。他方で、運動部学生では、試合等をやむを得ない欠席もみられる。教職課程を履修する運動部学生は、卒業に必要な単位数を大幅に超える科目の履修のために頑張っているが、他方で、部活動のためと理由付けをして安易に欠席する学生も散見される。欠席届を提出すれば欠席の回数が多くてもよいと誤解している学生や、授業前に次回の授業の欠席届が授業担当者に提出されない場合もある。これらの点について、引き続き学期初めのガイダンスや、授業時に学生に注意を促すことが必要である。

I-2 「授業内容についてノートやメモをとるか」については、平均値は 4.10 (標準偏差 1.00) であり、昨年度の 3.96 (同 1.06) よりは上回ったが、一昨年度の 4.16 (同 1.01) を下回った。ノートやメモをとる学生が「90%以上」及び「80%以上」と答えた学生の合

計でみると約73%であり、昨年度(約68%)まで3年間続けて低下してきた傾向には歯止めがかかった。

平均値の低下については、次の「予習・復習」「質問」などの設問の数値結果なども勘案すると、学生の学修意欲の低下によるとは考えにくい。ただ、近年の受講態度から、ノートをとらずにただ聴いているだけの学生がいるのも事実である。授業の進め方は授業担当者によって多様であるが、中学校、高等学校で生徒にノートをとらせる指導をすることになる学生たちには、積極的な取り組み姿勢を求めている。

I-3 「予習・復習」をするかについては、平均値は1.80(標準偏差1.05)であり、昨年度1.73(同1.03)、一昨年度1.59(同0.85)に比べて、上昇している。「1時間以内」と答えた学生の割合は約75%となっており、昨年度の約84%よりも低下している。このうち「30分以内」は約55%で変わらないことからすると、予習・復習の時間はやや増加しているといえる。今後は過半数を占める「30分以内」の層の改善が求められることになる。

学生からすると、各学部での学修に加えて、多くの教職科目を履修していることから、時間割には空き時間がない状況で、予習・復習に時間を割けていないといった弁明もあるかもしれない。しかし、生徒の学習を促す立場に立つ教員を目指す学生がこの状況では、問題であろう。授業担当者として、予習や復習を促すための課題や宿題として課すなど、引き続き授業に工夫を凝らす努力が求められている。

I-4 「受講の動機」については、③「単位が必要だから」の平均値が78%(昨年度約68%、一昨年度約70%)であり、例年の通り(例年以上に)圧倒的に高い。次いで、⑤「時間帯が空いている」が約12%、④「単位取得が楽」が約11%などとなっている。また、②「教員にひかれて」は1%にとどまる。

教員免許取得のために学生が科目を履修している状況から考えて、③「単位が必要だから」が多いのは当然である。「教職論」など履修学生が多く、教科の種類にかかわらず履修が必要な教職科目については、同一科目を複数設置している場合があるが、教科教育法のように、授業担当者が一人という科目も少なくない。したがって、②「教員にひかれて」を回答できるような選択肢がない科目も多いのが現実である。授業担当者が一人であれば、なおさら学生の関心や意欲を喚起できる魅力ある授業づくりに邁進すべきことは言うまでもないことである。

教職課程事務局では、毎年、学生が学部の専門科目と重複して教職科目を選択・履修できなくなるようなことのないよう腐心をしている。こうした事務局の努力には敬意を表する。時間割編成は毎年複雑性を増しており、学生の利便性を図るべく、努力していきたい。

I-5 「質問に行く(オフィスアワー等)」については、平均値は1.68(標準偏差1.13)であり、昨年度の1.57(同1.02)、一昨年度の1.52(同0.97)に比べて徐々に改善されている。標準偏差は、今年度の設問回答の中では一番高かった。

平均値は決して高くないが、全学講義科目の平均値とほぼ同程度である。これは今後も

全学的な取組の中で改善する必要があるが、その一方で、教員志望の強い学生は、オフアワーなどに質問・相談に来る場合もあり、一部学生に対しては授業担当者あるいは教職専任教員が日常的に対応しているのも事実である。今後も、さらに、学生とのコミュニケーションを密にし、「履修カルテ」などを用いて相談等に気軽に応える関係を築くことが必要であろう。

II 授業の内容や進め方について

II-1 「授業の狙いの明確さ」については、平均値は 4.27（標準偏差 0.90）であり、昨年度の 4.17（同 0.93）、一昨年度の 4.22（同 0.91）よりもやや上昇した。もともと教員免許取得を目指す教職課程の科目は狙いが明確であることに加え、学生も教職課程を履修しているという目的意識をもっており、授業の狙いは多くの学生に理解されていると考えることができる。

II-2 「授業の難易度」については、平均値は 3.27（標準偏差 0.56）であり、昨年度の 3.41（同 0.7）、一昨年度の 3.34（同 0.62）に比べると、低下傾向が窺える。③「ちょうどよい」という学生は約 68%、④「やや難しい」は約 24%であり、昨年度は③約 61%、④約 28%となっており、また「易しい」の回答がほとんどないことから、多くの学生が理解できる範囲に入ってきているとすることができる。

毎年、授業担当者は、履修学生の理解の状況を見定め、微調整を図りながら授業を進めている。今後も、授業の途中ででも学生の反応を見ながら、わかりやすい授業を心掛けていく基本姿勢を大切にしていきたい。

II-3 「講義要項に沿った授業」については、平均値は 4.29（標準偏差 0.81）であり、昨年度の 4.15（同 0.87）、一昨年度の 4.27（同 0.84）に比べてやや上昇した。つまり、ほぼ講義要項に沿って授業がなされているといえる。

講義要項は、授業担当者が学生に示す授業進行の約束である。年間授業計画の作成が求められる中学校や高等学校の教員を目指そうとする教職課程履修の学生に、その意義を周知するためにも、講義要項に沿った授業の実施を引き続きすすめたい。講義要項をあまり読んでいない学生もいるようなので、学生への指導も徹底する必要がある。

II-4 「授業の進度」については、平均値は 3.17（標準偏差 0.52）であり、昨年度の 3.21（同 0.63）、一昨年度の 3.11（同 0.51）と比べてあまり大きな変化はない。③「どちらとも言えない」が約 77%（昨年度約 76%）をしめている。

II-2 「授業の難易度」と関連する設問であるが、履修学生の多くは授業の進度に困難を感じることはないといえる。

II-5 「話し方や声の聞き取りやすさ」については、平均値は 4.42（標準偏差 0.88）であり、昨年度の 4.17（同 1.03）、一昨年度の 4.34 よりは上昇した。

この数値からは、II-2「授業の難易度」やII-4「授業の進度」ともかかわって授業担

当者の授業改善が良い方向に進んでいると読み取ることができる。

Ⅱ－6 「教材等の有効性」については、平均値は 4.34（標準偏差 0.89）であり、昨年度の 4.18（同 0.97）、一昨年度の 4.21（同 0.91）に比べて上昇した。

これも、担当者が資料プリントの配布のほか、映像資料やパワーポイントなど ICT 機器の活用など様々な工夫に努めていることが評価されていると考えられる。引き続き、こうした方向性を維持していきたい。

Ⅱ－7 「学習にふさわしい雰囲気」については、4.43（標準偏差 0.80）であり、昨年度の 4.25（同 0.89）、一昨年度の 4.34（同 0.87）と比べて上昇した。

教職課程科目の授業では、静謐な教育環境が保たれ、改善しているといえる。これは、比較的履修学生数が少ないうえに、教職の授業であることを授業担当者も学生に意識させ、学生もその意識をもって授業に臨んでいると考えられる。

Ⅱ－8 「宿題・課題の適切さ」については、平均値が 4.03（標準偏差 1.03）であり、昨年度の 3.87（同 1.00）、一昨年度の 3.98（同 0.98）よりも上昇した。これは全学の講義科目における同じ設問回答の平均値が 3.6 と比べても高く、適切さはかなり認識されていると考えることができる。

教職課程の科目では、レポートや指導案の作成を宿題・課題として課す担当者が多い。学生には負担と感じることも予想されるが、数値を見ると、学生にはこうした宿題・課題が適切であると理解されていると考えることができる。

他方で、Ⅰ－3「予習・復習」の設問では、あまり予習・復習の時間をとっていないと回答している学生が多いことから、宿題・課題は予習・復習とは別だという意識をもっているのであろう。予習・復習を意図した宿題の提示など、学修の定着に向けた工夫が求められる。

Ⅱ－9 「学習内容の理解」については、平均値が 4.10（標準偏差 0.88）であり、昨年度の 3.89（同 0.96）、一昨年度の 4.05（同 0.91）に比べると上昇した。理解していると肯定的に評価した（⑤+④の合計）学生は約 73%となっており、昨年度より 6 ポイント上昇したが一昨年度並の数値となった。否定的に評価した学生は①②合わせて 4%台であった。

Ⅱ－2 「授業の難易度」やⅡ－4 「授業の進度」などの設問ともかかわっていると考えられるが、履修学生が理解しやすい授業を目指してさらなる授業改善に精励することが求められる。もっとも、中学生や高校生ではない大学生の学びには、ただ理解しやすいだけではなく、課題を提示して学生の追究に委ねる手法もありうる。その場合でも、学生が宿題や復習などを通して理解を深める道筋を授業担当者が準備し、明示するなどの必要がある。

Ⅱ－10 「ものの見方や考え方が深まる」については、平均値は 4.19（標準偏差 0.87）であり、昨年度の 4.05（同 0.92）、一昨年度の 4.08（同 0.96）よりも上昇した。全学の講義科目の同一設問の平均値と比べても高く、おおむね良好な結果となっている。この設問は、教育観や指導観、教科観、生徒観といった「観」にかかわっている。「観」の深まりは、教職課程の科目指導にとって、また教員養成にとってきわめて重要な部分である。今後も、

視野の広い、志の高い教員を目指して教職課程の指導を行っていききたい。

Ⅲ「総合的な満足度」は、授業改善にむけての総括的な評価項目であるが、今年度の平均値は4.26(標準偏差0.85)であり、昨年度の4.05(同0.95)、一昨年度の4.22(同0.90)よりは上昇した。⑤「強くそう思う」、④「そう思う」の合計は約79%であり、昨年度に比べて約4ポイント上昇する一方で、③「どちらともいえない」が約19%を占めている。

全体としては、教職課程の科目の授業に満足している学生が多いことがわかる。しかし、依然として5人に1人は満足していないのであり、今後は、学生全員が満足できるような授業を目指して、工夫改善を行うよう心掛ける必要がある。

各設問への回答の数値は、すべての設問で昨年度の数値を上回った。これは、授業評価の時期による傾向の違い(前期実施の授業評価の方が低い数値が出やすい)を反映していることが考えられる。そこで、同じ後期に授業評価を実施した一昨年度と比べてみたが、I-2「授業内容についてノートやメモをとるか」(今年度4.10、一昨年度4.16)を除いて、数値の改善が見られた。

こうして個々の数値を通して看取できるのは、毎年の授業改善の積み重ねが浸透してきていることである。しかし、現状に慢心せず、すべての学生が満足する授業の実現に向けて改善を図っていくことは当然のことである。そこで、今後に向けて改善すべき方策を2点述べておく。第一に、授業担当者が授業時に個々の学生への指導の充実を図るだけでなく、年度初めの教職課程の全体ガイダンスを利用して、実際に教員を目指そうとする学生を増やすとともに、講義要項の確認を促したり、宿題や課題の意義について周知したりするなどの幅広く学生指導をすすめる。第二に、新学習指導要領に盛り込まれる「アクティブ・ラーニングの視点」(「主体的・対話的で深い学び」)に立った授業改善の趣旨を汲んで、教職課程科目の授業も講義一辺倒に偏らない授業改善を図る。

教育改革はそのスピードを増し、大学の教職教育も大幅な刷新が求められている。本学においても、こうした変革に呼応した授業改善に邁進したい。

(2) 社会教育主事講座について

今年度は授業評価の実施科目が2科目であった。昨年度は実施されなかったため、経年比較はできない。このため、今年度の数値から読み取れる傾向を示す。

I 受講する姿勢や動機について

I-1「学生の出席状況」は4.50で良好であり、I-2「授業内容についてノートやメモをとる」については3.75とやや不十分の結果となった。I-4「受講の動機」は「単位が必要だから」が100%であった。I-3「予習・復習」は2.00で、I-5「質問に行く(オフィスアワー等)」は1.75となり、いずれも全学の講義科目の数値よりも高くなった。

以上の数値からは、学生が社会教育主事の任用資格をめざす目的意識をもって受講している様子を読み取ることができる。

II 授業の内容や進め方について

II-1「授業の狙いの明確さ」は 4.50 と高くなっており、担当教員の授業を通して狙いが学生に十分伝わっているといえる。II-2「授業の難易度」は 3.75、II-3「講義要項との進み具合」も 3.75、II-4「授業の進度」は 3.25 とおおむね進め方についても良好と考えられる。II-5「話し方や声の聞き取りやすさ」は 5.00、II-6「教材等の有効性」も 4.75 と高く、授業担当者の意図は学生に理解されているととらえることができる。さらにII-7「学習にふさわしい雰囲気」も 4.75 と好意的な評価を得ている。

II-8「宿題・課題の適切さ」は 3.50 と他の数値よりは相対的に低い、II-9「学習内容の理解」、II-10「ものの見方や考え方が深まる」はいずれも 4.00 となっており、おおむね良好である。

III「総合的な満足度」も 4.50 と高く、以上の設問の良好な評価を総合的に反映していると考えられる。

社会教育主事講座は受講学生が一桁と少なく、教員は毎回の授業で一人一人の学生とコミュニケーションを取り、理解の状況を看取りながら授業を進めていくことが可能である。今後とも、こうした授業改善に努めていきたい。

(3) 日本語教員養成基礎講座について

日本語教員養成基礎講座の科目は全部で 12 あり、そのうち、2017 年度後期に授業が行われたものが 6 科目、そのうち、「授業改善のためのアンケート」が実施されたものは 5 科目であった。

アンケート結果を見ると、III「総合的に見て、この授業に満足していますか。」の平均値が 4.30（標準偏差 0.98）であり、例年同様、総合的に見て、本講座の授業が高い評価を得ていることがわかる。

以下、アンケート結果を項目別に見ていく。

I 「受講する姿勢や動機について」

1「あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。」、2「あなたは授業での口頭説明や板書内容などについて、ノートあるいはメモをとっていますか。」については、ともに平均値が 4.0 を超えており（1の平均値は 4.70（標準偏差 0.58）、2の平均値は 4.18（標準偏差 0.98））、授業態度が熱心な受講生が多いことがうかがえる。

一方、3「あなたはこの科目について、毎回どのくらい予習あるいは復習をしていますか。」については、平均値が 1.73（標準偏差 1.09）であり、これは、ほぼまったく予習・復習をしていないか、していても 1 時間に満たないものが多いことを示している。

また、5「授業時間以外に先生へ質問に行くこと（オフィスアワー等）がありますか。」については、平均値が 1.74（標準偏差 1.32）であり、多くの者が質問に行っていないようである。ただし、質問に行く者がまったくいないわけではないようである（標準偏差が比較的高いことにそれが現れている）。

4「この授業を受講した動機はなんですか。」（複数回答可）については、「単位が必要だから」を選んだものが最も多く（45.6%）、続いて「この時間帯が空いていたから」（35.4%）、「講

義要項を読んで興味を持ったから」(7.6%)、「単位取得が楽だから」(7.6%)、「教員にひかれて」(3.8%)の順になっている。この結果を、教職課程と比べてみると、教職課程では、「単位が必要だから」(78.2%)が群を抜いて多く、大きく差が開いて、「単位取得が楽だから」(9.7%)、「この時間帯が空いていたから」(9.4%)と続くが、これに対して、本講座では、「単位が必要だから」の選択率が低く、「この時間帯が空いていたから」の選択率が高いことがわかる。

この結果から、本講座の受講生は、必ずしも強い動機づけがあつて授業をとっているわけではないようすがうかがえる。そもそも日本語教員については公的な資格(免許)制度がなく、本講座を修了しても必ずしも日本語教員の資格をとったと認められるわけではない。そのことがこの数字に現れているように思うが、見方によっては、それでも、一定の受講生が集まり、比較的熱心に授業に参加し、授業の満足度も高いというのは、本講座の需要の高さを物語るものではないかと思う。

II 「授業の内容や進め方について」

ここの設問については、いずれも評価が高く、本講座の授業が高い評価を得ていることがうかがえる。

細かく見ると、2と4以外の設問では、平均値が4.0を超えている(2と4とでは、選択肢③が「ちょうど良い」となる)。1「授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。」は平均値4.21(標準偏差0.98)、3「講義要項に沿って授業が行われていますか。」は平均値4.27(標準偏差0.98)、5「話し方や声は聞き取りやすいですか。」は平均値4.51(標準偏差0.64)、6「教材等(教科書・配布資料・板書・OHP・パワーポイント・ビデオ)は授業内容を理解するのに有効ですか。」は平均値4.26(標準偏差0.88)、7「教室内は学習にふさわしい雰囲気には保たれていますか。」は平均値4.36(標準偏差0.83)、8「この授業は、宿題・課題等が適切に出されていると思いますか。」は平均値4.18(標準偏差1.00)、9「内容はよく理解できましたか。」は平均値4.18(標準偏差0.92)、10「この授業を通じてももの見方や考え方が深まりましたか。」は平均値4.37(標準偏差0.83)となっている。

一方、2「授業の難易度はどうですか。」と、4「授業の進捗はどうですか。」については、選択肢③が「ちょうど良い」であるが、2の平均値が3.26(標準偏差0.72)で、4の平均値が3.03(標準偏差0.65)であることに示されるように、③「ちょうど良い」を選んだ者が多く、ほとんどの者が難易度・進捗ともに「ちょうど良い」と思っているようすがうかがえる。

以上をまとめると、本講座は、受講生の動機づけが必ずしも高くないにもかかわらず、受講生に熱心な者が多く、授業に対する評価も高いといえる。これは、担当教員の授業に対する工夫や努力によるところも大きいのではないかと考える。

今後の課題としては、受講生が授業内容をきちんと理解し、もの見方や考え方をさらに深められるように、教員が授業の内容や教え方などについてさらに工夫し改善するのはもちろんのこと、受講生に対して、宿題や課題を充実させるなどして、予習や復習の習慣化を促し、教員への質問なども積極的にを行うように働きかけを行っていくことなどが挙げられるだろう。こういったことが、さらなる授業改善につながると思う。

以上

参考資料

アンケート様式

平成29年度 「授業改善のための学生アンケート」 工学部・実験・実習科目用

このアンケートは、あなたの授業担当教員が学生諸君と共に授業をよりよいものにする目的で実施するものです。建設的な気持ちで、以下の問いにお答え下さい。

授業科目等		担当教員名	
-------	--	-------	--

整理番号		授業科目分類コード		教員コード		曜日		時限		期別	
------	--	-----------	--	-------	--	----	--	----	--	----	--

※アンケートの回答はすべて5段階で評価して○に黒色の鉛筆で丁寧にぬりつぶしてください。

学年	1年	2年	3年	4年	その他									
	○	○	○	○	○									
学科	経営	国語	会計	法政	経済	英米	中国	スペイン	機械	電子	情工	デザイン	国際	その他
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【選択肢の凡例】 5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全くそう思わない

I	受講する姿勢や動機について	5	4	3	2	1								
							II-3	授業の進捗はどうか。 ⑤速すぎる ④やや速い ③ちょうど良い ②やや遅い ①遅すぎる	⑤	④	③	②	①	
I-1	あなたはこの授業にどれくらい出席していますか。	⑤ 90%以上	④ 80%以上	③ 60%以上	② 40%以上	① 40%未満		II-4	説明は分かりやすいですか。	⑤	④	③	②	①
								II-5	話し方や声は聞き取りやすいですか。	⑤	④	③	②	①
I-2	あなたはこの授業のために事前準備を行っていますか。	⑤	④	③	②	①		II-6	教材等(実験機材・教科書・配付資料・板書・OHP・パワーポイント・ビデオ・模型)は授業内容を理解するのに有効ですか。	⑤	④	③	②	①
I-3	あなたはこの授業のレポート作成にまじめに取り組んでいますか。	⑤	④	③	②	①		II-7	教材(実験機材・テキスト・配付資料・OHP・ビデオ・模型など)の使用は適切ですか。	⑤	④	③	②	①
I-4	あなたの受講態度(遅刻状況、授業への集中度、私語の有無などの総合評価)はどうか。 ⑤非常に良かった ④良かった ③普通 ②悪かった ①非常に悪かった	⑤	④	③	②	①		II-8	教室内は学習にふさわしい雰囲気 に保たれていますか。	⑤	④	③	②	①
								II-9	授業の内容はよく理解できましたか。	⑤	④	③	②	①
II	授業の内容や進め方について	5	4	3	2	1		II-10	この授業のテーマに関する知識 あるいは技術が身につきましたか。	⑤	④	③	②	①
II-1	授業の狙いや重要なポイントは明確に示されていますか。	⑤	④	③	②	①		II-11	この授業を通じてものの見方や 考え方が深まりましたか。	⑤	④	③	②	①
II-2	授業の難易度はどうか。 ⑤難すぎる ④やや難しい ③ちょうど良い ②やややさしい ①やさしすぎる	⑤	④	③	②	①		III	総合的に見て、この授業に満足 していますか。	⑤	④	③	②	①

自由意見欄 (自由意見欄が不足する場合は、裏面に記入してください)

○この授業で良かった点は、なんですか。

○この授業で改善してほしい点があれば書いてください。

○この教室の環境(教室の大きさ・エアコン・照明・防音・備品など)について意見や要望があれば具体的に書いてください。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

平成29年度

授業改善のための学生アンケート報告書

－全体集計－

第I部

平成30年3月発行

編集・発行 拓殖大学 FD委員会

〒112-8585 東京都文京区小日向3丁目4番14号

電話 03-3947-7299 (学務部 学長事務室)